

厚生労働科学研究費補助金
健康安全・危機管理対策総合研究事業

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のため
の教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証

令和2年度～令和3年度 総合研究報告書

研究代表者 春山 早苗

令和4（2022）年3月

目 次

I. 総合研究報告		
市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び その活用マニュアルの作成と検証	-----	1
春山早苗		
II. 研究成果の別刷		
1. 新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び 受援の手引きの作成	-----	14
2. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る 教育教材活用のためのマニュアル	-----	40
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	114

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び その活用マニュアルの作成と検証

研究代表者 春山早苗 自治医科大学看護学部 教授

研究要旨：フェーズ0からフェーズ2に焦点を当て、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び教育方法を検討すること、そして、市町村や保健所等が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できるためのマニュアルを作成・検証することを目的とした。また、新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引きを作成した。

1年目にeラーニング及び演習教材の作成並びに教育方法の検討を行い、2年目に検証、その結果を踏まえ教育方法を精練した。教育方法は、市町村保健師等を対象にWEB研修、市町村単位の集合研修、既存の演習教材（避難所HUG）を活用した集合研修とした。本研究班が作成した教材を活用した研修を実施し、プロセス評価及びアウトカム評価をした。また、市町村や保健所が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できるためのマニュアルを作成し保健師への意見聴取により検証した。

結果、自己学習のためのeラーニングのアカウント登録は30都道府県に及び、この1年間で約3倍に増加した。都道府県別アカウント数の差には、研修における活用との関連が推察され、研修の事前課題等として活用することにより研修に臨む準備状況をつくり、研修目標の到達度を高めることや、自治体等の主体的な実施への寄与が示唆された。課題はセキュリティ対策のためにeラーニングに接続できない市町村への対応であった。

本研究で実施した3タイプの研修プログラム及び演習教材はアウトカム評価の結果、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に一定の成果をもたらしていた。この理由として、災害時保健活動遂行に関わる知識等を得られたことや、演習によって災害時の状況や保健活動のイメージ化が図られ、求められるパフォーマンスが見えてきたこと並びに課題の明確化やその解決のための取り組みの具体化につながったことが考えられる。研修を受講しても実践の機会がないために不確実な感覚が残ることや1回の研修で自信を高めることは難しいことから、自己の課題に研修後も取り組んでいけるようフォローアップや継続した研修が必要である。

プロセス評価の結果から、災害時保健活動に関する研修、特に演習では、研修参加者の災害対応を含む経験が様々となる可能性がある中で、いかに災害時の保健活動をイメージできるかが、ポイントとなることが示唆された。イメージ化促進のために、動画を活用した演習教材の作成が今後の課題である。

本研究班で作成した演習教材及びその活用マニュアルは、市町村や保健所等が主体的・自立的に研修を企画・実施・評価することを支持することが示唆された。一方で課題には、WEB研修の場合のWEB会議システム等の研修に必要な操作やトラブル対応への精通等、既存の演習教材活用研修の場合の教材購入の予算確保や様々な物品等の準備を要すること等があった。また、最も大きな課題と考えられたことは、災害対応経験がない場合や研修企画側にそのような保健師がいない場合、演習における状況設定を主体的・自立的に考えること及び演習後の講評や助言が難しいということであった。補完方法としてeラーニング教材の活用が考えられるが、状況設定を考えていくこと等には不十分であり、支援する存在が必要である。支援者として、当該都道府県内の災害対応経験のある保健師や地元看護系大学の教員等が挙げられる。また、本研究班が作成したマニュアルも活用して、研修担当者を対象に“研修の企画・実施のための研修”を開催することも考えられる。

作成した「新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣及び受援のための手引き」案について、令和2年度に1県の市区型保健所1カ所及び県型保健所2カ所の受援に際し、活用し検証した結果、受援の目的の明確化、受援の円滑な開始及び受援側の受援体制整備に関わる負担感の軽減等、一定の有用性及び実行可能性が確認できた。課題は、受援または人的資源投入の目的に応じた応援者への依頼業務の例示の必要性等であった。

研究分担者

安齋 由貴子	宮城大学看護学群・教授
牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科・教授
奥田 博子	国立保健医療科学院健康危機管理研究部・上席主任研究官
島田 裕子	自治医科大学看護学部・准教授
江角 伸吾	自治医科大学看護学部・講師

研究協力者

浅田 義和	自治医科大学医学教育センター・准教授
井口 理	日本赤十字看護大学看護学部・准教授
石谷 絵里	北海道江差高等看護学院・学院長
磯村 聡子	山口県宇部健康福祉センター精神・難病班・主任
尾島 俊之	浜松医科大学医学部・教授
関山 友子	自治医科大学看護学部・講師
濱口 由子	公益社団法人結核予防会結核研究所臨床疫学部・研究員
宮崎 美砂子	千葉大学大学院看護学研究院・教授
吉川 悦子	日本赤十字看護大学看護学部・准教授

A. 研究目的

近年、自然災害が多発し、今後もその発生が予想されている。市町村保健師には災害時に住民の健康生活を守り支えることや保健活動のマネジメントが期待され、それらの役割を發揮するためには平時から災害時に求められる能力を向上させる必要がある。都道府県や市町村ではキャリアラダーに基づく人材育成が推進されているが、中堅期以降の保健師について、健康危機管理能力の獲得状況は他と比べて低いことが明らかになっている¹⁾。この理由として、保健師からは能力獲得のための具体的な知識・技術等がわからない、教育研修の企画が難しい等の声が聞かれる。

本研究班メンバーらはこれまでに、統括保健師の災害時コンピテンシーリスト及び災害に対する統括保健師向けの研修ガイドライン²⁾、並びに、実務保健師の災害時コンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度のリストを作成し、

また実務保健師向けの研修ガイドラインを作成した³⁾。研修ガイドラインでは、いくつかのコンピテンシーに焦点を当て、講義・演習・リフレクションを組み合わせた研修企画方法を示しているが、具体的な教育内容やその方法については十分な検討がなされておらず、他の研究においても見当たらない。市町村やそれを支援する保健師が災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための現任教育をより主体的に実施していくためには、教育教材を含む具体的な教育方法の検討が必要である。

本研究の目的は、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及びその活用マニュアルを作成・検証することである。本研究では、特に市町村保健師の課題とされているフェーズ0(初動体制の確立)からフェーズ2(応急対策期-避難所対策が中心の期間)までの災害時保健活動遂行能力(受援を含む)について、先行研究で整理した実務保健師の災害時コンピテンシーを活かしながら研究目的を追究した。

また、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、特定の地域によっては患者・感染者の増大から同一自治体内の保健師等の応援職員では対応しきれない業務量となった。感染症のアウトブレイクは非人為的災害の一種であり、応援派遣の人材として期待される市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のために新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引きを作成する。

B. 研究方法

1. 2か年計画の本研究の構成

1) 令和2年度

分担研究1: 災害時保健活動に関する教育研修方法に関する文献レビュー

分担研究2: 自己学習のためのeラーニング教材の作成-市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材-

分担研究3: 演習が効果的な知識・技術・態度の抽出と演習教材の作成

分担研究4: 作成した教材を含む教育方法に基づく研修プログラム例の検討

分担研究5: 新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引きの作成

2) 令和3年度

分担研究1: 自己学習のためのeラーニング教材の精練—市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材—

分担研究2: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その1—WEB研修—

分担研究3: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その2—市町村単位での集合研修の試行—

分担研究4: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その3—既存の演習教材(避難所HUG)を活用した集合研修—

分担研究5: 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材活用マニュアルの作成と精練

2. 方法

1) 災害時保健活動遂行能力に関する教材を含む教育研修方法の効果や課題の整理

災害時保健活動の教育方法に関する国内外の文献レビューを行い、教育方法(教育教材を含む)の効果や課題を整理した。

2) 自己学習のためのeラーニング教材の作成と精練

令和2年度に、災害時保健活動に関わる理解や知識の獲得を要する教育内容について、先行研究³⁾を参考にして抽出し、eラーニング教材を作成した。eラーニング教材の評価方法は、ARCSモデルによるプログラム評価および自由記述による意見感想とした。ARCSモデルでは、学習者の意欲を注意(Attention)、関連性(Relevance)、自信(Confidence)、満足感(Satisfaction)の4つの側面からとらえる⁴⁾。本研究では、鈴木⁵⁾のARCS動機づけモデルに基づく授業・教材用評価シート⁶⁾を参考に、注意4項目、関連性4項目、自信4項目、満足感2項目の計14項目について4件法によるプログラム評価を行った。

令和3年度は、前年度に作成したeラーニング教材について、追加するコンテンツの検討及び作成、eラーニング教材の周知状況の確認、研究メンバー間の意見交換により、eラーニング教材を精練・完成させた。

3) 演習が効果的な知識・技術・態度の抽出と演

習教材の作成

先行研究³⁾で作成された実務保健師の災害時コンピテンシーリストの中から、演習が効果的であると考えられるコンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度を抽出し、演習教材を作成した。

4) 作成した教育教材を含む教育方法に基づく研修プログラム例の検討

2)及び3)で作成した教育教材に基づき、研修プログラム例を検討した。

5) 新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引きの作成

文献及び本研究班メンバーの実体験に基づき、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19とする)対策に関わる応援派遣及び受援の課題を整理し、それらを踏まえ、応援側・受援側の事前の準備や協議内容、受援側と応援側との役割分担のポイント等について検討し、チェックリストや様式等を含め手引き案を作成した。COVID-19対策に関わる他の自治体への応援派遣経験がある等の保健師を対象に、手引き案について、有用性や実行可能性等の観点から、eメールによる意見を求め、手引き案を見直し、検証した。

6) 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その1—WEB研修—

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、集合研修は感染対策上の問題から開催が容易ではなくなっている。また、新型コロナウイルス感染症対策のために業務過多となっている状況において、より多くの保健師の研修への参加を促進するためには、研修参加の利便性を高める必要がある。以上の背景から、令和3年度に、前年度に検討した市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材を用いたWEB研修の方法を検証し、その検証結果を踏まえて演習教材を含む研修方法を精練した。

研究方法は、事前課題として求めた「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」の、焦点を当てたコンピテンシー及び知識・技術・態度の市町村保健師による自己評価の結果から、焦点化の妥当性を検証した。また、鈴木⁵⁾のARCS動機づけモデルに基づく授業・教材用評価シート⁶⁾を参考に、自信2項目をアウトカム評価として、関連性2項目及び満足感2項目をプロセス評価と

して、研修後に市町村保健師による5段階評価を行うとともに、同時に収集した研修に対する意見・感想についての自由記載もプロセス評価の参考とした。

さらに、アウトカム評価として、焦点を当てたコンピテンシー及び知識・技術・態度の市町村保健師による自己評価の研修前後の比較を行った。具体的には、自己評価の「自信がない」「あまり自信がない」「概ねできる自信がある」「できる自信がある」に各々1点から4点を割り当て、研修前後の自己評価について、SPSS ver.26を用いて、対応のあるt検定を行った（有意水準5%）。

7) 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その2

ー市町村単位での集合研修の試行ー

前年度に検討した教育教材を用いた研修プログラムを適用し、保健師とともに研修の企画・実施を検討、一部試行し、教材及びプログラムの活用に資する資料を得るために、プロセス評価を行った。研修終了後に、研修プログラムについて、ARCSモデルによる関連性、満足感、自信の各2項目を調査した。また研修を保健師が自立して企画するために何が必要かなどについても意見聴取した。

8) 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その3

ー既存の演習教材（避難所HUG）を活用した集合研修ー

前年度に検討した、既存の演習教材である避難所運営ゲーム 避難所HUG⁶⁾に研究者らが検討した演習教材を組み合わせた集合研修の方法を検証し、その検証結果を踏まえて演習教材を含む研修方法を精練した。避難所HUGは避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして、静岡県が開発した図上訓練である⁶⁾。避難所HUGの活用理由は、本研究で焦点を当てているフェーズに合致している、避難所運営を臨場感をもって疑似体験できイメージ化を図りやすい、チーム運営のあり方を考えられるからである。活用にあたっては静岡県の使用許可を得た。

研究方法は、6)と同様に、焦点を当てたコンピテンシー及び知識・技術・態度の市町村保健師による自己評価の結果から、焦点化の妥当性を検証した。また、ARCSモデルの自信2項目をアウトカム評価として、関連性2項目及び満足感2項目

をプロセス評価として、研修後に市町村保健師による5段階評価を行とともに、同時に収集した研修プログラムの内容、構成や時間配分等に対する意見・感想についての自由記載もプロセス評価の参考とした。

9) 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材活用マニュアルの作成と精練

本研究班が作成したeラーニング教材及び演習教材活用のためのマニュアル案を作成し、分担研究6)～8)の検証結果に基づいて、その内容を精練し、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」の完成版を作成した。

マニュアルの精練にあたっては、研究メンバー間の意見交換並びに主に6)～8)の研修を企画・担当した都道府県の本庁及び保健所並びに市町村の保健師を対象に意見を収集した。その内容は、①「マニュアルを活用して自立的に研修ができそうか。『研修ができそう』という場合、どの様な点が良いか。『難しそう』という場合、なぜ難しいのか」、②「自立的に研修ができそう・難しそうに関わらず、マニュアルについて改善したほうが良いと思う点」、③その他、全体的な意見・感想、とした。

（倫理面への配慮）

2)について、eラーニング教材のプレテストの調査対象候補者には、文書にて研究依頼を行った。文書には研究の趣旨、方法、自由意思及び途中辞退の保証、問い合わせ先等を記載した。webアンケートはeラーニング上に作成し、無記名とし、匿名性の確保のため、研究者らも回答者がわからないように設定した。

eラーニングコンテンツの作成者への倫理面への配慮として、PDF化した資料は受講者がダウンロード可とするが、作成された動画はダウンロード不可で公開することを説明し、同意を得てから作成を依頼した。

5)については、選定した保健師に対し、研究の趣旨及び方法等についてメールで説明し、任意で意見を求めた。手引きの検証にあたっては、当該県の統括保健師に研究の趣旨等について説明し、統括保健師が選定・調整した保健所に対し、統括保健師の希望に沿って関わりをもった。

6)～9)については、自治医科大学医学系倫

理審査委員会の承認を得て実施した（臨大 21-095）。研究参加者に対し、研究の趣旨、方法、研究参加の任意性の保証等について文書で説明した。6）～8）について、研修に参加した市町村保健師から研修及び研修教材の検証のためのデータを収集する場合には、無記名で求め、研究参加同意のチェックボックスにチェックした者を研究参加者とした。

C. 研究結果

1. 災害時保健活動遂行能力に関する教材を含む教育研修方法の効果や課題の文献検討

国内文献については、医中誌 Web 版を用いて、キーワードを「災害」、「教育」、「保健師」とし、「原著」で 2015 年以降の論文を対象とした。計 27 件がヒットしたが、災害がテーマではない論文 10 件を削除し、計 17 件を分析対象とした。

国外文献については、PubMed を用いて、キーワードを「disaster」、「public health nursing」、「training または program」とし、2015 年以降の論文を対象とした。計 145 件がヒットしたが、災害を対象としていない論文や、病院内の救急医療や救急看護の論文を削除し、57 文献を対象とした。さらに、教育研修に関連する内容について述べている 30 論文を分析対象とした。

その結果、国内論文は、プログラムの実施・評価に関する論文 4 件、実態調査 7 件、質的研究 6 件であった。しかし、災害時保健活動に関する教育研修に焦点をあてた研究は行われていなかった。海外文献については、プログラムの実施・評価に関する論文 13 件、スケールの開発が 1 件、実態調査 10 件、質的研究 2 件、文献検討 4 件であった。既存のスケールやフレームワークを活用した研究が行われていた。また、学生を対象とした研究では、無作為比較化試験による研究も行われていた。教育方法については、シミュレーション教育、オンライン学習、現場でのトレーニング等、いくつかの方法を組み合わせたプログラムを開発していた。

2. 自己学習のための e ラーニング教材の作成と精錬

e ラーニングプラットフォームは moodle とし、フォーマットデザインは専門の業者に依頼した。コンテンツの作成にあたっては、宮崎らが作成し

た「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」³⁾を参考に、コンテンツの単元およびコンテンツの柱を検討し、柱は「本 e ラーニング教材について」、「災害支援の基本」、「避難所活動の基本」、「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」とした。令和 3 年度に「受援についての体制づくり」および「危機的出来事に見舞われた人々の支援と支援者自身のケア」を追加・アップロードし、「I 超急性期（フェーズ 0～1）発災直後から 72 時間」「II 急性期及び亜急性期（フェーズ 2～3）中長期」の「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の中の「必要な知識・技術・態度」を充足した。e ラーニング教材の周知状況は、令和 3 年 4 月時点では、21 都道府県でアカウントが作成され、アカウント数は 118 であったが、令和 4 年 5 月時点では 30 都道府県で作成され、アカウント数は 381 で 1 年前の約 3 倍となっていた。一方で、一部の地域のみアカウント数が増加しているという特徴も見られた。

また、視聴完了数は、「2. 災害支援の基本」のコンテンツ群では、新しく追加した「受援についての体制づくり」を除いて、100 視聴を超えていた。「3. 避難所活動の基本」のコンテンツ群では「避難所における保健活動の基本①」がコンテンツ全体の中でも 2 番目に多く、「避難所における保健活動の基本②」も 100 視聴を超えていた。

研究メンバーとの意見交換では、都道府県等が市町村保健師を対象とした研修会で e ラーニング教材が活用されている報告があった。課題として、本研究ではオープンソースである e ラーニングプラットフォーム moodle により教材を作成したが、市町村のインターネット・セキュリティ対策のために moodle に接続できない市町村があることが明らかとなった。

3. 演習が効果的な知識・技術・態度の抽出と演習教材の作成並びに研修プログラム例の検討

先行研究³⁾で作成された実務保健師の災害時コンピテンシーリストから、演習が効果的と考えられるコンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度を、e ラーニング講義で学習できる内容かどうかを基準に抽出し、これを踏まえて作成した。

eラーニングでカバーできないコンピテンシーとは、複数のコンピテンシーにまたがる知識・技術・態度を総合して現実の課題解決に適用される性質のものと考えた。そこで、教材はコンピテンシーの切り口ではなく、状況や場面の切り口で課題を設定することがふさわしいとし、災害発生のフェーズ0～1の段階で、保健活動拠点と避難所の場面を取り上げることにした。また、演習を通じて習得する能力は、思考・判断・意思決定を行動化する能力であり、このような能力の修得に適したシミュレーション演習の教材を作成することとした。研究者間での検討の結果、一つの教材として、新型コロナウイルス感染拡大下の風水害事例、全国の基礎自治体で最も多い人口規模を設定した仮想自治体(市)を作成、その市に所属する複数の立場の保健師を登場させる設定とした。状況設定を現実に近いものとするため、過去の大規模な水害を経験した市の保健師へヒアリングを行い、その結果も考慮して教材を完成させた。

研修プログラム例は、3. で作成したeラーニング教材と前述の演習教材を組み合わせて作成した。演習教材は本研究班で作成した教材の他に既存の演習も含め、研究者らが先行研究⁶⁾において作成した研修プログラムの例も参考に検討した。

研修プログラムの構成は、レクチャー、ワークショップ、リフレクションを組み合わせ、レクチャーには3. で作成したeラーニング教材の視聴を事前学習に位置づけ、集合型の対面学習にてワークショップとリフレクションを行う構成とした。内容は、わが国で発生する可能性の高い地震と豪雨水害の2パターンを作成した。市町村における集合研修の実行可能性から、対面学習は半日を基本とし、前述した演習が効果的として抽出したコンピテンシーに焦点を当てた内容となるよう検討した。対面学習をより効果的なものとするために、グループ編成は役職や所属組織、災害時保健活動従事経験の有無を考慮したものとした。研修の前後には実務保健師のコンピテンシーチェックシート³⁾を用いて評価することを含めた。

4. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その1 —WEB研修—

新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の教材による一都道府県内の市町村保健師を対象とした研修、新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の教材による2カ所の保健所が管内市町村及び保健所保健師を対象に行った研修、豪雨災害事例の教材による一つの都道府県本庁が市町村及び保健所保健師を対象に行った研修、大規模地震災害事例の教材による一都道府県内の市町村保健師を対象とした研修、計5カ所で実施した4つの研修プログラムによるWEB研修を対象とした。

結果、研修のアウトカム評価について、3研修プログラムでは、市町村保健師による自己評価の平均が、焦点を当てた実務保健師の災害時のコンピテンシーでは3～4項目、知識・技術・態度では3～22項目、研修後に有意に高まっていた。その他の大部分の項目についても研修後の自己評価が上がった者がいた。本庁研修担当者が作成した4項目の評価票を用いた1研修プログラムでは、研修前後比較をした3項目中2項目は研修後に平均値が有意に高まっており、他1項目の平均値は研修前より研修後が高かった。ARCSモデルによる全体的な“自信”の2項目は、全研修プログラムについて、5段階評価で平均3以上であった。研修に対する意見・感想には、【災害対応に必要なこと・重要なことの気づき】、【災害対応における役割認識・役割確認の必要性の気づき】、【発災に備えた平時の備えの必要性や日常業務の重要性の気づき】、【所属市町村の災害対応体制の確認や部署内での検討の必要性の気づき】、【自己の課題の気づき】等があった。

一方で、全てのWEB研修プログラムにおいて、いくつかの評価項目(コンピテンシー、知識・技術・態度等)について、1～2人ずつではあるが、研修後に自己評価が下がった者がいた。ARCSモデルによる“自信”については、1研修プログラムでは1項目について5と評価した者はなく、別の1研修プログラムでは各項目1と評価した者が1人ずついた。また、研修に対する意見に基づく課題には、【研修継続やフォローアップの必要性】があった。

研修のプロセス評価について、ARCSモデルによる評価は4研修プログラムについて、関連性も満足感も1項目は全て平均3以上、もう1項目は全て4以上であった。研修に対する意見・感想に

は、【事前課題（eラーニング）の取り組みやすさ】、【WEB研修による参加しやすさ】、【グループワークによる災害対応のイメージ化・自治体（所属）単位での現状認識と検討】があった。

一方で、研修に対する意見に基づく課題には、【研修に臨む準備状況をつくる必要性】、【事前課題の所要時間の提示】、【イメージ化の困難】、【内容の難しさ】、【研修（演習後の解説等）資料の配付・配信のタイミング】、【WEBによる演習への取り組みにくさ】、【スプレッドシート及びエクセルファイルによる情報共有の非効率さ】、【演習課題の目標の設定と進め方の課題】、【グループワーク編成の課題】、【時間の不足感】があった。

5. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その2 ー市町村単位での集合研修の試行ー

県内市町村保健師管理者対象の集合研修において、本研究の目的や方法を説明し、協力の申し出があった自治体の保健師に、本プログラムを用いた研修企画に対する意見を聴取した。また自治体側の意向に応じて、教材とプログラム例を活用し、企画担当保健師と共に研修を企画し試行した。

市町村単位で市町村保健師の災害研修が必要とされる背景には、災害時の保健活動体制整備や災害時保健師活動マニュアル作成において、災害の直接的経験がない自治体で、保健師内や庁内他部署と、災害時保健師活動の実際について共通認識を図る意図がみられた。

ARCSモデルによる“自信”1項目、“関連性”2項目、“満足感”2項目は7割以上が4以上の評価であった。しかし、“自信”のもう1項目の自信がつかなかった(1)ー自信がついた(5)は『どちらでもない』が6割程度であった。

教材活用マニュアル案をみてもらい、自立して研修が企画できるかどうかについて問うた。その結果、「自立して企画運営はできそう」だが、困難な点として、「グループワークに対して指導者の助言が必要であり、企画担当保健師等がこれを担うのは難しい」、「実務家保健師の災害コンピテンシーとeラーニングとの関連付けが分かりにくい」、「災害経験のない者にとって、イメージを共有できるような動画教材がほしい」との意見があった。

6. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材の作成と検証 その3 ー既存の演習教材（避難所HUG）を活用した集合研修ー

一保健所が管内市町村の職員を対象に企画した研修を対象とした。参加者は保健所管内5市町村の職員（保健師16人、他2人）、保健所職員（保健師6人、他4人）、その他2人の計30人であった。

結果、研修のアウトカム評価について、ARCSモデルによる【自信】2項目が5段階評価で3以上であった。しかし、【自信】を5と評価した者はいなかった。

研修のプロセス評価について、ARCSモデルによる【関連性】は高く、【満足感】も低くはなかった。

また、本研修を肯定的に評価する意見には、「事前課題として、eラーニングあり、学ぶポイントを理解した上で研修に参加できたので学びを深めることができた」、「グループワークでゲームを実際に行ったり、災害支援について話し合うことができたので、今後の課題や支援として必要なことが見えてきた」、「所属市町村が毎年行う避難訓練も本番同様の緊張感をもって、同じ事でも繰り返し行う事で、災害時に冷静に対応できるようになると考える」、「防災訓練で避難所HUGの実施を提案したい」などがあった。一方、本研修の課題と考えられる評価には、「避難所HUGの開始前の説明が不十分、特に設定された職員（プレーヤー）の役割について」、「避難所HUG後の避難所における避難者配置や職員の役割分担のあり方の説明が不十分」、「事前課題の量が多い、通常業務を行いながら取り組むのは大変なため、研修時間内に完結するプログラムがよい」などの意見があった。

7. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材活用マニュアルの作成と精錬

研究メンバー間の意見交換では、グループワークでグループ編成を行う場合は、職種や経験年数、被災経験等を考慮する必要がある、グループ編成に関する企画側の準備や留意点について明記する必要があること等が確認された。これらの意見に3タイプの研修の検証結果も踏まえて、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」を作成・精

錬した。

検証した研修を企画・担当した都道府県の本庁及び保健所並びに市町村の保健師の意見・感想には、事前準備から当日の運営、評価までの流れが詳細に示されているため自立的な研修の実施が可能であり、本マニュアルを活用して保健師の意識向上に取り組みたいとの意見があった。一方で、災害時の保健活動のイメージが持てていない職員もいる為、職員が災害時保健活動のイメージが持てるような動画教材が欲しい等の意見があった。

8. 「新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引き」の作成と検証（令和2年度）

「新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣及び受援のための手引き」案を作成し、COVID-19 対策に従事する保健所保健師及びCOVID-19 対策に関わる他の自治体への応援派遣経験のある保健師（5 都道府県の9名）を対象に、有用性や実行可能性等の観点から、eメールにて意見を求めた。その結果に基づき、受援体制の整備と応援体制の整備を分けて示す、応援派遣者の健康管理を加える、受援シート及び応援派遣にあたってのチェックリストを加える等の見直しを行い、完成版を作成した。

1 県に研究班メンバー2名が赴き、市区型保健所1カ所及び県型保健所2カ所の受援に際し、作成した手引きを活用し検証した。その結果、作成した手引きについて、受援の目的の明確化、受援の円滑な開始及び受援側の受援体制整備に関わる負担感の軽減等、一定の有用性及び実行可能性が確認できた。

D. 考察

1. 自己学習のためのeラーニング教材の成果と課題

結果から、本研究班で作成した自己学習のためのeラーニングのアカウント登録数は、1年間で約3倍に増加した。しかし、アカウント数はすべての都道府県が均等に増加したのではなく、一部の地域のみが増加をしていた。これは、都道府県等が主催した研修を通じて市町村保健師が登録したためと考えられる。研修の検証結果から、本eラーニング教材は都道府県及び保健所並びに市町村が主催した

研修において、参加者の研修に臨む準備状況をつくることに有用であることが示唆された。また、研修において研究者が担当した講義や演習後の講評の代わりに活用することも考えられた。本eラーニング教材を自治体等が実施する研修に活用することによって、研修の目的・目標の到達度を高めることや、自治体等が主体的に実施することに寄与すると考えられる。

視聴完了数は、「2. 災害支援の基本」のコンテンツ群や「3. 避難所活動の基本」のコンテンツ群が多かったが、これは災害対応における基本的な知識や避難所活動に関する学習ニーズが高いと考えられる他、前述した都道府県及び保健所並びに市町村が実施した研修における活用との関連が考えられる。

eラーニング教材の活用に関わる課題は、市町村のインターネット・セキュリティ対策のためにeラーニングプラットフォーム moodle に接続できない市町村があることであった。これは、各市町村のセキュリティ設定のためであり、本eラーニング教材へのアクセス制限を解除するなどの情報システム担当との調整が必要になる。あるいは市町村のインターネットを経由しないで、モバイルルーターを活用することで、接続が可能となる。これらの方法について、本eラーニング教材のトップページに注意書きとして掲載をした。また、eラーニングの各コンテンツは情報の更新が必要となってくるため、今後も継続して管理していく必要がある。

2. 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための演習教材及びそれを用いた研修方法の成果と課題

1) WEB研修

結果から、本研究で実施したWEB研修プログラムによって、災害時保健活動遂行に関わる知識等を得たことや、演習によって災害時の状況や保健活動のイメージ化が図られ、求められるパフォーマンスが見えてきた結果、コンピテンシー等の自己評価が研修後に高まったと考えられる。自身のコンピテンシー等の的確な自己評価の結果、研修後に低くなることもあるが、研修に対する意見・感想には様々な気づきがあり、課題の明確化やその解決のための取り組みの具体化につながったと考えられる。以上のことから、本WEB研修プログラム及び演習教材は市町村保健師の災害時

保健活動遂行能力の向上に一定の成果をもたらしたといえる。研修を受講しても実践の機会がないために不確実な感覚が残ることや1回の研修で自信を高めることは難しいことから、自己の課題に研修後も取り組んでいけるようフォローアップや継続した研修が必要である。フォローアップも目的として、静穏期（平常時の備えの時期）のコンピテンシー等にも焦点を当て、これらを評価指標として、研修後、一定の期間においてアウトカム評価をしていくことが必要である。

研修の ARCS モデルによるプロセス評価の結果及び参加者の意見から、WEB 研修は集合研修よりも参加しやすく、また所属や部署単位で参加することができ、現状の共有認識をもち、課題や今後の取組みについて検討する機会となったこと、起こり得る災害事例について時間経過とともに変化する状況のイメージ化を図りながら取り組むケースメソッド式の演習とその教材が、関連性や満足感の評価につながったと考えられる。一方で参加者の意見に基づく課題から、WEB 研修におけるグループワークについては、市町村からの参加者が1人である場合や、市町村毎のワークを踏まえた複数市町村によるグループワークの場合のワーク内容の共有が特に課題となる。各市町村からの複数参加を促すこと、グループメンバーの経験が様々であってもグループワークを深められるよう研修の目的・目標や方法を事前によく伝え、準備状況をつくって参加してもらうことや、中堅期以降の保健所保健師や災害対応経験のある保健師がサポート役としてグループに入ること等が対応として考えられる。複数市町村によるグループワークの方法については、十分な時間をとることにより共有を図ることが一案として考えられるが、さらに検討が必要である。

市町村や保健所等の主体的な実施のためのWEB 研修方法の課題は、安定したネット環境と場所の確保、WEB 会議システム等の研修に必要な操作及びトラブル対応への精通及びこれらの対応や研修の司会進行、必要時、グループワークのファシリテーター等の人員確保である。

2) 市町村単位での集合研修

市町村保健師の災害時保健活動の研修は、都道府県や職能団体、保健所が市町村保健師を対象に研修を企画する場合が主に想定される。一方「実務保健師の災害時対応能力育成のための研修ガ

イドライン」³⁾（以下ガイドライン）では、ガイドライン活用方法のひとつに、「自治体において実務保健師を対象に、災害時の研修を行う意義や必要性の根拠を明確にし、保健師の人材育成計画、又は自治体内での災害対応訓練との関連で位置づけを図るために活用する」をあげていた。結果から、市町村レベルで、保健師対象の災害研修を必要とする状況が明らかになった。

近年災害が各地で多発する状況から、市町村単位で災害時の保健師活動体制を整備する必要に迫られているが、当該市町村に直接的災害経験がない場合、保健師間や庁内他部署との間で、災害時の保健師活動の実際について共通認識を持ち、マニュアル作りや体制整備に取り組むきっかけとしての研修が求められていた。本研究班が作成した教材と研修プログラムは、このための研修に役立つことを確認した。

教材とプログラム例を活用し、ガイドラインに沿うことで研修の企画をスムーズに進めることができた。一方演習の状況・場面と課題の設定において当該市町村の現状を反映させるうえでは、研修企画担当保健師が災害経験がない場合に、サポートが必要であった。またグループワークに対するフィードバックや助言などにおいても、当該市町村の研修企画担当保健師とは別の立場からの助言を求める声があった。災害経験のない市町村において、災害への活動体制整備やマニュアル作成の準備状況をつくるために研修を企画する場合には、災害時保健師活動について研修を受けているか、あるいは多少の災害対応経験のある保健師等が、研修の企画や実施をサポートすることが求められると考えられた。研修をサポートする立場としては、当該市町村を管轄する保健所保健師や地元大学あるいは職能団体が考えられた。

3) 既存の演習教材（避難所 HUG）を活用した集合研修

結果から、研修のアウトカム評価について、ARCS モデルによる【自信】2項目が5段階評価で3以上であったことから、本研修の成果として一定の評価ができた。参加者からは本番同様の緊張感を持って行うことやグループワークが肯定的に評価されており、演習による災害時の状況や保健活動のイメージ化に寄与したと考えられる。一方、【自信】を5と評価した者はいなかった。1回の研修で自信を高めることは難しく、「できな

かった」で終わらないよう、自己の課題を見出し、研修後に取り組んでいけるような働きかけが必要である。静穏期（平常時の備えの時期）のコンピテンシー等を設定し、これらを評価指標として、研修後、一定の期間をおいてアウトカム評価をしていくことが必要と考えられる。

研修のプロセス評価について、ARCS モデルによる【関連性】は高く、【満足感】も低くはなかった。この理由として、参加者の意見から、避難所 HUG により災害時保健活動のイメージ化を図れたこと、グループワークによる意見・情報交換や、eラーニング等の事前課題による研修参加の準備状況を高めたことが考えられる。一方で、避難所 HUG の開始前の説明（設定職員の役割等）や開始後の解説が不十分という意見もあった。自治体で行う現実的な研修時間である半日程度で研修効果を高めるためには、演習のねらいを十分に伝えること、eラーニングを事前課題とする場合には視聴していない参加者もいる可能性があることを想定して、研修プログラム内の講義でポイントを確認したり、事前課題とした eラーニングを研修プログラム内で視聴するなどの対応が必要と考えられる。また、少数ながら、事前課題の量が多いとの意見もあった。事前課題の負担を減らすためには、研修で焦点化したコンピテンシー等のみの自己評価を求めることが考えられる。また、事前課題と研修プログラムとの関係を提示し、研修前に最低、取り組んでもらいたい内容を絞り込んで示すことも考えられる。

市町村や保健所等の主体的な実施のための本研修方法の課題は、活用する避難所 HUG のセットがグループ分必要であることや、研修主催側が準備するモノが多く、手間・暇がかかることである。

4) 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る教育教材の課題

結果から、災害時保健活動に関する研修、特に演習では、研修参加者の保健師経験年数が様々であったり、災害対応経験がある保健師もいれば、ない保健師もいたりする可能性がある中で、いかに災害時の保健活動をイメージできるかが、ポイントとなることが示唆された。本研究班が作成した演習教材によって、そのイメージ化を図れたと評価した研修参加者もいたが、少数ながらイメージ化が図れず演習課題に取り組むことが難しかったという評価もあった。イメージ化促進のため

に、動画を活用した演習教材の作成が今後の課題と考えられる。

3. 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る教育教材活用のためのマニュアル」も活用した市町村や保健所等による主体的な研修実施の可能性と課題

結果から、本研究班で作成した演習教材及びその活用マニュアルは、市町村や保健所等が主体的・自立的に研修を企画・実施・評価することを支持することが示唆された。

一方でマニュアルを活用しても主体的・自立的な研修の企画・実施が困難な課題には、WEB 研修の場合の WEB 会議システム等の研修に必要な操作やトラブル対応への精通及び必要な人員の確保、既存の演習教材を活用した研修の場合の教材購入の予算確保や研修に使用する様々な物品等の準備を要すること等があった。また、最も大きな課題と考えられたことは、災害対応経験がない場合や研修企画側にそのような保健師がいない場合、演習における状況設定を主体的・自立的に考えることが困難であったり、演習後の講評や助言が難しいということであった。このような点を補完する方法として、本研究班が作成した eラーニング教材の活用が考えられるが、地域性や研修参加者及びその所属自治体等の状況に応じた対応が必要となるため、それだけでは不十分であり、支援する存在が必要である。地域性や研修参加者及びその所属自治体等の状況に応じた支援を得るためには、支援者として、当該都道府県内の応援派遣を含む災害対応経験のある保健師や地元看護系大学の教員等が挙げられる。また、本研究班が作成したマニュアルも活用して、都道府県本庁等の研修担当者が、当該都道府県内の保健所や市町村の研修担当者を対象とした“研修の企画・実施のための研修”を開催することも考えられる。地域の健康危機管理の拠点である保健所が、まず管内市町村保健師等を対象とした研修を実施し、その後、各市町村の状況に応じて自立的に研修を実施していけるようにサポートしていくことも一案である。

結果から、マニュアル充実のための課題としては、災害時保健活動に関わる最新情報を研修の中で提供していくことの明記、実務保健師の災害時のコンピテンシーと eラーニング教材とのつな

がりをよりわかりやすく示すこと、既存の演習教材を活用する場合には企画した保健師等がその演習教材の理解を深めることができるための教材の入手方法や使用方法に関する情報の明記、が考えられた。

4. 「新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣及び受援のための手引き」の成果と課題

COVID-19 対策における保健師の応援派遣及び受援は、全国的流行や長期間に及ぶ流行等を背景に、自然災害時とは異なる様相を見せている。結果では、応援派遣の人材として期待される市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のために、手引きを作成し、1 県における検証の結果、一定の有用性及び実行可能性が確認できた。本手引きは COVID-19 のパンデミックという災害（健康危機）への市町村保健師の対応力の向上に役立つものと考えられる。また、感染症のパンデミックという災害（健康危機）時の都道府県等保健所保健師の受援に関する能力の向上および応援派遣人材を送り出すことが期待される教育研究機関・関係学会等の災害支援に関する対応力の向上にもつながると考えられる。

本手引きの課題は、受援または人的資源投入の目的に応じた応援者への依頼業務の例示の必要性、受援体制の整備、応援派遣体制の整備、それぞれに、マネジメントを行う者の確保とその役割や留意点を入れ込むこと及び保健所における COVID-19 対策の体制に財務という視点を入れ込むことと考えられた。

E. 結論

フェーズ 0 からフェーズ 2 に焦点を当て、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び教育方法を検討すること、そして、市町村や保健所等が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できるためのマニュアルを作成・検証することを目的とした。また、新型コロナウイルス感染症対策における保健師の応援派遣及び受援の手引きを作成した。

1 年目に e ラーニング及び演習教材を作成するとともに教育方法を検討し、2 年目に検証、その結果を踏まえ教育方法を精錬した。教育方法は、市町村保健師等を対象とした WEB 研修、市町村単位での集合研修、既存の演習教材（避難所 HUG）

を活用した集合研修とした。それぞれ 1 か所、4 か所、1 か所で、本研究班が作成した e ラーニング教材や演習教材を活用した研修を実施し、プロセス評価及びアウトカム評価を行った。また、市町村や保健所が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できるためのマニュアルを作成し、前述の研修を実施した都道府県・保健所・市町村の研修担当等の保健師への意見聴取により検証した。

結果、自己学習のための e ラーニングのアカウント登録は 30 都道府県に及び、この 1 年間で約 3 倍に増加した。都道府県別アカウント数の差には、研修における活用との関連が推察され、研修における活用によって、研修参加者の研修に臨む準備状況づくり、研修の目的・目標の到達度を高めることや、自治体等が主体的に実施することに寄与することが示唆された。課題はセキュリティ対策のために e ラーニングに接続できない市町村への対応であった。

本研究で実施した 3 タイプの研修プログラム及び演習教材はアウトカム評価の結果、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上に一定の成果をもたらしていた。この理由として、災害時保健活動遂行に関わる知識等を得られたことや、演習によって災害時の状況や保健活動のイメージ化が図られ、求められるパフォーマンスが見えてきたこと並びに課題の明確化やその解決のための取り組みの具体化につながったことが考えられる。研修を受講しても実践の機会がないために不確実な感覚が残ることや 1 回の研修で自信を高めることは難しいことから、自己の課題に研修後も取り組んでいけるようフォローアップや継続した研修が必要である。

プロセス評価の結果から、災害時保健活動に関する研修、特に演習では、研修参加者の保健師経験年数が様々であったり、災害対応経験がある保健師もいれば、ない保健師もいたりする可能性がある中で、いかに災害時の保健活動をイメージできるかが、ポイントとなることが示唆された。本研究班が作成した演習教材によって、そのイメージ化が図れたと評価した研修参加者もいたが、少数ながらイメージ化が図れず演習課題に取り組むことが難しかったという評価もあった。イメージ化促進のために、動画を活用した演習教材の作成が今後の課題である。

本研究班で作成した演習教材及びその活用マニュアルは、市町村や保健所等が主体的・自立的に研修を企画・実施・評価することを支持することが示唆された。一方でマニュアルを活用してもそれが困難な課題には、WEB研修の場合のWEB会議システム等の研修に必要な操作やトラブル対応への精通及び必要な人員の確保、既存の演習教材を活用した研修の場合の教材購入の予算確保や研修に使用する様々な物品等の準備を要すること等があった。また、最も大きな課題と考えられたことは、災害対応経験がない場合や研修企画側にそのような保健師がいない場合、演習における状況設定を主体的・自立的に考えることが困難であったり、演習後の講評や助言が難しいということであった。補完方法としてeラーニング教材の活用が考えられるが、状況設定を考えていくこと等には不十分であり、支援する存在が必要である。支援者として、当該都道府県内の応援派遣を含む災害対応経験のある保健師や地元看護系大学の教員等が挙げられる。また、本研究班が作成したマニュアルも活用して、都道府県本庁等の研修担当者が、当該都道府県内の保健所や市町村の研修担当者を対象に“研修の企画・実施のための研修”を開催することも考えられる。

文献及び本研究班メンバーの実体験並びにOVID-19対策に関わる応援派遣経験がある等の保健師の意見に基づき、作成した「新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣及び受援のための手引き」案について、1県の市区型保健所1カ所及び県型保健所2カ所の受援に際し、活用し検証した結果、受援の目的の明確化、受援の円滑な開始及び受援側の受援体制整備に関わる負担感の軽減等、一定の有用性及び実行可能性が確認できた。課題は、受援または人的資源投入の目的に応じた応援者への依頼業務の例示の必要性等であった

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

・安齋由貴子, 春山早苗. (2022). 国内外の災害時保健活動に関する教育研修方法に関する文献レビュー. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演集, 115.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

引用文献

- 1) 堀井聡子, 奥田博子, 川崎千恵, 他: 中堅期以降の自治体保健師の能力の現状とその関連要因: 「標準的なキャリアラダー」を用いた調査から, 日本公衆衛生雑誌, 66(1), 23-37, 2019.
- 2) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 金谷泰宏, 吉富望, 井口紗織: 災害対策における地域保健活動推進のための管理実践マニュアル実用化研究. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 平成28年度総括・分担研究報告書(研究代表者 宮崎美砂子), 1-140, 2017.
- 3) 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金谷泰宏, 金吉晴, 植村直子: 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 平成30年度総括・分担研究報告書(研究代表者 宮崎美砂子), 1-197, 2019.
- 4) 鈴木克明: 「魅力ある教材」設計・開発の枠組みについて: ARCS 動機づけモデルを中心に. 教育メディア研究, 1(1), 50-61, 1995.
- 5) 鈴木克明: ARCS 動機づけモデルに基づく授業・教材用評価シートと改善方略ガイドブックの作成. 平成12-13年度文部科学省科学研究費基盤研究(C) 研究報告書, 2002.
- 6) 静岡県地震防災センター. 避難所運営ゲーム(HUG)について.
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/study/hinan.jyo-hug.html> (最終アクセス日: 2022/5/20)
- 7) 春山早苗: 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証.

厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和元年度分担

研究報告書（研究代表者 宮崎美砂子），
2020.

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び
その活用マニュアルの作成と検証」

新型コロナウイルス感染症対策における 応援派遣及び受援のための手引き

令和2年8月30日

はじめに

令和2年1月より国内初感染事例が発生した新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、都道府県及び保健所設置市・特別区の保健所（以下、「都道府県等の保健所」とする）における業務が増大し、保健師等の人材確保が必要となっています。

これまでの感染症集団発生に対する応援体制は、同一都道府県内の保健所等の職員により対応されてきました。しかし、このたびの新型コロナウイルス感染症についてはその様相から、どこの都道府県及び保健所管内でも発生する可能性があり、特定の地域によっては感染者の増大から同一都道府県内の保健所等の応援職員では対応しきれない業務量となっています。そのため、市町村及び教育研究機関・関係学会等からの保健師等が応援派遣人材として期待されています。

近年の地震や豪雨水害等の自然災害が頻発している状況に伴い、応援派遣及び受援の機会も増えていますが、健康危機という面で共通する部分はあるものの、感染症対策は主に国と都道府県等が担当する業務であるため、都道府県等の保健所の保健師と市町村及び教育研究機関・関係学会等の間における感染症対策に関する応援派遣・受援の経験が双方ともに少ない状況にあります。特に、新型コロナウイルス感染症のような指定感染症の全国に及ぶ感染拡大はわが国において初めての経験であり、そのような中で感染症法に基づく対策の枠組において応援派遣及び受援の体制整備を図ることが求められています。

こうした状況を踏まえて、新型コロナウイルス感染症対策の第一線機関である都道府県等の保健所に対する市町村及び教育研究機関・関係学会等からの保健師等の応援派遣が効果的に機能する体制を円滑に整備できるよう、応援側・受援側が事前に準備しておくべきことや、協議しておくべきこと、連携して業務を行うために必要なポイント等についての手引きを作成しました。本手引きは、新型コロナウイルス感染症対策にかかわる都道府県等の保健所や本庁への応援経験のある研究者の経験及び新型インフルエンザ（2009NIHI）パンデミック等に関わる保健師活動の文献等に基づき、応援派遣及び受援の課題を整理し、新型コロナウイルス感染症対策に従事する保健師の方々の意見も反映させて作成したものです。チェックリストや様式等も加えて活用しやすいものとなることを目指しました。なお、本手引きは一般的・基本的な内容を示しています。地域における発生状況や活動体制等を踏まえ必要に応じて、補足してご活用ください。

都道府県等の保健所における応援派遣及び受援の円滑な体制整備に役立てていただければ幸いです。

令和2年8月

研究代表者
自治医科大学看護学部 春山早苗

目次

I 本手引きの目的	1
1. 目的.....	1
2. 活用対象.....	1
1) 応援派遣を受入れる組織等・者（受援側）.....	1
2) 応援派遣を送り出す組織等および応援派遣者（応援派遣側）.....	1
II 新型コロナウイルス感染症対策の体制	2
1. 感染症法における新型コロナウイルス感染症対策の体系.....	2
2. 保健所における新型コロナウイルス感染症対策の体制.....	3
1) 新型コロナウイルス感染症対策本部の組織図と事務分掌.....	3
2) 専門職の班編成について.....	4
III 新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣の仕組み	4
1. 厚生労働省の役割.....	4
2. 保健所の体制整備のために期待される人材またはチーム.....	5
IV 受援の必要性の判断	5
1. 受援の必要性の判断と必要人員の算定.....	5
1) 受援の必要性の判断.....	5
2) 必要人員の算定.....	7
2. 受援方針の決定.....	8
1) 受援方針の決定及び受援計画の立案.....	8
V 受援体制の整備	10
1. オリエンテーションおよび応援派遣者への依頼業務に必要な資料の準備.....	10
2. 応援派遣者のための執務スペースおよび資機材の準備.....	11
3. 応援派遣者受け入れのための手続き.....	11
4. 応援派遣者を送り出す組織等との事前の調整.....	11
VI 応援派遣体制の整備	12
1. 応援派遣者を送り出す組織等の準備.....	12
2. 応援派遣者の準備.....	12
3. 応援派遣者の健康管理.....	12
VII 受援側と応援派遣者との連携と協働による活動	13
1. 統括保健師または保健所の総括的立場の保健師の役割.....	13
2. 受援側と応援派遣者との連携と協働のポイントと方法.....	13
3. 受援側の留意点.....	14
1) 基本的な心構え.....	14
2) 時々刻々と変化する情報への対応と情報共有・効率化の試み.....	14
3) 受援する部署の保健師リーダーの役割.....	14

4. 応援派遣者の留意点.....	15
1) 基本的な心構え.....	15
2) 応援派遣に入る初日に理解すること.....	15
3) 役割を担いながら(日を追って)留意すること.....	15
4) 応援派遣チームのリーダーの役割.....	16
5) 複数の応援派遣チームが入る場合の留意点.....	16
受援シート.....	17
受援決定から活動開始までのチェックリスト.....	18
応援派遣者名簿.....	20
応援派遣にあたってのチェックリスト.....	21

I 本手引きの目的

1. 目的

新型コロナウイルス感染症対策の第一線機関である都道府県等の保健所に対する市町村及び教育研究機関・関係学会等からの保健師等の応援派遣が、効果的に機能する体制を円滑に整備できる手引きとなることを目的とした。そのために、応援側・受援側が事前に準備しておくべきことや、協議しておくべきこと、連携して業務を行うために必要なポイント等について示し、チェックリスト等も加えて活用しやすいものとなることを目指した。

2. 活用対象

1) 応援派遣を受入れる組織等・者（受援側）

- ・都道府県の本庁において応援派遣者の受援計画の作成や・調整にあたる統括的な役割を担う保健師（以下、統括保健師とする）または管理期保健師
- ・都道府県等の保健所において応援派遣者の受援計画の作成、運用、調整にあたる総括的立場の保健師
- ・保健所において応援派遣者と連携協働する保健師
- ・都道府県、保健所設置市及び特別区の調整窓口の保健師

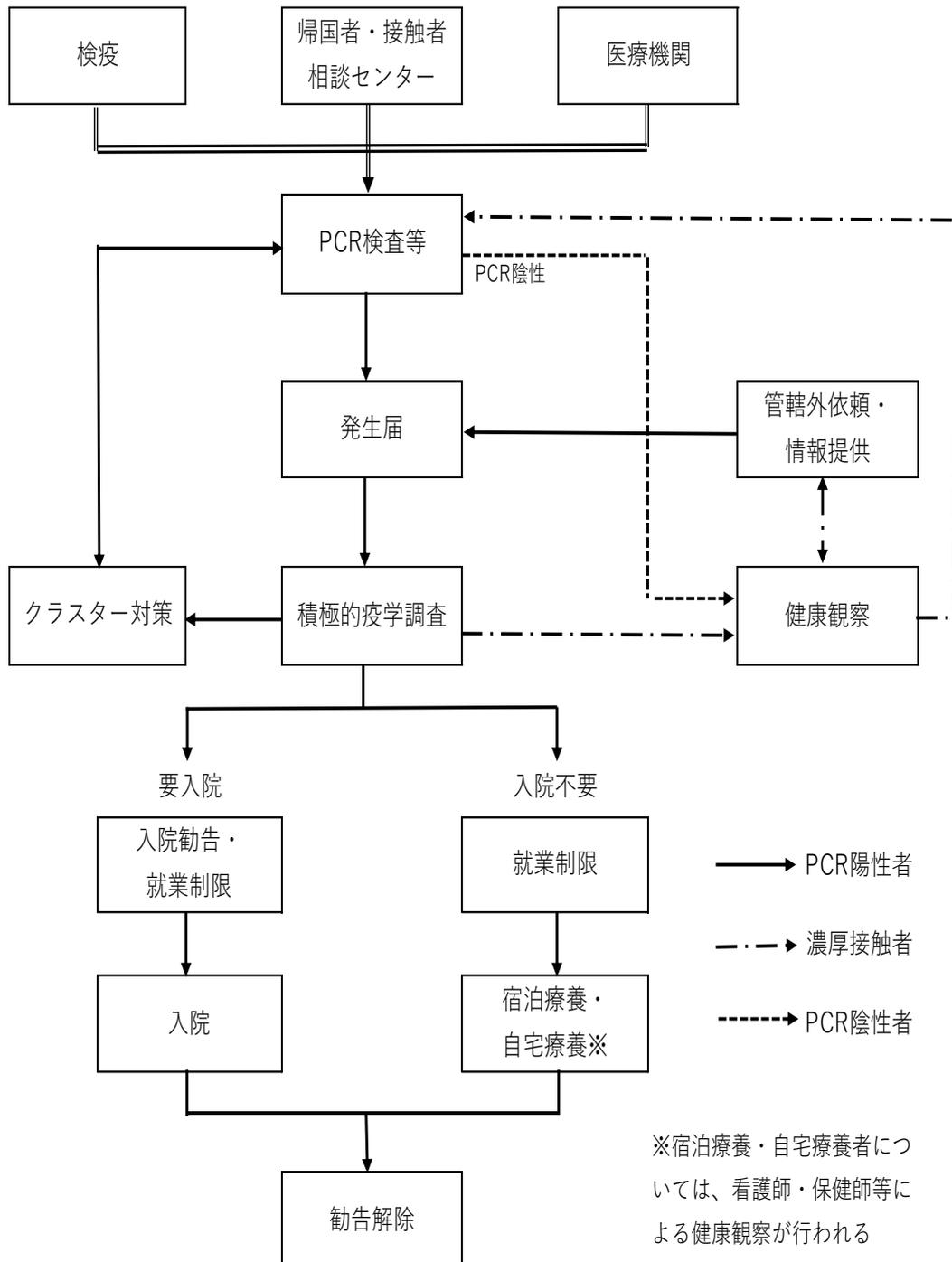
2) 応援派遣者を送り出す組織等および応援派遣者（応援派遣側）

- ・応援派遣者を送り出す自治体及び教育研究機関・関係学会等の調整責任者及び調整担当者
- ・応援派遣者として業務に従事する保健師

II 新型コロナウイルス感染症対策の体制

1. 感染症法における新型コロナウイルス感染症対策の体系

一般的な新型コロナウイルス感染症対策の業務の流れの例を以下に示す。



2. 保健所における新型コロナウイルス感染症対策の体制

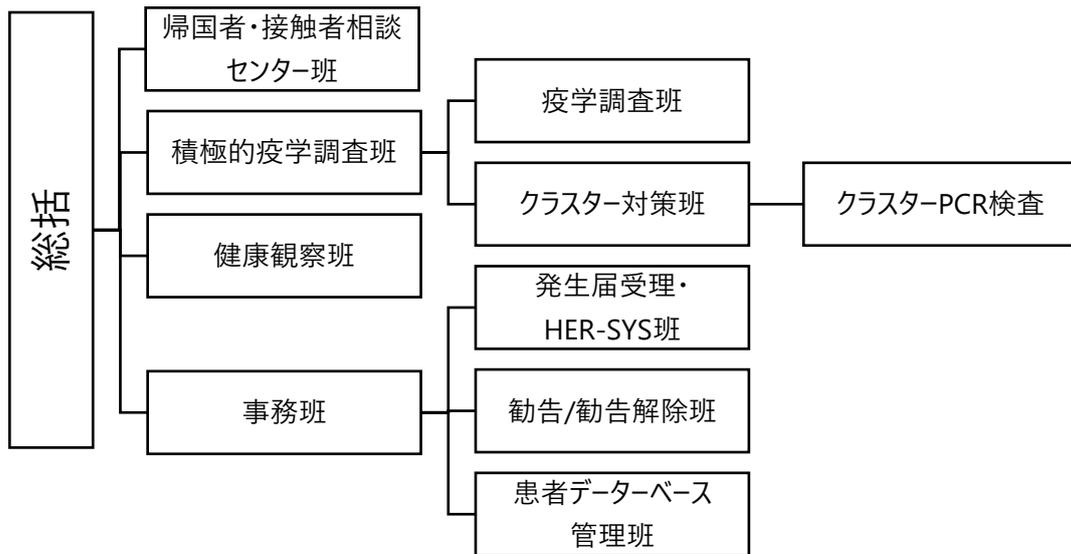
1) 新型コロナウイルス感染症対策本部の組織図と事務分掌

対策本部を設置し全庁的に体制を整備する必要がある。対策本部は本庁に設置する場合もあれば、保健所単位で設置する場合もある。以下に、対策本部の組織と主な業務および責任者の体系の例について示す。

新型コロナウイルス感染症対策本部			
本部長：保健所長 副本部長：感染症対策所管課課長 受援調整担当：企画調整所管課長 総括的立場の保健師			
班	担当所属	主な事務分掌	担当
総務班 班長・副班長	企画調整所管課 食品・環境安全所管課	本部の運営 リスクコミュニケーション (広報・マスコミとの連絡調整) 人員の確保・配置および活動状況の把握 患者等の移送手段の確保・調整 マスク等の医療用物資の確保 PCR検査体制の整備 (地域医師会・医療機関との調整) 物品の在庫管理 検体の回収・輸送 業務マニュアル・引き継ぎ・帳票類の管理	班長
帰国者・ 接触者相談班 班長・副班長	感染症所管課	帰国者・接触者相談センターの運営 一般電話相談の運営 個人情報データベース入力・管理 業務調整・業務マニュアル・帳票類の管理	班長
積極的疫学調査班 班長・副班長	感染症所管課	疫学調査 クラスタ対策(企業・学校・社会福祉施設等) クラスタPCR検査 企業・社会福祉施設等への感染症対策指導 個人情報データベース入力・管理 業務調整・業務マニュアル・帳票類の管理	班長
健康観察班 班長・副班長	感染症所管課	健康観察 入院・宿泊療養の調整 個人情報データベース入力・管理 業務調整・業務マニュアル・帳票類の管理	班長
事務班 班長・副班長	感染症所管課事務	発生届受理手続 入院・就業制限勧告 勧告解除 HER-SYS入力 個人情報データベース入力・管理 業務調整・業務マニュアル・帳票類の管理	班長

2) 専門職の班編成について

班編成は、専門職（保健師、看護師、医師等）や感染症法にかかる行政手続きのエキスパートに応援を加えた人員により構成され、以下にその一例を示す。発生届出数の増加に伴う業務量の増加に合わせて、班の人数や構成職種を見直したり、班の統廃合あるいは分割をしたりする必要がある。また、組織内外における応援人員の複雑な入れ替わりに対応できるよう OJT を含めた引き継ぎ体制を考慮し、窓口の混乱を防ぐために各班に班長を設置することが望ましい。



Ⅲ 新型コロナウイルス感染症対策における応援派遣の仕組み

1. 厚生労働省の役割

厚生労働省の役割は、都道府県等における保健所の体制整備を推進することであり、その具体的な方向性と手法等を提示している。厚生労働省から、令和2年6月19日に発出された通知「今後を見据えた保健所の即応体制の整備について」では、新型コロナウイルス感染症対策に係る保健所の体制強化に関しては、これまでの同対策に係る保健所の業務を踏まえ、感染が大きく拡大する局面も見据えた保健所の即応体制を整備するため、各自治体において全庁的に取り組むこと、並びに、本庁と管内保健所の更なる連携強化はもとより、都道府県と管内の保健所設置市や特別区の一層の連携を図ることが重要であり、都道府県が中心となり、相互に連携の上、体制整備に取り組むことの依頼がなされている。

【参考】厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部「今後を見据えた保健所の即応体制の整備について」（令和2年6月19日）<https://www.mhlw.go.jp/content/000641920.pdf>

2. 保健所の体制整備のために期待される人材またはチーム

新型コロナウイルス感染症については、どの都道府県及び保健所管内でも発生する可能性があり、自然災害とは異なり都道府県間の応援派遣が困難となる可能性がある。また、患者等（患者、無症状病原体保有者）の増加から同一都道府県内の保健所等の応援職員では対応しきれない業務量となる可能性もある。これらのような状況になることも踏まえ、保健所の体制整備のために、以下のような人材またはチームが期待される。

- ・保健所内の感染症担当以外の保健師等技術系職員及び事務系職員
- ・保健所以外の当該都道府県内の保健師等技術系職員及び事務系職員（保健所設置市及び特別区への当該都道府県からの支援を含む）
- ・保健師有資格者のうち現在職についていない者（退職した潜在保健師等）
- ・地域の看護協会等の関係団体の保健師等
- ・教育研究機関・関係学会等からの保健師等
- ・保健所管内市町村保健師等
- ・他の都道府県等自治体の保健師等
- ・民間事業者の派遣看護職（保健師・助産師・看護師）

IV 受援の必要性の判断

1. 受援の必要性の判断と必要人員の算定

1) 受援の必要性の判断

指定感染症である新型コロナウイルス感染症の対策においては、「Ⅱ 新型コロナウイルス感染症対策の体制（P2）」に示したように、感染症法に基づく様々な業務が生じる。当然のことながら、患者等の増加に伴い、業務量も増加していくが、保健所はそれらの業務が滞ることなく迅速かつ的確に対応し、患者等の人権を尊重しつつ、患者等に適切な医療が提供されるようにするとともに、新型コロナウイルス感染症の発生予防及びまん延防止に努めなければならない。

保健所の総括的立場の保健師は、患者等の発生動向を踏まえ、当該保健所の人員のみで対応可能か否かを先も見据えて保健所長らと協議・判断し、人員不足が見込まれる場合には速やかに応援派遣人材の確保を検討する。これは人員不足が生じてからではなく、感染拡大が生じる前に感染拡大を想定して検討しておく必要がある。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う業務量の変化と受援のイメージを図（P6）に示す。受援の必要性を判断する局面として以下のようなことが考えられる。

➤ 患者等が増加している

受援の必要性を判断する患者等の増加状況については、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議による「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和2年5月14日）の「4. 再指定の考え方とモニタリングの必要性について」において感染の状況の判断指標として示された、①直近1週間の人口10万人当たり累積報告数、②直近1週間の倍加時間、③直近1週間の感染経路不

明の症例の割合等を参考にする。

➤ 通常業務が滞る又は中断を余儀なくされる

保健所においては、新型コロナウイルス感染症のみならず、それ以外の感染症の発生時対応及びまん延防止並びに発生予防に関わる業務もある。新型コロナウイルス感染症の感染拡大時においても、感染症業務を含めた保健所機能が維持される体制を整える必要がある。

➤ 保健所職員の時間外勤務が継続・増加している

保健所職員の時間外勤務が継続・増加していることは、当該保健所に対応できる業務量を超えていることを示している。迅速・的確な対応をするためにも、また職員の健康を守るためにも、職員が休養・休暇を確実にとれる体制を整える必要がある。

➤ 通常業務を再開する必要がある

新型コロナウイルス感染症対策が優先事項であったとしても、保健所機能の維持のため、通常業務を縮小または中断している場合には、その再開について検討しなければならない。そのために、通常業務の再開による全体的な業務量の増加に対応できる体制を整える必要がある。

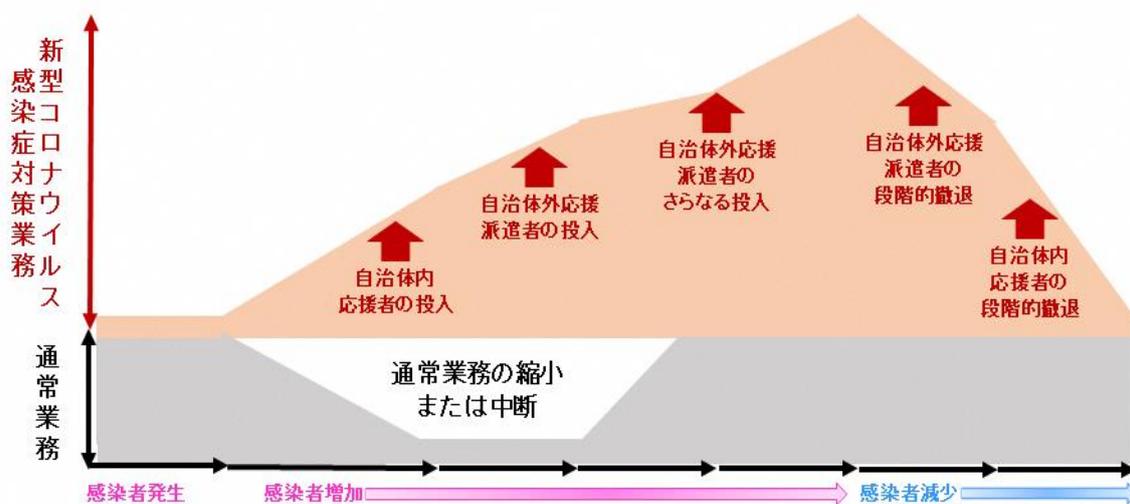


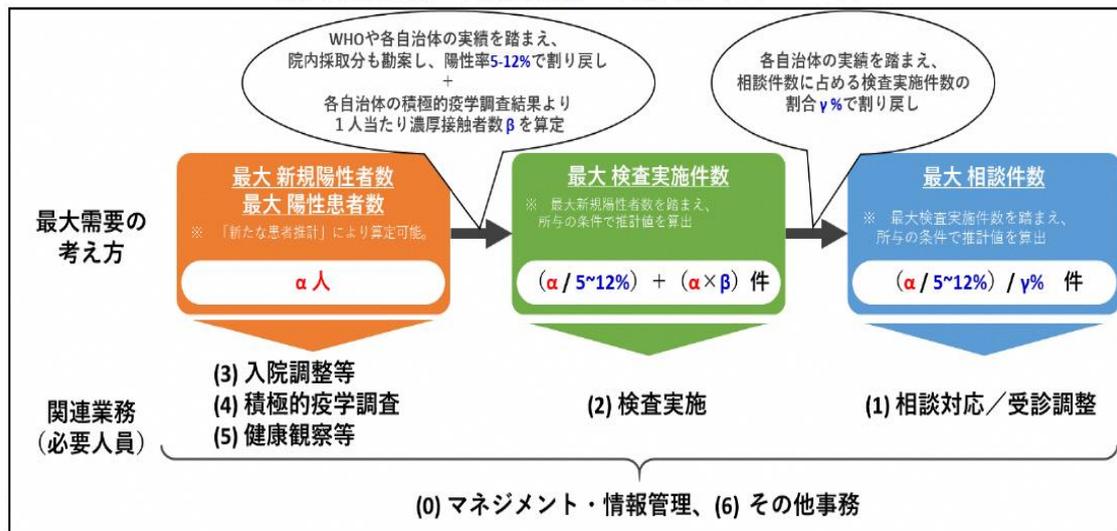
図 新型コロナウイルス感染症対策に伴う業務量の変化と受援のイメージ

2) 必要人員の算定

必要人員を算定するためには、まず最大需要を想定することが必要である。厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部の事務連絡「今後を見据えた保健所の即応体制の整備について」（令和2年6月19日）（Ⅲの1を参照）を参考に、感染ピーク時における最大新規陽性者数（患者推計における最大新規療養者数）、最大陽性者数（患者推計における最大療養者数）、検査実施件数、相談件数などの最大需要を想定する。それらの想定を踏まえ、対応に必要な人員数を技術系職員や事務系職員等の職種別に設定する。

なお、必要人員を確保するためには、民間事業者の派遣看護職（保健師・助産師・看護師）の受入を検討することや、都道府県及び保健所設置市の本庁が非常勤雇用の制度を整備しておくことも必要である。

（最大需要想定と関連業務の全体像（イメージ））



厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部の通知「今後を見据えた保健所の即応体制の整備について」（令和2年6月19日）P6より

2. 受援方針の決定

1) 受援方針の決定及び受援計画の立案

最大需要を想定し、必要人員数の目途をつけたならば、感染拡大の局面も見据えて、依頼する業務内容、時間外や土日も含めた活動体制とその体制に応じた業務ごとの必要人員数、そして、それらの人材を確保するための応援派遣の依頼先、受援期間等を検討し、受援計画を立案して、受援が効率的・効果的に機能するよう調整する。

➤ 業務フローや指揮命令系統等を明確にする

新型コロナウイルス感染症対策に関わる業務は、感染症法に基づき体系化されている。したがって、受援により対応の漏れや不足が生じないようにするためには、全体の業務体制並びに具体的な業務フローや指揮命令系統等を明確にする必要がある。

➤ 応援派遣者に依頼する業務を検討する

保健師等技術系職員の専門的な能力が必要な業務と事務系職員等で代替可能な業務、あるいは当該保健所の職員が担う業務と当該自治体内の職員が担う業務、そして応援派遣者が担う業務、それぞれを整理し、応援派遣者に依頼する業務を決定するとともに、必要時、役割分担や活動体制を見直す。保健所における業務および対応体制・対応策の例（P9）を表に示す。

➤ 業務マニュアルの整備や研修計画を立てる

応援派遣の必要人員数が多くなればなるほど、また長期化すればするほど、応援派遣者が連続して従事することは困難になりやすい。受援による業務が迅速・的確・円滑に遂行されるためには、各業務のマニュアルの整備や研修の実施、あるいは応援派遣者のリーダーの決定や育成等が必要となることから、これらを受援計画に盛り込む。さらには、受援業務をマネジメントできる応援派遣人材の確保等も考えられる。

➤ 受援方針・受援計画を共有する

受援方針及び受援計画については、保健師等の一部の職種や感染症担当部署等の一部の部署だけが知っていればよいというものではなく、保健所内あるいは当該自治体内で共有し、受援により、新型コロナウイルス感染症対策はもちろんのこと、保健所の機能が維持されているか等の評価を行い、必要時、受援方針や受援計画、保健所の体制を見直していく必要がある。

表 保健所における業務及び対応体制・対応策の例

業務内容	対応体制	対応策の例
(0) マネジメント・情報管理		
・体制整備 ・関係機関との調整 ・感染関連情報の管理・入力 ・HER=SYS等の情報管理・入力	・具体的メンバーの設定 ・研修済の応援準備人員の確保(事務系)・リエゾン ・情報管理・入力人員(事務系)	・都道府県本庁からの管内保健所設置市・特別区へのリエゾン派遣等の体制整備 ・情報の報告体制の整備
(1) 相談対応/受診調整		
・コールセンターでの対応 ・帰国者・接触者相談センターの対応	・コールセンター管理者(技術系と事務系の組み合わせ) ・コールセンタースタッフ(外部委託) ・情報管理・入力人員(事務系)	・外部委託(特に土日夜間の体制整備) ・対応マニュアル等の整備と人材育成等を通じた人員確保
・帰国者・接触者外来への受診調整	・医療機関との調整人員(技術系、事務系) ・移送人員(技術系、事務系) ・情報管理・入力人員(事務系)	
(2) 検査実施		
・行政検査の実施	・検査実施人員(技術系) ・検査実施体制の整備人員(技術系、事務系) ・待機場所等の対応人員(技術系、研修済事務系) ・情報管理・入力人員(事務系)	・医療機関や医師会等への外部委託 ・搬送事業者等への外部委託
・検体搬送	・検体搬送人員(研修済事務系)	
(3) 入院・宿泊療養・自宅療養の調整		
・入院調整 ・宿泊療養・自宅療養の調整	・入院・宿泊療養先との調整人員(技術系、事務系) ・患者対応人員(技術系) ・情報管理・入力人員(事務系)	・医師会等への外部委託 ・研修済の事務職員での代替 ・移送事業者等への外部委託
・患者移送 ・感染症診査協議会、入院勧告・就業制限等の事務	・患者移送人員(技術系、事務系) ・事務手続き人員(事務系)	
(4) 積極的疫学調査		
・積極的疫学調査 ・濃厚接触者、感染が疑われる者への検査 ・医療機関や福祉施設等における感染症対策の支援	・積極的疫学調査人員(技術系、事務系) ・施設調査人員(技術系と事務系のチーム体制) ・物品管理人員(事務系) ・情報管理・入力人員(事務系)	・他の業務の効率化により、専門職を集中 ・食中毒の積極的疫学調査の経験を有する職員などの活用 ・外部委託
(5) 陽性者・濃厚接触者対応・健康管理		
・濃厚接触者の健康観察 ・自宅療養者の健康観察	・健康観察・HER=SYS入力補助人員(技術系と研修済事務系職員とのチーム体制)	・HER=SYS等の積極活用、研修済の事務系職員での代替 ・医療機関・宿泊療養先からの報告体制の整備
・入院患者・宿泊療養者の現状把握	・医療機関・宿泊療養先との調整人員(技術系、事務系) ・移送先調整人員(技術系、事務系)(※再掲(3))	
・入院患者・宿泊療養者の症状悪化時の入院調整・移送	・患者移送人員(技術系、事務系)(※再掲(3))	・移送事業者等への外部委託
(6) その他の事務		
・公表情報の整理 ・記者発表対応	・記者発表資料作成人員(事務系) ・記者発表対応者(技術系、事務系)	・定期公表情報リスト等の作成

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部「今後を見据えた保健所の即応体制の整備について」(令和2年6月19日)今後を見据えた保健所の即応体制の整備に向けた指針(参考資料)より作成

V 受援体制の整備

1. オリエンテーションおよび応援派遣者への依頼業務に必要な資料の準備

応援派遣者が依頼業務を遂行するために、受援自治体・地域の概要や特性を把握するために必要な情報を提供できるよう資料等を準備しておく。

地域の基本情報(人口、地理・地勢、歴史、交通機関情報、保健医療福祉の社会資源)、保健所組織図や分掌事務、職員構成などは、平常時に保健所単位で作成、または地区概要・保健所事業概要などを応援派遣者用の資料として確保しておく。新型コロナウイルス感染症対策であらたに追加・変更した体制等を付記して、応援派遣者に速やかに情報提供する。

【応援派遣者へのオリエンテーション内容の例】

- ① 安全・健康確認（応援派遣者の体調確認・緊急連絡先）
- ② 地域の COVID-19 発生情報（感染者数：入院・宿泊療養施設・自宅療養者数等含む、濃厚接触者数または健康観察対象者数，クラスター発生状況，帰国者・接触者相談 / COVID-19 関連相談件数，PCR 検査数等）
- ③ 組織体制（受援保健所における組織体制、応援派遣者は受援側の指揮下にあること、指揮命令系統図、管内関係機関の連絡先）
- ④ 電話相談、積極的疫学調査/健康観察で使用する各種帳票類、手順、ガイド、留意点
- ⑤ 受援自治体の個人情報の取り扱い規程の確認
- ⑥ 任務及び具体的役割
 - ・ 全体方針、ロードマップ、現在の課題等
 - ・ 依頼業務の目的等（応援派遣者に期待すること、従事上の留意点）
 - ・ 応援業務内容、使用する媒体、個人情報の管理
 - ・ 資機材の使用法
 - ・ ミーティング開催時間及び場所(必要時)
 - ・ 収集した情報の報告時間および報告方法、報告先
 - ・ 業務に関する情報の共有方法（連絡ノート、連絡メール、ホワイトボードなど）
- ⑦ その他
 - ・ 受援保健所内での名札等の装着
 - ・ 受援自治体の保健・医療・福祉関係の体系図
 - ・ 最新の医療機関情報（診療対応可能な医療機関等）
 - ・ 他の応援派遣者またはチームの支援状況
 - ・ 自身の健康管理について

2. 応援派遣者のための執務スペースおよび資機材の準備

- 応援派遣者が活動するための執務スペースを確保し、机や椅子を準備する。十分な距離(目安として1.5メートル)またはプラスチックパネル等での遮蔽など、感染予防策の確保に配慮し、また座席表を作る。休憩場所を確保することも必要である。
- 依頼業務に応じて応援派遣者が、執務室の電話・FAX・電源・プリンター・スキャナー等を使用できるようにする。
- 現在、多くの自治体が個別セキュリティ機能の付いたパソコンを職員一台に割り当て、業務に必要なデータ共有を自治体独自のネットワーク上で展開している。そのため、応援派遣者に受援自治体の情報セキュリティ方針を説明したうえで、応援派遣者が使用できるパソコンを受援側が準備するとともに、応援派遣者用のID・パスワードを付与することが望ましい。

【提供資料および受援のために準備する資機材のチェックリスト】

- COVID-19の感染情報、最新の対策等に関する情報（厚労省・都道府県からの通達や各種関連学会が出している対策ガイドなど含む）
- 依頼業務の目的等（応援派遣者に期待すること、従事にあたっての留意点）
- 依頼業務に関するオリエンテーション資料一式（業務内容、マニュアルやガイド、記録・報告様式等）
- 活動拠点(受援保健所)の地図、活動場所
- 受援自治体の保健・医療・福祉の体系図
- 最新の医療機関情報(診療受け入れ医療機関、入院受け入れ医療機関等の名称と連絡先一覧)
- 応援派遣者用電話、パソコン、ID・パスワード
- 他の応援派遣者または活動チームの支援状況
- 緊急時連絡先（受援側・応援派遣側双方の連絡先）

3. 応援派遣者受け入れのための手続き

応援派遣者を送り出す組織等が決定したら、受援側は応援派遣依頼文書を送付するなど必要な手続きを行う。

4. 応援派遣者を送り出す組織等との事前の調整

応援派遣側との連絡窓口となる代表者を受援側自治体におき、応援派遣側に伝えておく。また、初日の集合場所や依頼業務に伴い必要となる資材や個人装備があれば事前に伝えておく。

一方で、保健所内や新型コロナウイルス感染症対策本部に対しても、どのような組織等から応援派遣者が何人入るのか、どこに配置され、依頼業務は何であるのか等を報告し情報共有しておく。事前に電話やWeb会議等で連絡窓口となる代表者との情報共有の機会を持つことが望ましい。

VI 応援派遣体制の整備

1. 応援派遣者を送り出す組織等の準備

応援派遣者を送り出す組織等は、応援派遣人数および期間等の応援派遣計画を立てるとともに、応援派遣前オリエンテーションを行うことが望ましい。応援派遣前オリエンテーションでは、応援派遣の目的および依頼業務を確認・共有し、また感染予防対策を含む健康管理の方法、引継ぎの方法、活動報告の方法等を確認する。応援派遣者を送り出す組織等は、後方支援体制を整える。応援派遣の目的および依頼業務から、応援派遣業務に必要な資材を想定し、受援側で準備されているのか確認する。応援派遣側で準備することを求められた資材については、組織等で準備するのか、個人装備とするのか決定し、必要時、応援派遣者に連絡する。

<必要となる資機材の例>

- ・パソコン、Wifi ルーター（受援自治体がインターネット接続可能なパソコンを応援派遣者用に準備している場合は不要）
- ・モバイルプリンター、モバイルスキャナー（受援自治体のものを共有使用できる場合は不要）
- ・筆記用具（ボールペン、マジック、蛍光ペン、メモ帳）
- ・文房具（ホチキス、ハサミ、のり、ふせん、穴あけパンチ）
- ・情報共有ノートまたはファイル
- ・応援派遣組織の共有物品を入れるための袋またはボックス
- ・感染防護具等（サージカルマスク、手指消毒剤など一般的な感染予防の資材のほか、N95 マスク、ゴム手袋、フェイスシールド等の持参の必要性について確認する）

2. 応援派遣者の準備

応援派遣者は、受援自治体または保健所管内の地域特性、感染発生状況および当該自治体の新型コロナウイルス感染症対策を把握するため、報道発表や当該都道府県等および保健所のホームページ等から情報収集しておく。また、厚生労働省や国立感染症研究所のホームページから国の新型コロナウイルス感染症対策の動向、関連学会が提供している各種情報やツール(ガイドやマニュアル)などを把握しておくことも必要である。

3. 応援派遣者の健康管理

応援派遣者は、派遣前、中、後を通して、日常的な健康管理（日々の体温、体調の確認、記録）に加え、感染リスクの高まる行動は控えるとともに、自身の行動を把握できるよう、健康や行動に関する記録を残しておくことが望ましい。

応援派遣後の応援派遣者の健康管理については、必要時、受援自治体と協議の上、応援日数や応援業務の内容を踏まえ応援派遣側組織内でルール化しておくとい。

Ⅶ 受援側と応援派遣者との連携と協働による活動

1. 統括保健師または保健所の総括的立場の保健師の役割

- 受援の意思決定後、応援派遣側との窓口：受援の目的・期間・内容について、応援派遣側と調整する。
- 組織的な受入れ体制の整備：受援の目的・期間・内容を行政組織で周知し、コンセンサスを得るとともに、組織的な受入れ体制を整備する
- 応援派遣者が業務を行う組織（部署）の保健師リーダーの後方支援：応援派遣者またはチームの受入れ体制、応援派遣者に求める業務内容、提案された業務改善策等について、受援側部署の保健師リーダーの相談に乗り、調整する
- 受援方針の変更に関する意思決定と調整：受援期間の延長等、受援方針を変更する場合の意思決定を行い、受援者側と応援派遣側との窓口となって調整する

2. 受援側と応援派遣者との連携と協働のポイントと方法

➤ 情報共有する

未知なる感染症に関する情報だけでも、疾病のメカニズムと症例定義・感染経路・検査方法と検査体制・治療方法と効果・医療機関の受入れ体制・感染拡大状況等多岐にわたり、これらの情報は日夜、更新される。更に、組織内部の応援体制や記入用紙の変更、陽性者や濃厚接触者の増加に伴う対応方法のルール変更等、受援の現場では状況が変化し続ける。これらの変更・変化について情報を共有し共通認識する。方法としては、受援側のミーティングに応援派遣者も参加する、受援側と応援派遣者が活動開始時に簡単なミーティングをする、受援側と応援派遣チームのリーダーが定期的にミーティングをする等が考えられる。応援派遣が軌道に乗れば、応援派遣者間の引継ぎや個人レベルの意思疎通によって対応できることもあるため、受援の時期や対応の変化等を踏まえて、頻度や方法は見直す。

➤ 相互の動きを理解する

受援側と応援派遣チームが相互の動きを理解することがスムーズな応援活動につながる。双方が主に担っている役割や活動内容、互いの活動の関連についてグループとしても個人としても業務の引継ぎ等の機会に意図的に意思疎通をはかり、相互の動きを理解するよう努める。

3. 受援側の留意点

1) 基本的な心構え

○応援派遣者を受入れる：行政組織は基本的に前例主義ではあるが、これまで通りに仕事をしていただけでは対応不可能な未曾有の状態であることを組織的に共通認識し、応援派遣者を受入れながら持続的に対応する長期戦となることを認識する。膨大な業務の中で、受入れ当初は不慣れな応援派遣者の動きを非効率に感じるがあっても、仕事の一部を信頼して委ねるプロセスであることを信じて受入れる。

○受援側職員の健康管理：受援側職員の長期対応に備え、健康を維持するための休息時間を組織的に確保するよう努める。

2) 時々刻々と変化する情報への対応と情報共有・効率化の試み

○変化への対応：時々刻々と変化する情報や方針の変化を把握し、応援派遣チームを含めた組織全体に適切に情報を発信し、共有する。

○自分達でなくてもできる体制の構築：感染症担当部署の職員でなければできない仕事、同じ自治体の保健師等技術系職員及び事務系職員に任せられる仕事、または応援派遣者・チームに委ねることができる仕事を見極め、全ての仕事に感染症担当部署の職員が関与しなくても対応できる体制の構築を目指す。具体的には、複数の日程にわたり調整が必要な仕事（事業所や学校等で十数人以上の濃厚接触者リストを作成した上で出張検査・健康観察を行う等）は、毎日出勤する担当部署の職員の方が対応しやすい。組織内部の者だけがアクセスできるシステムに入力する仕事（検査の予約、スキャンした帳票の取り込み、最新情報のアップロード等）は、同じ自治体の保健師等技術系職員及び事務系職員に任せることができる。一般電話相談、積極的疫学調査、健康観察等は応援派遣者に委ねることができる。

3) 受援する部署の保健師リーダーの役割

○応援派遣者に求める業務内容の明確化：応援派遣者に求める役割を明確にし、伝える。複数の応援派遣者やチームが入る場合、どの業務をどこに委ねるのか、誰と連携して欲しいのか、説明する。

○応援派遣初日のオリエンテーション：【応援派遣者へのオリエンテーション内容の例】(P10)を参考にしながら、「4-2) 初日に理解すること(P15)」を応援派遣チームのリーダーに説明する。

○受援側の実務窓口：「V 4. 応援派遣者を送り出す組織等との事前の調整 (P11)」における代表者（保健所の総括的立場の保健師等）と連携しながら、応援チームの業務に関する相談対応、役割調整、部署内外の関係職種・関係機関と応援派遣者が連携しやすいような橋渡し、業務改善の検討等を行う。

4. 応援派遣者の留意点

1) 基本的な心構え

応援に入る先は、通常業務に加え、毎日数十件の発生届への対応を数ヶ月に渡り迫られている健康危機発生現場であり、受援体制が未整備な場合もある。以下に示す自然災害時の基本姿勢に加え、長期的対応も視野に入れて持続可能な体制づくりを支援する伴走者としての心構えが求められる。また応援に入ると、感染拡大の原因となる様々な実態や感染拡大防止策に関する課題に気付くこともあるが、倫理原則を踏まえつつ、現状に即して応援派遣者としての役割遂行に努める必要がある。

【参考】応援派遣者としての姿勢（心構え）

- 1.被災自治体主体の原則
- 2.被災自治体の地域特性や組織体制の理解
- 3.被災地の住民及び職員に寄り添った配慮ある行動
- 4.指示待ちではなく自ら考えて行動すること
- 5.現状・課題に対し単なる提案や指摘ではなく、被災地と共に考え実行すること
- 6.チームとしての責任ある行動と引継ぎによる継続的、計画的な課題解決への志向
- 7.住民への直接的な支援と間接的な支援による貢献
- 8.チームワーク、協調性
- 9.保健師としての基本的な能力、災害支援経験や研修など被災地支援の基礎知識の活用
- 10.安全確保・健康管理

(引用)奥田博子ほか:災害時における保健師の応援派遣と受援の検証による機能強化事項の検討:応援派遣保健師の受援自治体へのインタビュー調査. 厚生労働科学研究費補助健康安全・危機管理対策総合研究事業 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証(研究代表者 宮崎美砂子)、平成 30 年度総括・分担報告書、2019.

2) 応援派遣に入る初日に理解すること

- 空間と物品の場所：受援部署（応援派遣業務を実施する現場）の空間と、必要物品の場所を把握する。具体的には、自分の居場所や携行品の置き場所、疫学調査・電話相談の記録用紙や利用できる電話の場所、地図・医療機関情報・関係機関の連絡先などの基本情報を入手できる場所、情報共有のツールと場所、コピー機・事務用品・シュレッダーの場所等、役割遂行に必要な場所である。
- 人員配置と役割分担：受援側保健所（または部署）の人員配置と役割分担を把握する。具体的には、日々の業務内容に関する依頼は誰から受けて誰に報告するのか、役割を遂行するために相談できる人は誰か、誰と役割を遂行するのか、等である。応援派遣チームのリーダー、受援側の保健所長、保健所の総括的立場の保健師、保健師係長、公衆衛生医、他の応援派遣チーム等にも可能な範囲で挨拶し、自ら関係構築を試みる。
- 求められている仕事の概要：求められている仕事の概要を把握する。具体的には、自分が従事する業務の手順、記録内容と記載漏れしてはいけない項目、報告のタイミング等を理解する。

3) 役割を担いながら(日を追って)留意すること

- 全体像の把握：感染拡大の現場では、大きく分けて「一般電話相談」「濃厚接触者・発熱者相談」「陽性者を対象とした積極的疫学調査と療養方針の判断」「濃厚接触者を対象とした情報収集と

保健指導・検査予約」「陽性者と濃厚接触者の健康観察」「クラスター対策としての名簿作成や出張検査」「他自治体との連携」等が並行して行われる。これらの全体像について、どこで、誰が分担しているのか理解することにより、自分が遂行する業務の意義や目的を正しく認識し、よりスムーズに連携しながら役割を担うことができる。

- 応援派遣チームでの情報共有と役割：判断に迷い、相談しながら対応した例や、聞き慣れない用語の意味、クラスター発生コミュニティの生活特性や就労形態等について、応援派遣者間で情報を共有することにより、複数の応援者が、より早く質の高い応援業務を行うことができるようになる。また、応援体制を整備する初期段階においては、応援業務と並行して、例えばマニュアル作成担当、必要物品手配担当、シフト調整担当等、応援チームの中でも役割を適宜分担することにより、チームとして効率的に応援体制を整えることができる。
- 改善の工夫：応援派遣チームとして柔軟に改善しながら体制を整えつつ、受援側もより効率的に業務改善できるように提案する。提案するのは、実現可能かつ効果を見込める改善策であることが望ましく、良い改善策の提案であれば、受援側との信頼関係構築にもつながる。

4) 応援派遣チームのリーダーの役割

- 求められる役割の把握と応援チームの役割分担：応援派遣開始直後は、受援側が応援派遣チームに求めている役割を把握し、複数の応援派遣者に関して、専門分野・応援派遣経験・受援自治体との関係性の有無等を概ね把握し、応援派遣チームに委ねられた業務の中で役割を分担する。
- 応援派遣の初日メンバーへのオリエンテーション：応援派遣者は随時「初日」に入るメンバーが加わるため、できるだけ早く「2) 初日に理解すること」を応援派遣チーム内の誰かが説明できるようにする。
- 受援側・他の応援派遣者またはチームとの窓口：応援派遣チームの窓口として、受援側や他の応援チームとの連携・検討・改善策の提案等を行う。
- 緩やかなチームビルディング：応援派遣者の相互の関わりや体験の共有などを通じた継続的な組織づくりを目指す。応援派遣者の多くは、本来業務を有し断続的な応援派遣活動となることが多いことを踏まえ、メンバーの力も引き出しながら、短期的な成果のみを求めめるのではなく持続可能な体制づくりを意識する。

5) 複数の応援派遣チームが入る場合の留意点

応援派遣側・専門性・期待される役割等が異なる複数の応援派遣チームが同時に入り、一緒に活動することもあれば、役割分担して協力して動くこともある。どのような応援派遣チームとも適切に連携して、より良い活動になるよう協働する。

受援シート

業務名	新型コロナウイルス感染症対策業務	所属 担当部署	
-----	------------------	------------	--

応援者に求める業務	<input type="checkbox"/> 積極的疫学調査及び健康観察のための架電 <input type="checkbox"/> PCR検査後の受検者等への架電 <input type="checkbox"/> 依頼や報告書類等の作成補助業務 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
応援者に求める要件			
応援期間			
活動時間	： ～ ：		
応援人数	1日あたり 名		
集合時間			
集合場所	【平日】 【土日祝】		
執務スペース			
必要な資機材	応援者側	<input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> PC電源 <input type="checkbox"/> WiFiルーター <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> その他	
	受援側	<input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> 電話	
資機材以外で 応援者が用意するもの	<input type="checkbox"/> 食べ物・飲み物		
その他 (飲食に関連情報)	・近隣にコンビニ あり・なし（ ） ・近隣に飲食店 あり・なし（ ） ・飲料自販機 あり・なし（ ）		
旅費・宿泊費等 にかかる負担	<input type="checkbox"/> 応援元自治体の負担 <input type="checkbox"/> その他		

連絡先	平日：
	夜間・休日：

受援決定から活動開始までのチェックリスト

手順1. 活動方針の決定	
1) 活動方針の決定、受援体制計画の立案	
	・ 依頼業務（活動場所、業務内容、時間、期間）
	・ 受援体制（応援派遣チーム配置、受援側職員や他の応援派遣チームとの役割分担など）
	・ 情報共有（記録、ミーティング含む）のための連絡・報告方法
	・ 緊急事態宣言等発令時の方針（確認）
2) 受援担当者の決定	
	・ 主・副責任者、受援調整等にかかる役割分担の明確化
	・ 保健所におけるCOVID-19対策の体制
手順2. 受援決定（連絡受理）	
1) 応援派遣チーム情報の把握	
	・ 応援派遣チームの確認
	・ 組織等名、体制(チーム数、班編成(人数、職種、ローテ期間、責任者など))
	・ チーム装備（ロジティクス機能など）
2) 応援派遣組織等との連絡体制	
	・ 応援派遣組織等との連絡調整方法（担当）決定
3) 受援に係る周知	
	・ 必要な関係者への周知
手順3. 受援活動体制整備	
1) 受援調整・管理	
	・ 応援派遣チーム受け入れシート(受援チーム数)
	・ 応援派遣チーム配置一覧表
	・ 活動管理台帳
2) 活動スペースの確保	
	・ 活動スペースの確保（机、椅子、電源、電話等が使用可能な環境）
	・ 座席表
3) 応援派遣者の活動に必要な物品の準備	
	・ 管内地図
	・ 主要な連絡先（関係機関リスト）
	・ 情報共有のための掲示板（ホワイトボード、ライティングシート等）
	・ ミーティングなどの記録用紙
	・ 連絡手段（TEL, FAX, PC（応援派遣者用ID・パスワード含む）, 無線など）
	・ 応援派遣者側にて事前準備が必要な物品の事前連絡（個人装備とするもの、地域性や季節等にに応じて必要となる物品等含む）
4) 管内の地区概況、組織体制、COVID-19発生情報、当該自治体のCOVID-19対策等に関する資料	
	・ 平常時の管内の概況(管内図、人口、高齢化率、健康課題など)
	・ 当該保健所におけるCOVID-19対策の組織体制
	・ COVID-19発生情報（感染者数（入院・宿泊療養施設・自宅療養者数等含む）, 濃厚接触者数（健康観察対象者数）, クラスター発生状況, 帰国者・接触者相談/COVID-19関連相談件数, PCR検査数等
	・ 行政・関係機関窓口一覧, PCR検査（紹介）医療機関一覧
	・ 入院施設, 宿泊療養施設等一覧

手順4. 支援活動に必要な物品の準備	
1) 電話相談	
	・電話相談マニュアル（主に住民，医療機関，企業・事業者，教育機関，福祉施設等への対応用）
	・地図（PCR検査(紹介) 医療機関/発熱外来のプロット）
	・各種ガイドライン（一般住民，企業・事業者，教育機関，福祉施設等への対応用）
	・相談対応記録(帳票及び集計・報告のための入力用フォーマット)
	・相談者に提供を要する感染予防対策・生活支援施策等の情報に関する資料
2) 積極的疫学調査/健康観察	
	・積極的疫学調査マニュアル，健康観察マニュアル
	・積極的疫学調査調査票，健康観察記録等
	・入院，宿泊療養，自宅療養の対象者に提供を要する情報に関する資料
3) その他	
	・電話
	・データ入力，資料作成等に関わる資機材（パソコン，プリンター，モデムなど）
手順5. オリエンテーションの準備	
	・オリエンテーションの運営担当者の決定
	・オリエンテーションの開催・運営方針の決定
	・情報共有を要する資料(管内の概況及び現況、組織体制・活動方針，COVID-19発生状況，クラスター発生状況，留意事項など)
手順6. 受援（受付、オリエンテーション）	
1) 受付	
	・オリエンテーション運営担当者挨拶，受援名簿記載，保健活動拠点(場所)の説明
	・活動管理台帳（受援活動モニタリング，報告集約）
	・関係者紹介
2) オリエンテーション	
	・活動方針(課題，優先順位，組織体制，役割分担，留意点など)の共有
	・支援活動に必要な情報の共有
	・電話相談、積極的疫学調査/健康観察のトレーニング
	・ミーティング議事録の作成
手順7. 支援活動	
1) 支援活動報告	
	・活動報告の受理(記録など)
	・翌日(以降)業務の確認など
	・活動管理台帳への記載(入力)
2) 支援活動結果集約	
	・会議（COVID-19対策本部など）や関連部署への報告
3) その他	
	・不足する資機材や資料の補充

応援派遣者名簿

	氏名	住所	電話(日中)	電話(夜間休日・緊急時)	メール	勤務先名	勤務先の職位	職種	依頼文宛先(所属長名等) 【記入例】学長・厚労太郎	備考
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
									合計(名)	

応援派遣にあたってのチェックリスト

1. 受援側と協議・確認しておくべきこと

・応援派遣の目的、背景
・応援派遣業務（活動場所、業務内容（指示命令系統含む）、人数、活動時間、期間）
・当該応援派遣側組織以外の応援派遣組織（者）/役割及び連携・協働方法
・応援派遣者の活動環境（休憩場所及び休憩時間含む）
・応援派遣者の健康管理の方法
・受援側で準備されている資機材及び応援派遣側で準備すべき資機材
・受援側窓口及び受援側との連絡調整方法

2. 応援派遣計画の立案

・応援派遣体制（応援派遣者の選定、応援派遣チームの編成・シフトなど）
・応援派遣者の健康管理の方法
・応援派遣者のオリエンテーション方法の検討と企画
・後方支援体制（応援派遣中の後方支援窓口や後方支援方法等）

3. 応援派遣側または応援派遣者が事前に収集しておくべき情報

・受援自治体または保健所管内の地域特性（交通網・駅、繁華街や観光施設等含む）
・感染者の発生状況及び当該自治体の新型コロナウイルス感染症対策（報道発表や当該都道府県等及び保健所のホームページ等から）
・国の新型コロナウイルス感染症対策の動向（厚生労働省や国立感染症研究所のホームページから）
・関連学会による新型コロナウイルス感染症に関する情報やツール（ガイドやマニュアル）

4. 応援派遣者の活動に必要な物品の準備（応援業務内容によって異なる、また受援側で準備される場合は除く）

・管内地図
・パソコン、Wifiルーター
・モバイルプリンター、モバイルスキャナー
・筆記用具（ボールペン、マジック、蛍光ペン、メモ帳等）
・文房具（ホチキス、ハサミ、ふせん、のり、穴あけパンチ等）
・情報共有ノートまたはファイル
・応援派遣組織の共有物品を収納する袋またはボックス
・感染防護具等（サージカルマスク、手指消毒剤等の一般的な感染予防の資材、N95マスク、ゴム手袋、フェイスシールド等）

5. 応援派遣者へのオリエンテーション

・応援派遣の目的とその背景
・応援業務及び指示命令系統・受援側相談窓口を含む活動体制
・派遣前、中、後の健康管理の方法
・派遣中の後方支援体制（窓口）及び後方支援の役割・方法
・個人装備する資機材等
・事前に収集しておくべき情報
・引継ぎの方法
・活動報告の方法

令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び
その活用マニュアルの作成と検証」

研究代表者	春山 早苗	自治医科大学看護学部・教授 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 311-159 TEL/FAX 0285-58-7509
研究分担者	島田 裕子	自治医科大学看護学部・講師
研究協力者	井口 理	日本赤十字看護大学看護学部・准教授
	濱口 由子	公益社団法人結核予防会結核研究所臨床疫学部・研究員
	吉川 悦子	日本赤十字看護大学看護学部・准教授

令和2-3年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上のための教育教材及び
その活用マニュアルの作成と検証」

市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る 教育教材活用のためのマニュアル

令和4年3月

はじめに

近年、自然災害が多発し、今後もその発生が予想されています。市町村保健師には災害時に住民の健康生活を守り支えることや保健活動のマネジメントが期待され、それらの役割を發揮するためには平時から災害時に求められる能力を向上させる必要があります。都道府県や市町村ではキャリアラダーに基づく人材育成が推進されていますが、中堅期以降の保健師について、健康危機管理能力の獲得状況は他と比べて低いことが明らかになっています。この理由として、保健師からは能力獲得のための具体的な知識・技術等がわからない、教育研修の企画が難しい等の声が聞かれます。

先行研究において、統括保健師の災害時コンピテンシー及び実務保健師の災害時コンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度が明らかにされており、また統括保健師のための災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン（宮崎ら，2018）及び実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（宮崎ら，2020）が作成されています。これらの研修ガイドラインでは、いくつかのコンピテンシーに焦点を当て、講義・演習・リフレクションを組み合わせた研修企画方法が示されています。本研究班では先行研究の知見を踏まえて、実務保健師の災害時保健活動の遂行に求められる知識・技術・態度の基本を獲得するためのeラーニング教材を作成しました。また、実務保健師の災害時コンピテンシーに関わる演習の方法や内容を具体的に検討し、演習教材も作成しました。

本マニュアルは、市町村、それを支援する保健所や都道府県が、前述したeラーニング教材や演習教材を効果的に活用して、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の向上を目指した教育研修を主体的に企画・実施できることを目的に作成しました。複数の研修プログラム例を掲載していますが、これらは実際に市町村保健師等を対象に研修として実施し、その評価に基づき改善を図ったものです。また、新型コロナウイルス感染症のまん延により従来どおりの集合研修が難しくなっていることも鑑みて、WEB研修の場合についても触れ、研修プログラム例も掲載しています。

本マニュアルは“市町村保健師の災害時保健活動遂行能力”に焦点を当てていますが、言うまでもなく、発災時には市町村内の他部署・他職種間の連携や市町村と保健所との連携が重要となります。災害時保健活動に関する研修についても、市町村保健師のみを対象としたものは少なくなっているように思います。本マニュアルは、他部署・他職種を交えた研修や市町村と保健所との研修においても活用することができ、発災時の連携・協働の基盤体制づくりに役立つものと考えています。また、演習の状況設定や課題については、各自治体や組織の状況に合わせて、また過去の被災経験等も参考にアレンジしていただくと、より有用な研修になると思います。

本マニュアルに示したような研修のみで災害時保健活動の遂行能力を高めることは難しいと考えます。しかし、研修やそれを企画する過程が、実務保健師の災害時コンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度を意識化し、保健師自身や組織の強みと課題を認識する機会となり、強みも活かして課題へ対応するための平時からの取組につなげていただければ幸甚です。

令和4年3月

研究代表者
自治医科大学看護学部 春山早苗

目次

I 本マニュアルの目的	1
1. 目的.....	1
2. 活用対象.....	1
II 本マニュアルで活用している教育教材	2
1. eラーニング教材.....	2
2. 演習教材.....	5
III 研修プログラムの作成	6
1. 研修の目的を考える.....	6
1) 対象.....	6
2) 目的・目標.....	6
2. 研修プログラムを作成する.....	6
1) 時間.....	6
2) 研修プログラムの構成.....	6
3) 教材の選定.....	6
IV 研修の進め方	7
1. 事前準備.....	7
1) 準備すること.....	7
2) 準備するモノ.....	9
2. 当日の準備／研修の開始.....	10
1) 当日の準備（設定）／会場設営.....	10
2) オリエンテーション.....	10
3) 実施.....	10
3. その後につなげる／評価.....	11
1) リフレクション／アクションプラン.....	11
V 研修プログラム例	12
1. 研修プログラムA（一都道府県内の市町村保健師を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	12
2. 研修プログラムB（一保健所管内の市町村及び保健所の保健師等を対象としたWEB研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	19
3. 研修プログラムC（都道府県主催の市町村及び保健所の保健師を対象としたWEB研修） －豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	25
4. 研修プログラムD（保健所主催による管内市町村の保健師を対象とした集合研修またはWEB研修） －大規模地震事例の演習教材を活用したプログラム－.....	34
5. 研修プログラムE（市町村保健師を対象とした集合研修） －大規模地震発生時を想定した既存の演習教材（避難所HUG）を活用したプログラム－.....	41
6. 研修プログラムF（市町村における全保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	48
7. 研修プログラムG（都道府県主催の市町村及び当該都道府県の保健師を対象とした集合研修） －新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－.....	56
参考資料	
「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」.....	62

I 本マニュアルの目的

1. 目的

市町村やそれを支援する保健所が災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための現任教育をより主体的に実施していくためには、教育教材を含む具体的な教育方法の検討が必要です。本マニュアルは、市町村や保健所が教育教材を効果的に活用して教育研修を企画・実施できることを目的に作成しました。本マニュアルでは、特に市町村保健師の課題とされているフェーズ0からフェーズ2（受援を含む）までの災害時保健活動遂行能力向上のための教育研修の企画・実施に焦点を当てています。

2. 活用対象

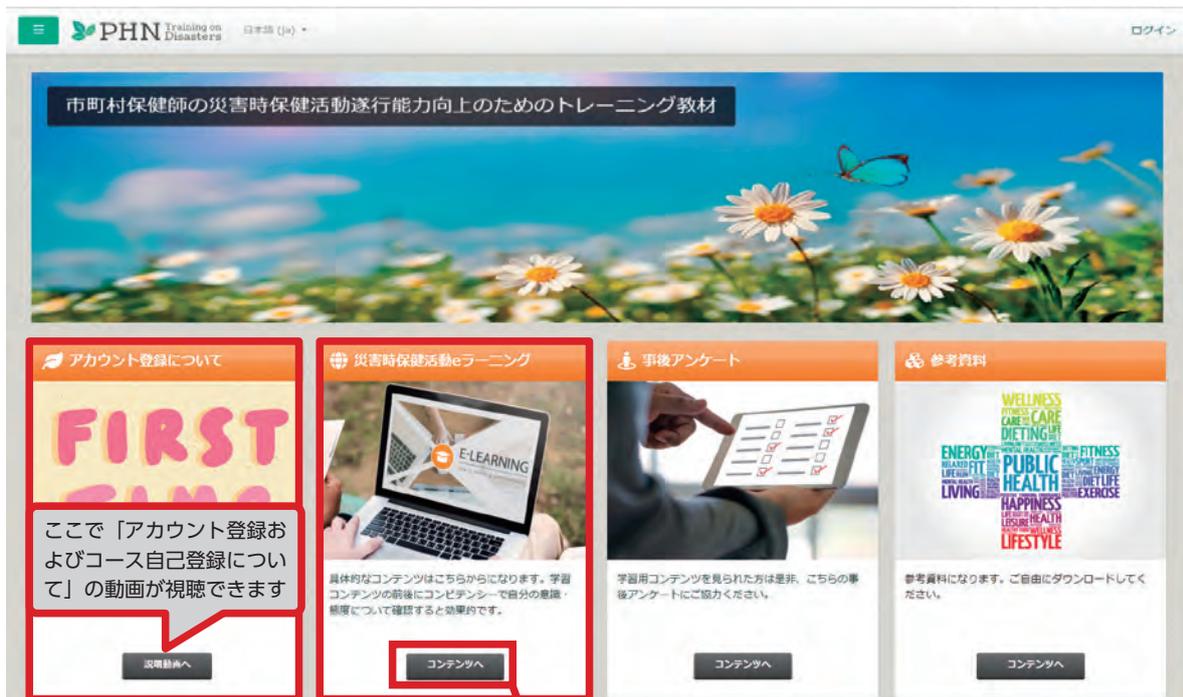
活用対象は、主に都道府県や保健所、市町村の災害時保健活動遂行能力向上に係る研修を企画・実施する保健師です。

Ⅱ 本マニュアルで活用している教育教材

1. eラーニング教材

eラーニング教材の作成にあたっては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」¹⁾（巻末参考資料）を参考に、コンテンツの単元およびコンテンツの柱を検討しました（表1）。各コンテンツに含まれる習得すべき知識・技術・態度の内容を表2に示します。

このeラーニングは、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」<https://dphn-training.online/moodle/> にアクセスし、アカウントを作成すれば、誰でも視聴することができます。eラーニングを初めて視聴する際に、「アカウント登録およびコース自己登録について」の説明動画を確認してください。



上記画面の『災害時保健活動eラーニング』のコンテンツをクリック後、下記画面で新しいアカウントを作成してください。

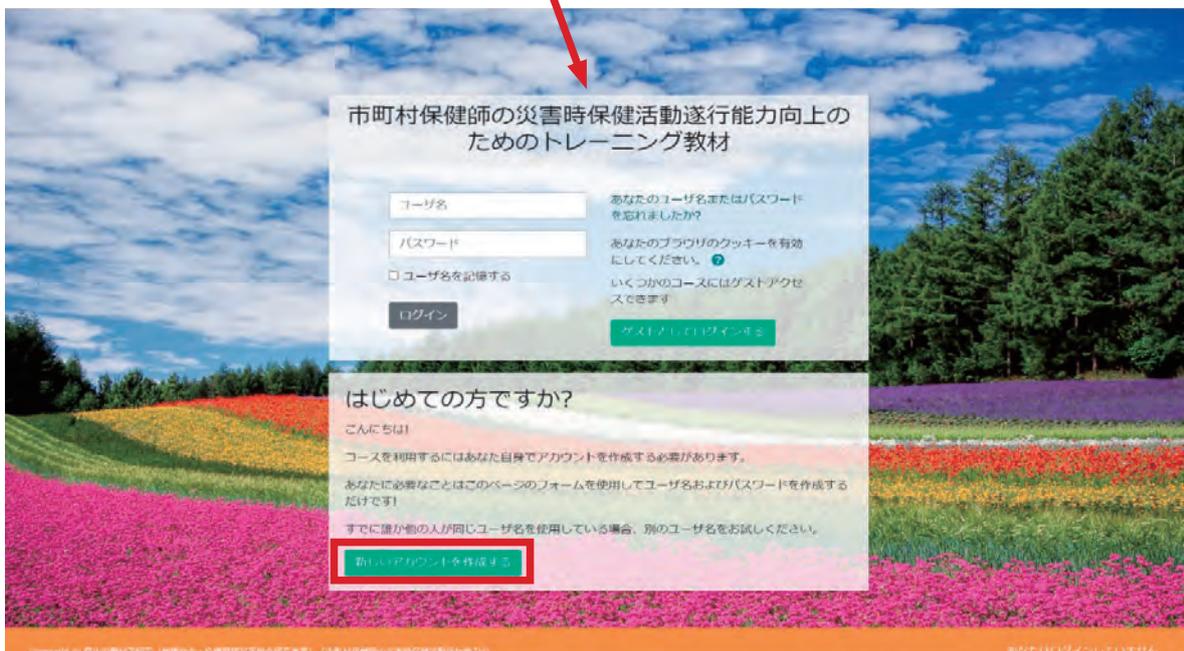


表1 eラーニングのコンテンツ内容と目標

目標と内容		所属	氏名	時間
1. 本eラーニング教材について		自治医科大学看護学部・教授	春山 早苗	5分
2. 災害支援の基本				
目標	災害支援の基本を理解する			
内容	1)災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制	和歌山県新宮保健所兼 串本支所・所長	池田 和功	22分
	2)フェーズ毎の保健活動	千葉大学大学院看護学研究 科・教授	宮崎 美砂子	21分
	3)都道府県、保健所、市町村、各々の役割と連携	千葉大学大学院看護学研究 科・教授	宮崎 美砂子	12分
	4)災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み	国立保健医療科学院健康危機 管理部・上席主任研究官	奥田 博子	24分
	5)受援についての体制づくり	国立保健医療科学院健康危機 管理部・上席主任研究官	奥田 博子	20分
3. 避難所活動の基本				
目標	避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防するために必要な知識を習得する			
内容	1)避難所運営と保健活動の基本① 避難所運営と保健活動の基本②	自治医科大学看護学部・教授	春山 早苗	13分 15分
	2)避難所における迅速アセスメント	浜松医科大学医学部・教授	尾島 俊之	18分
	4)災害時の二次的健康被害の理解	栃木県県南健康福祉センター・ 地域保健部長補佐	中村 剛史	17分
	5)心理的応急処置(サイコソジカル・ファースト エイト:PFA)危機的出来事に見舞わ れた人々への支援と支援者自身のケア	国立精神・神経医療研究セン ター 精神保健研究所 行動医 学研究部 災害支援研究室	大沼 麻美	19分
	4. 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応			
目標	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた避難所における保健活動に必要な知識を習得する。			
内容	1)新型コロナウイルス感染症とは① 新型コロナウイルス感染症とは②	自治医科大学附属病院感染制 御部・部長・感染症科・科長	森澤 雄司	22分 14分
	2)新型コロナウイルス感染症対策の 基本	結核研究所 臨床・疫学部 疫学情報センター	濱口 由子	11分
	3)避難所における新型コロナウイルス 感染症への対応① 避難所における新型コロナウイルス 感染症への対応②	奈良県立医科大学感染症 センター・感染管理室	笠原 敬	17分 14分

表2 コンテンツの目標と内容と習得すべき必要な知識・技術・態度の内容

目標と内容	(フェーズ0～1) 習得すべき知識・技術・態度	(フェーズ2～3) 習得すべき知識・技術・態度
1. 本eラーニング教材について		
2. 災害支援の基本		
目標	災害支援の基本を理解する	
内容	1) 災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制	
	2) フェーズ毎の保健活動	
	3) 都道府県、保健所、市町村、各々の役割と連携	I-1. 被災者への応急対応 ・指示命令系統の理解 ・統括保健師と実務保健師の役割分担の理解 ・応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解 I-2. 救急医療の体制づくり ・統括保健師を補佐する役割の理解 ・地域防災計画における医療救護体制の理解 I-5. 外部支援者の受入に向けた準備 ・外部支援者の種別・職務の理解 ・被災現場の保健師と外部支援者の協働の理解 ・外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解 II-4. 外部支援者との協働による活動の推進 ・チームビルディングの方法の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用
	4) 災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み	I-1. 被災者への応急対応 ・応援の必要性の判断 ・応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解 I-5. 外部支援者の受入に向けた準備 ・外部支援者の種別・職務の理解 ・被災現場の保健師と外部支援者の協働の理解 ・外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解 II-4. 外部支援者との協働による活動の推進 ・チームビルディングの方法の理解 ・保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用
3. 避難所活動の基本		
目標	避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防するために必要な知識を習得する	
内容	1) 避難所における保健活動の基本① 避難所における保健活動の基本②	I-1. 被災者への応急対応 ・保健福祉的視点からのトリアージ ・要配慮者の判断基準 ・保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解 ・自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施 ・災害時の二次的健康被害の理解 ・避難先での被災者の健康状態の把握 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施 ・急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する理解 I-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援 ・安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断 ・要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント ・連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 ・感染症予防・食中毒予防に関する技術 ・災害時における啓発普及の技術 II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり ・二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント II-6. 自宅滞在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応
	2) 避難所における迅速アセスメント	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施 I-4. 被災地支援のアセスメントと支援ニーズの明確化（迅速評価） ・避難所等巡回による情報収集の体制づくり ・関係者や災害対策本部から入手した情報の活用 ・被災地域の迅速評価 ・数量データによる、健康課題の根拠の提示 ・優先度の高い課題と対象のリストアップ ・支援の必要性と内容に関する判断 II-3. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価） II-6. 自宅滞在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応 ・潜在的な支援ニーズ把握のための健康調査の企画と実施の体制づくり

表2 コンテンツの目標と内容と習得すべき必要な知識・技術・態度の内容（続き）

目標と内容	(フェーズ0～1) 習得すべき知識・技術・態度	(フェーズ2～3) 習得すべき知識・技術・態度
3) 避難所における感染予防対策の基本	I-1. 被災者への応急対応 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施	II-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり ・個人・家族による健康管理のセルフケアの体制づくり II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 ・感染症予防・食中毒予防に関する技術 ・災害時における啓発普及の技術
4) 災害時の二次的健康被害の理解	I-1. 被災者への応急対応 ・災害時の二次的健康被害の理解 ・避難環境のアセスメント ・感染症予防対策の実施	II-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり ・亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識 ・廃用性症候群の理解と防止策の実施 ・関連死のリスク兆候の理解と対応 II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント ・発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり ・二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント II-6. 自宅潜在者等への支援 ・地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応 ・車中泊・テント泊等の二次的健康被害の予防と対策の理解
4. 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応		
目標	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた避難所における保健活動に必要な知識を習得する	
内容	1) 新型コロナウイルス感染症とは① 新型コロナウイルス感染症とは②	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
	2) 新型コロナウイルス感染症対策の基本	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
	3) 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応① 避難所における新型コロナウイルス感染症への対応②	I-1. 被災者への応急対応 ・感染症予防対策の実施
		II-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり ・感染症予防・食中毒予防に関する技術

2. 演習教材

演習教材は、eラーニングだけではカバーできない複数のコンピテンシーにまたがる知識・技術・態度を総合的に適用する必要がある課題について考える内容としました。演習を通じて習得する能力は、思考・判断・意思決定を行動化する能力であり、演習の方法は、このような能力の習得を目指してケースメソッドとしました。取り上げた課題は、これまでの自然災害への対応におけるフェーズ0～2において、保健師が直面する保健活動拠点や避難所の場面や状況を設定し、かつ保健師がその対応に困難を感じたり、混乱が生じたりしやすい課題としました。具体的には、新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の教材及び大規模地震事例の教材です。以下のV 研修プログラム例のA～C、F、Gでは前者の教材を、D、Eでは後者の教材を活用しています。各教材は研修参加者の所属自治体の状況に応じて、状況等を変えることができるものとなっています。また、集合研修だけではなく、WEB研修でも活用できるものとなっています。

Ⅲ 研修プログラムの作成

研修プログラムの作成について、以下に述べます。研修プログラムの作成にあたっては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾も参考にしてください。

1. 研修の目的を考える

1) 対象

研修の対象を検討し、明確にします。対象によって、次の研修の目的・目標の設定が異なってくる可能性があるため、研修の対象を検討することは重要です。本マニュアルは、市町村の実務保健師を対象とした研修を想定して作成しています。しかし、災害対応においては、市町村と保健所との連携や、他職種との連携も重要であるため、研修においても市町村と保健所、両方の保健師を含む多職種を対象に企画することもあるでしょう。本マニュアルで活用している教材や研修プログラム例は、そのような研修でも活用できるものです。

2) 目的・目標

本マニュアルは、フェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における市町村保健師の災害時保健活動遂行能力を高めることを目的とした研修を想定して作成しています。

目的から、さらに当該研修で到達を目指す具体的な目標を考えます。目標を考える際には、研修の対象者が保健師のキャリアラダーにおいて、どの段階にあるかを考慮するとよいでしょう。また、「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」（巻末参照）を活用することもできます。実務保健師の災害時のコンピテンシーを参考に研修の目標を設定したり、あるいは、研修の対象者に「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価の実施と提出を求め、その結果から、自己評価が低い傾向にあるコンピテンシーを目標に設定することも考えられます。

目標は研修評価の指標にもなりますが、研修によって災害時のコンピテンシーが高まったかどうかを評価することは困難です。また、研修だけで災害時のコンピテンシーが高まるものではないと考えます。研修においては、災害時に求められるコンピテンシーを理解すること、それを踏まえて参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出すこと、そして、災害発生に備えて、具体的なアクションプランを考えられることなどを目標とするとよいでしょう。

2. 研修プログラムを作成する

1) 時間

研修プログラムの作成にあたっては、まず研修時間を設定します。現場では半日程度の研修が多く、またそれが実施しやすいと考え、Ⅳ 研修プログラム例は3時間～3時間半のプログラムとしています。

2) 研修プログラムの構成

次に研修プログラムの構成を考えます。本マニュアルでは、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾を参考に、レクチャー、ワークショップ（演習）、リフレクションを組み合わせ構成する研修プログラムとしています。但し、レクチャーにはeラーニング教材を活用し、その特定のコンテンツを事前学習に位置付けたり、あるいはワークショップ（演習）の前後に研修参加者全員で視聴したりするプログラムとしています。

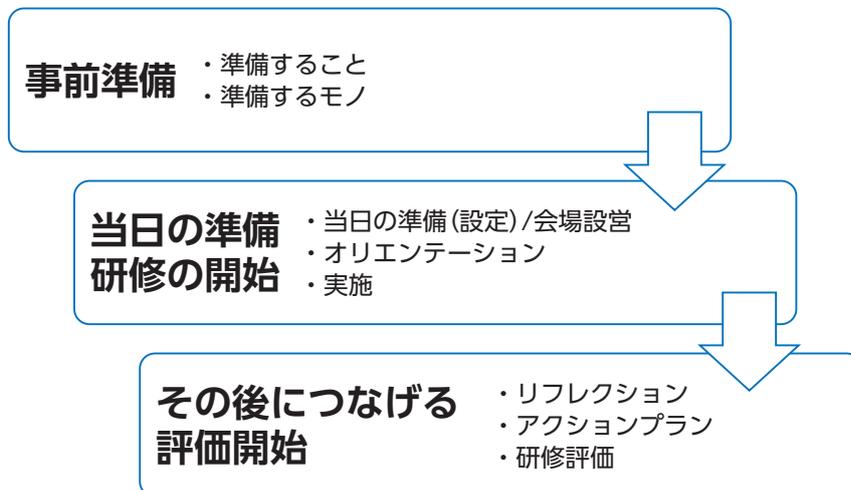
次の教材の選定とともに、レクチャー部分を事前学習とするか、研修プログラムに含めるか、レクチャー、ワークショップ（演習）、リフレクションをどのように組み合わせるか、それぞれの時間をどのように設定するか、考えます。リフレクション（アクションプランの立案）には最低30～40分は必要です。Ⅴ 研修プログラム例を参考にしてください。

3) 教材の選定

研修の目的・目標を達成するための教材を選定します。1の2)目的・目標の項で、目標の設定のために、「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」を活用することについて述べましたが、目標に関連するコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度を明確にし、レクチャーに相当するeラーニング教材の各コンテンツの習得すべき知識・技術・態度を照らし合わせ（表2を参照）、どのコンテンツを研修の事前学習あるいは研修中に活用するか、決定します。各コンテンツの時間も考慮して（表1を参照）、活用するコンテンツを決定します。演習教材については、Ⅴ 研修プログラム例を参考にしてください。状況設定と複数の演習課題で構成されており、1つの演習課題は説明、個人ワークまたはグループワーク、発表を併せて20～30分としています。研修において、その目的・目標と照らし合わせて、どの演習課題を選定するか、いくつの演習課題を設定するか、時間も考慮して検討します。

IV 研修の進め方

研修を進める過程には、事前準備、当日の準備と研修の開始、その後につなげる／評価があります。



1. 事前準備

1) 準備すること

- 地域特性を考慮して状況設定を決定する
- 演習を効果的に行うために参加者への事前課題・事前準備を決定する
- 研修に参加にあたっての注意点を整理し、参加者に事前に周知する
- 演習を効果的に行うための演習グルーピング及び企画運営側の役割分担を決定する

①参加者への事前課題

事前課題は、研修の目的・目標によりますが、以下のようなことが考えられます。

- ・ eラーニング教材の視聴
Ⅲの2の3) で述べたように、研修の目的・目標の到達に関連する知識・技術・態度を含む eラーニング教材のコンテンツを選定し、その視聴を事前課題とする。
- ・ 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認
特に所属部署や保健師の役割を確認した上で、研修に臨んでもらう。
- ・ 「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価
これを行うことにより、発災後のフェーズに応じて、実務保健師にどのようなコンピテンシー及び知識・技術・態度が求められるのか、具体的に認識することや、当該研修の目標がどのようなコンピテンシー及び知識・技術・態度と関連しているのかを明示して自己評価を依頼した場合には、研修の目標をより理解することにつながる。これらのことは、研修の準備状況を高めることとなる。

「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価は、Ⅱの1. eラーニング教材の項で示した、「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」<https://dphn-training.online/moodle/> にアクセスすることにより、WEB上で実施可能である。しかし、WEB上で実施した場合、その結果を研修企画者が把握することはできないため、Ⅲの1の2) 目的・目標で述べたように、研修企画者がこの自己評価を目標設定などに活用したい場合には、紙媒体あるいは電子媒体で「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」のチェックシートを配付・配信し回収するとよい。

【「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」のWEB上での自己評価】
「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のためのトレーニング教材」
https://dphn-training.online/moodle/ にアクセスします。

ログイン後、サイトホームまたはダッシュボードを選択し、該当するチェックシートをクリックします。

シートは、[超急性期（フェーズ0～1）発災直後～72時間]、[急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）中長期]、[慢性期（フェーズ4）復旧・復興期]、[平穩期（平常時の備えの時期）]の4種類があります。

以下は、ログイン後のサイトホームの画面です。画面を左下までスクロールして『チェックシート』をクリックします。



② 研修主催側の事前準備

・(WEB研修の場合) 研修資料の郵送または配信

・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握

ワークショップ(演習)やリフレクションにおいて、発表者を決める参考になる

・(WEB研修の場合) ネット環境の把握、具体的には、アクセス場所やアクセス端末数(一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など)

ワークショップ(演習)のグループ編成の参考になる

・グループ編成

ワークショップ(演習)やリフレクションのグループ編成を考える必要がある。その際には、職種、経験年数や被災経験の有無、所属自治体等を考慮して編成する。ワークショップ(演習)における各課題やリフレクションの目的と照らして、例えば、発災時を想定して様々な人々と共に考え協働する疑似体験をすること、ディスカッションしやすくすること、規模や組織体制が類似した自治体との情報や意見も参考にして所属組織・自治体の今後の取り組みを考えること等、何を重視するかを考え、グループを編成する。

(WEB研修の場合)

WEB研修の場合、同じ端末や場所からの参加者、つまり同じ部署や自治体毎のグループ編成となる。参加者をWEB上で少人数の複数グループに分ける機能が使用できる場合には、異なる部署や自治体の参加者から成る混合グループの編成が可能となる。前者の場合、また後者の場合でも、同じ部署や自治体毎にワークを行った後、混合グループワークがある場合には、部署や自治体から一人で参加している者への配慮が必要である。一人で参加している者でグループ編成をしたり、研修主催側のメンバーが質問に応じる、課題等に取り組みやすいようにサポートする等したりするとよい。また、研修参加者を募る際に、同じ部署や自治体から複数、参加してもらうよう、研修の趣旨等を伝えて働きかけることも必要である。

・参加者へ事前に周知すること

✓ 当日使用するもの

必要時、所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル

(WEB研修の場合)

✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと

✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること

✓ 当日の連絡・問い合わせ先(ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合)

・(WEB研修の場合) 事前に接続テストをすることが望ましい

接続テストをする場合には、研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

2) 準備するモノ

① 研修参加者が準備するモノ

✓ 事前配付・配信資料

(依頼があった場合) 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル

✓ メモ(A4用紙3枚程度)及び筆記用具

② 研修主催側が準備するモノ

・参加者への配付用演習ワークシート

(WEB研修の場合)

事前に郵送または配信する。また、WEB上で共有できるシートを活用すると、参加者間やグループメンバー間でワークシートの内容、つまり話し合った内容や検討した内容を共有しやすい。自治体によっては、セキュリティの問題から、WEB上の共有シートにアクセスできない場合もあるため、事前の接続テスト等において確認しておく必要がある。アクセスできない場合には、事前にワークシートの電子ファイルを送り、研修当日は画面で共有するという方法も考えられる。

・グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

(WEB研修の場合)

- ・ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備することが望ましい
停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておくことも重要である
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話

2. 当日の準備／研修の開始

1) 当日の準備（設定）／会場設営

- 研修内容やグループ数等に応じて会場設営を行うとともに、必要物品等を準備する
- (WEB研修の場合)
ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する
- スケジュール等、研修主催側の事前打ち合わせ・確認を行う

2) オリエンテーション

- 研修全体のオリエンテーションを行う
- オリエンテーションでは、当該研修の目的・目標、その目的・目標と当該自治体の人材育成計画や保健師キャリアラダーとの関係、当該自治体の災害時保健活動や保健師の災害時保健活動遂行能力の課題との関連等について説明する。研修の目的・目標の検討等のために、事前課題として「実務保健師の災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容」の自己評価の実施と提出を求めた場合には、オリエンテーションにおいて、その結果を示し、研修参加者の強みと課題を共有することによって、研修の目的・目標の理解や研修へのモチベーションを高めることにつながると考えられる
- 当該研修のスケジュールを説明する

3) 実施

- ワークショップ（演習）については、必要時、方法や状況設定、取り組む上での注意点などのオリエンテーションを行う
- 具体的な展開については、V 研修プログラム例を参照のこと

3. その後につなげる／評価

1) リフレクション／アクションプラン

- リフレクションの方法やそのためのシートについては、宮崎らが作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン」¹⁾を参照のこと
- 『気づきを促す』ことを目的に個人のリフレクションを行い、シートに記載する（個人ワーク）
- 『学びの意味づけを促す』ために個人のリフレクションの内容をグループ内で発表し合い、参加者自身やその所属組織の強みと課題を見いだせるような質疑応答を行う（グループワーク）
- リフレクション（個人ワーク及びグループワーク）を踏まえ、今後に向けたアクションプランを考え、シートに記載する。これは個人ワークでもよいし、市町村単位や保健所単位等でもよい。アクションプランは、具体的かつ実行可能なものを必ず1つ含める。「2か月以内のアクションプラン」「6か月以内のアクションプラン」などと期限を設定して考えてもらうのもよい（WEB研修の場合）
考えたアクションプランはチャットに記載してもらう
- 研修後につなげるために、リフレクション／アクションプランは同じ市町村や保健所でグルーピングする
- 最後に参加者数人に、参加者自身やその所属組織の強みと課題及びアクションプランを発表してもらう。発表者は事前に把握した経験年数や災害対応経験の有無などを参考に、経験年数の少ない保健師から多い保健師、災害対応経験のない保健師から経験のある保健師、担当業務の異なる保健師（母子、健康づくり、高齢者／介護予防など）、異なる市町村・保健所の保健師などと考慮して選定する

V 研修プログラム例

1. 研修プログラムA（一都道府県内の市町村保健師を対象としたWEB研修）

－新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

一都道府県及び市町村の保健師

2) 目的・目標

コロナ禍における風水害発生時の保健師活動を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を考え、自所属の災害対策への課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・＜各市町村から複数の参加者がいる場合＞所属組織や自治体の現状をともに認識し、考える
- ・参加者個人あるいは所属組織・組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）、（8）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくりの（15）～（18）
2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくりの（19）、（20）
3. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（継続的な評価）の（21）、（22）、（24）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）・13:00～16:30

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
13:00～13:10	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師A
13:10～13:50	演習（演習課題20分×2）	進行：保健所保健師A 進行補佐：保健所保健師B
13:50～14:20	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
14:20～14:30	休憩	
14:30～15:30	演習（演習課題20分×3）	進行：保健所保健師B 進行補佐：保健所保健師A
15:30～16:10	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	進行補佐：保健所保健師A
16:10～16:30	研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師A *可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・eラーニング教材「フェーズ毎の保健活動」（21分）、「避難所における保健活動の基本①②」（①13分②15分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）の視聴
- ・可能であれば事前に所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルを確認する

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 研修資料の郵送または配信
- ・ 参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など）
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ（A4用紙3枚程度）及び筆記用具
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、
環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・ 事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ ヘッドセット2セット
- ・ 連絡・問い合わせ用の電話
- ・ 演習グループピング
- ・ グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:10～13:30	演習課題1（オリエンテーション5分、ワーク10分、発表5分）	進行：保健所保健師 A
13:30～13:50	演習課題2（説明5分、ワーク10分、発表5分）	進行補佐：保健所保健師 B
13:50～14:20	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
14:20～14:30	休憩	
14:30～14:50	演習課題3（説明5分、ワーク10分、発表5分）	
14:50～15:10	演習課題4（説明5分、ワーク10分、発表5分）	進行：保健所保健師 B
15:10～15:30	演習課題5（説明5分、ワーク10分、発表5分）	進行補佐：保健所保健師 A

・演習のオリエンテーション（演習課題1の説明含む）

（スライド1）

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目標は、コロナ禍における風水害発生時の保健師活動を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を考え、自所属の災害対策への課題を見出すことです。

本日の演習課題の状況設定です。（状況設定を読み上げる）

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明 (オリエンテーション含む) 5分、ワーク10分、発表 5分

場面 1

●10月11日(金)16時

- ・ A市ではこの日の午前10時に危機管理対策会議を開催
- ・ その後、A市では一号配備体制をとり、保健センターはセンター長(事務職)と課長2名(保健師1名と事務職1名)、主任と採用2年目の保健師各1名が夜間に残ることになった。
- ・ その後、事務職の課長は、自宅が土砂災害警戒区域内にあり、高齢の親もいるため帰宅することになった。

課題1: この段階でA市保健師としてすべきことは何か？

(場面 1 について読み上げる)

自分がA市の保健師としてどんなことをする必要があるかについてまず考えてください。

※必要時、一号配備体制について確認・説明する。

※発表は異なる市町村の保健師 2 名程度

スライド 3 (演習課題 2) 説明 5分、ワーク10分、発表 5分

場面 2

●翌日10月12日(土)14時20分

- ・ 台風の接近速度が速まり、7時に10か所の避難所が開設され、保健師の多くは避難所に向かうよう指示され、出向いている。
- ・ 14時15分現在、大雨・洪水警報が発令、警戒レベル3「高齢者等避難」の避難情報が発令された。すでに秋雨前線の長雨で地盤が緩み、土砂崩れにより道が遮断されている地区もある。
- ・ 帰宅した係長は道路が遮断され出勤できない状況。
- ・ 14時20分に、保健センターに相談の電話が入る。ある避難所から、新型コロナウイルス感染症への対応について指導してほしいという内容である。

課題2: 避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して保健師はどの様に対応する必要があるか？

(場面 2 について読み上げる)

避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して保健師はどのように対応する必要があるかについて考えてください。

※発表は演習課題 1 と異なる、かつ異なる市町村の保健師 2 名程度

2つの演習課題のポイント及び次のeラーニング視聴につなげる、簡単なコメントを述べる。

演習課題 1 のねらい: 当該地域に大きな被害を及ぼす可能性のある大型台風の接近、そして大雨・洪水警報が発令される可能性がある場合に、市町村保健師として備え、対応すべきことについて考えられる。

コメント内容例

- ・リーダー保健師、リーダーを補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・所属自治体の地域防災計画における所属部署や保健師の役割を確認すること
- ・豪雨災害における避難行動要支援者の避難対応について確認すること
- ・災害時保健活動拠点の整備 等

演習課題 2 のねらい：発災時は出勤できない保健師もいることを想定して、保健活動体制を考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について、平時から、どこの部署・機関・組織等と、どのようなことを検討しておけばよいか考えられる。

コメント内容例

- ・当該都道府県の新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアル作成指針における基本的な考え方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性者や濃厚接触者が避難所に避難してくる状況として想定されること 等

e ラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）

視聴

コメント内容例（必要時）

- ・受付の設置に関する留意点、受付時の健康状態のチェック、ゾーニング、等

休憩（10分間）

スライド 4（演習課題 3）説明 5 分、ワーク10分、発表 5 分

場面 3 避難所に向く指示を受けて避難所で活動中

●10月12日(土)19時50分

- ・14時に市災害対策本部が設置、17時に土砂災害警戒情報が発表、19時50分に大雨特別警報が発表された。
- ・避難所には幼児をつれた妊婦、持病の薬を持ちだせなかったという高齢者、中にはマスクをせずに避難してくる人もいる。不安そうに避難所内をうろろしている人もいる。
- ・市内を流れるN川の堤防決壊やU川の堤防からの越水が報告され、避難所の受付には、腰から下がずぶ濡れになった人、避難の途中で流されそうになったと言いながら来る人もいる。避難者は各自の携帯に届くエリアメールの着信音がなる度に、落ち着かない様子である。

課題3: 避難所の保健師が収集すべき情報は何か？

(場面 3 について読み上げる)

この時点で、避難所の保健師が収集すべき情報について考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師 2 名程度

スライド5（演習課題4）説明5分、ワーク10分、発表5分

場面4 あなたは避難所で活動中の保健師

●10月13日(日)1時30分頃

- 避難者は自宅の被災状況が心配で、不安や興奮で眠れない様子。深夜のため消灯しているが避難者同士で話している様子も見受けられる。雨がやみ月夜になり水も引いてきたため、避難者は明け方になったら家に戻ると話している。

課題4:

- ①雨が止んだ後には住民にどのような健康課題が生じる可能性があるか？
- ②それらの健康課題に対応するために、保健師としてどのように活動するか？

(場面4について読み上げる)

①雨が止んだ後には住民にどのような健康課題が生じる可能性があるか、また②それらの健康課題に対応するために、保健師としてどのように活動するか考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師2名程度

スライド6（演習課題5）説明5分、ワーク10分、発表5分

場面5

●10月15日(火)18時頃

- 大型台風は去り、豪雨から72時間が経過した。一時は市内のほぼ全域が冠水したが、今日避難所に来る途中の道路は概ね水が引いていた。
- 担当の避難所の避難者数は激減し、残りわずかとなっており、残っているのは、被害が大きかった地域の独居の後期高齢の女性成人の障害者が各1名、高齢夫婦2組である。
- 避難所内を巡回して独居の女性の所に行くと、保健師に対し、「随分と避難所の人数も減ったから、私もそろそろ出て行った方が良いかね？」と保健師に尋ねてきた。

課題5: 避難所に残っている避難者に対しどの様に対応したらよいか？またどのような体制で対応するか？

(場面5について読み上げる)

避難所に残っている避難者に対し、どのように対応したらよいか、また、どのような体制で対応するか、考えてください。

※発表はこれまで発表していない、かつ異なる市町村の保健師2名程度

3つの演習課題のポイント及び必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題3のねらい：フェーズ0～1の避難所にいる被災者のニーズ把握のために収集すべき情報を、eラーニング「避難所における迅速アセスメント」の内容も踏まえて考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ eラーニング「避難所における迅速アセスメント」の関連するポイント
- ・ コロナ禍における避難所にいる被災者の日々の健康状態を把握する体制づくりの必要性 等

演習課題 4 のねらい：豪雨災害における二次的健康被害とそれらを予防・最小化するための保健活動について考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ 自宅に戻って後片付けをする避難所被災者も出てくることを踏まえて、豪雨災害における二次的健康被害を予防・最小化するための被災者の健康状態の把握や保健活動の内容・タイミング・方法を考える必要性、等

演習課題 5 のねらい：被災者の生活の場が避難所や自宅等へと分散していく中、通常業務の再開・継続も含めて、避難所、自宅、それぞれの被災者への保健活動体制や、災害時要配慮者への対応について考えられる。

コメント内容例（必要時）

- ・ 災害時要配慮者への支援のために連携する機関・部署等や役割分担、等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（40分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（8分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内（市町村単位）でのリフレクション（12分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン *チャットに各自、記載する（10分）
4. 発表（10分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、各市町村1人ずつ

2. 研修プログラム B (一保健所管内の市町村及び保健所の保健師等を対象としたWEB研修)

—新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム—

1) 対象

一保健所管内の市町村及び保健所の地域保健関係職員

2) 目的・目標

コロナ禍における風水害発生時の保健師活動（特に初動対応）を疑似体験し、災害時における保健活動の基礎知識や専門職の役割を学ぶとともに、風水害発生時の保健師活動方法を、各市町村、保健所それぞれに考え、自組織の課題の整理や今後の取組について考える

目標 1：災害時における保健活動の基本について知識を深め、理解する

目標 2：災害時を想定した議事演習により、超急性期（フェーズ 0～1）の具体的な保健活動を理解し、発災時における専門職としての思考・判断・意志決定の過程や行動について考える

目標 3：災害時の避難所運営に係る保健活動や新型コロナウイルス感染症対策に関する対応について理解し、平時からの備え・関係者との連携調整など自組織における体制づくりを考える

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・所属組織や自治体における災害対策をともに振り返り認識する
- ・参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ 0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）・（12:40～）13:30～16:30

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
12:40～13:30	事前課題のeラーニング教材「避難所における保健活動の基本」①（13分）②（15分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	保健所保健師 A
13:30～13:40	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師 A
13:40～14:30	演習（演習課題25分×2）	進行：保健所保健師 A 進行補佐：保健所保健師 B
14:30～15:01	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
15:01～15:10	休憩	
15:10～15:35	演習（演習課題25分×1）	進行：保健所保健師 B 進行補佐：保健所保健師 A
15:35～16:15	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	
16:15～16:30	研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師 A * 可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」(フェーズ0～1)の実施
- ・eラーニング教材「避難所における保健活動の基本①②」(①13分②15分)、「避難所における迅速アセスメント」(18分)の視聴
- ・可能であれば事前に所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・研修資料の郵送または配信
- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ネット環境の把握(アクセス場所、アクセス端末数(一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など))
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ(A4用紙3枚程度)及び筆記用具
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先(ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合)
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ネットにアクセス可能なPC2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話
- ・演習グループは参加市町村毎とし、保健所は参加者が8人以上の場合は1グループ4～6人で編成する
- ・グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備(設定)

- ・ネットにアクセス可能な場所で、PC2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:40~14:05	演習課題1（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行：保健所保健師A
14:05~14:30	演習課題2（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行補佐：保健所保健師B
14:30~15:01	eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）視聴	
15:01~15:10	休憩	
15:10~15:05	演習課題3（説明5分、グループワーク10分、発表10分）	進行：保健所保健師B 進行補佐：保健所保健師A

・演習のオリエンテーション（演習課題1の説明含む）

（スライド1）

本日の演習課題の状況設定

- ・あなたは〇保健所、または管内市町村の保健関係職員
- ・現在は8月5日（木）午前10時
- ・△△地方気象台の予報

「6日に台風第●号は低気圧に変わり、低気圧は前線を伴って発達しながら日本海を北東に進み、7日の日中に〇〇付近を通過する見込み。6日から7日にかけて低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、大気の状態が非常に不安定になる。

・現在は大雨注意報が発令されているが、今後はさらに豪雨となり竜巻などの突風が起こる可能性もある。低気圧が最接近する7日にかけて特別警報発令の可能性が見込まれ、これまで経験したことのない甚大な被害が予測されている。

あなたには**市町村職員**、**保健所職員**として、住民の健康や安全を守る役割がある。

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目標は、コロナ禍における風水害発生時の保健師活動、特に初動対応を疑似体験し、風水害発生時の保健師活動方法を、各市町村、保健所それぞれに考え、自組織の課題や今後の取組について考えることです。

本日の演習課題の状況設定です。（状況設定を読み上げる）

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明 (状況設定含む) 5分、グループワーク10分、発表10分

場面1: 8月5日(木) 16時

- 保健所管内の各市町村ではこの日午前に危機管理対策会議を開催し、その後全市町村とも非常一号配備体制をとることになった。
- 保健所管内の新型コロナ感染者は本日16時の時点で20人、そのうち自宅療養者は10人となっている。

課題1: 各市町村の保健関係職員は、

- ①これから自所属においてどのような体制をとることになっているか？
- ②この段階で市町村の保健関係職員として何のために、何をするか？

保健所職員は、

- ①管内市町村の状況を受け、これからどのような体制をとることになっているか？
- ②保健所として何のために、何をするか？

(場面 1 について読み上げる)

自分が所属する市町村や保健所の職員としてこの時点でどのようなことを行う必要があるかについてまず考えてください。

準備いただいている防災計画や防災マニュアル等で、どのような体制をとっているかなどについて確認しながら考えてください。

※必要時、非常一号配備体制についても確認してもらう。

※発表は市町村 2 か所の保健師等 2 名程度、保健所 1 Gの保健師等 1 名程度

スライド 3 (演習課題 2) 説明 5分、グループワーク10分、発表10分

場面2: 8月7日(土)

5時30分 各市町村に災害対策本部が設置される

6時10分 大雨・洪水警報・暴風警報(沿岸部は波浪警報)が発令、警戒レベル3「高齢者等避難」の避難情報が発令された。すでに非常に激しい雨で地盤が緩み、土砂崩れで道が遮断されている地区あり。

7時 全市町村に避難所が開設され、各市町村の保健関係職員の多くは避難所に向かうよう指示あり、出向いている

8時 大雨特別警報が発令

10時20分 市町村の保健関係職員の所属部署にある、避難所から相談の電話が入る。「新型コロナウイルス感染症への対応について指導をしてほしい」という内容である。

課題2:

- ①市町村職員はこの相談を受けてどのように対応するか？(相談のあった避難所、及びその他の避難所への対応も考える)
- ②保健所に市町村職員からの電話「避難所に感染者が避難してきた、手一杯で感染対策に十分手が回らない」とのこと。保健所職員としてどのように対応する必要があるか？

(場面 2 について読み上げる)

避難所における新型コロナウイルス感染症対策に関して市町村保健師等はどのように対応する必要があるか、また保健所は市町村をどのように支援すればよいかについて考えてください。

※発表は演習課題 1 と異なる市町村 2 か所の保健師 2 名程度、演習課題 1 と異なる保健所 1 Gの保健師等 1 名程度

2つの演習課題のポイント及び次のeラーニング視聴につなげる、簡単なコメントを述べる。

演習課題1のねらい：当該地域に大きな被害を及ぼす可能性のある大型台風の接近、そして大雨特別警報が発令される可能性がある場合に、市町村、保健所、それぞれの保健師等が備え、対応すべきことについて考えられる

コメント内容例

- ・避難勧告等発令時の保健福祉ニーズと課題、保健活動
- ・リーダー保健師、リーダーを補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・所属自治体の地域防災計画における所属部署や保健師の役割を確認すること
- ・豪雨災害における避難行動要支援者の避難対応について確認すること
- ・災害時保健活動拠点の整備 等

演習課題2のねらい：発災時は出勤できない保健師もいることを想定して、保健活動体制を考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応及び市町村と保健所との連携・協働について考えられる。

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応について、平時から、どこの部署・機関・組織等と、どのようなことを検討しておけばよいか考えられる。

コメント内容例

- ・当該都道府県の新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアル作成指針における基本的な考え方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性者や濃厚接触者が避難所に避難してくる状況として想定されること
- ・避難所における新型コロナウイルス感染症対応の流れの例 等

eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応」①（17分）②（14分）

視聴

コメント内容例（必要時）

- ・受付の設置に関する留意点、受付時の健康状態のチェック、ゾーニング、避難所における感染対策 等

休憩（9分間）

スライド 4 (演習課題 3) 説明 5 分、グループワーク 10 分、発表 10 分

場面 3: 8 月 8 日 (日)

- ・昨日、8 時 00 分に大雨特別警報が発表されたが、今朝になって雨が上がり洪水注意報に警戒レベルが下がった。
- ・避難者の中には自宅に戻ろうとしている人、一旦自宅に帰るも戻ってきた人等様々。各市町村の被災状況や避難所は以下のとおり。

市町村	A	B	C	D	E
住家被害	一部損壊 4				
浸水家屋	床上 1 床下 2	床下 2	床下 1		1
開設避難所数	20	14	4	4	2
最大避難者数	35	100	3	89	5

問題 3: 市町村職員 ① これからの様な保健活動体制で被災者を支援する必要があるか？ ② 保健所職員がこれから情報収集に来るとい
うが、被災市町村としてどの様な事を伝える必要があるか？

保健所職員 ① 市町村からどの様な情報収集をする必要があるか？
② 連絡がつかない場合どの様な方法で収集するか？

* スライド内の被災状況や避難所開設数は、保健所管内の全ての市町村について挙げ、状況設定については過去の被災状況を参考にしたり、地理的条件や保健所管内規模が類似の地域の被災状況を参考にしたりして設定する

(場面 3 について読み上げる)

市町村については今後の保健活動体制と保健所に伝えるべき情報を、保健所については市町村から収集すべき情報と情報収集の方法を考えてください。

※ 発表はこれまで発表していない (市町村 2 か所の) 保健師等 2 名程度及び保健所の保健師等 1 名程度

演習課題のポイント及び必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題 3 のねらい: フェーズ 0 ~ 1 からフェーズ 2 へ移行する段階において、市町村においては避難所にいる被災者のニーズ把握のために収集すべき情報を、e ラーニング「避難所における迅速アセスメント」の内容も踏まえて考えられる。また、被災者の生活の場が避難所から自宅等へと分散していくことも見据えて、当該市町村の保健活動体制について受援の必要性も含めて考えられる。

保健所においては管内市町村への支援の必要性やその内容を検討するための収集すべき情報と収集方法を考えられる。

コメント内容例 (必要時)

- ・ e ラーニング「避難所における迅速アセスメント」の関連するポイント
- ・ 発災後の救護所、避難所、地域における業務と受援を想定した役割分担
- ・ 受援のための体制づくり、市町村と保健所との連携
- ・ BCP (事業継続計画) 等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン (40 分)

1. 気づきを促す: 個人のリフレクション (8 分)
2. 学びの意味づけを促す: グループ内 (市町村単位) でのリフレクション (12 分)
3. 意識化を促す: 今後に向けたアクションプラン *チャットに各自、記載する (10 分)
4. 発表 (10 分) *経験年数の異なる保健師 (発表は若い保健師から) とし、各市町村 1 人ずつ

3. 研修プログラムC（都道府県主催の市町村及び保健所の保健師を対象としたWEB研修）

－豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

－都道府県内の市町村及び保健所の保健師

2) 目的・目標

受援を要する豪雨災害時の超急性期（フェーズ0～1）における実務保健師の役割を理解する。また、その上で平常時に準備すべきことを自覚し、行動化できる

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況をイメージしながら考える
- ・他の市町村の意見や災害対策に関する取組も参考にして、参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする
- ・管内市町村の意見や災害対策に関する取組状況に基づき、保健師の役割や平常時における取組を考える

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

IV 静穏期（平常時の備えの時期）

2. 災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映の（64）、（65）
3. 要配慮者への災害時の支援計画立案と関係者との連携の促進の（69）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：WEB研修（ZOOM）2日間・両日とも13:30～16:30

②研修スケジュール

< 1日目 >

時間	内容	役割分担
13:30～13:40	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的 オリエンテーション	都道府県研修担当保健師A
13:40～14:25	事前課題のeラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時 保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	進行：都道府県研修担当保健師A 進行補佐：都道府県研修担当保健師B
14:25～14:50	演習「豪雨災害時の行動計画」 演習オリエンテーション・状況設定（25分）	
14:50～15:30	演習課題1：初動時の行動計画（40分）	
15:30～15:40	休憩	
15:40～16:10	演習課題2：大雨警報発令前の段階で行うべきこと（30分）	進行：都道府県研修担当保健師B 進行補佐：都道府県研修担当保健師A
16:10～16:30	講評研修 評価	* 可能であれば、管理的立場の保健師や 災害対応経験のある保健師から、研修 の講評について述べてもらう。

< 2日目 >

時間	内容	役割分担
13:30～13:35	オリエンテーション	都道府県研修担当保健師 A
13:35～14:00	演習「豪雨災害時の保健活動」 演習課題1：避難所活動及び市町村と保健所との連携（25分）	進行：都道府県研修担当保健師 A 進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:00～14:20	演習課題2：雨上がり後の被災者の健康ニーズと保健活動（20分）	
14:20～14:40	演習課題1・2の発表（グループ単位で20分）	
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:10	eラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解」（17分） 視聴	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
15:10～15:30	講義「〇〇県の災害時保健活動の実際」（20分）	都道府県研修担当保健師 B
15:30～16:10	リフレクション及びアクションプラン「平時に準備すべきこと」（40分）	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
16:10～16:30	2日目の研修の講評 研修を踏まえた企画側としての今後の研修や取組みの方向性 研修評価	保健所保健師 A * 可能であれば、管理的立場の保健師や災害対応経験のある保健師から、研修の講評や災害保健活動に関する課題と今後の方向性について述べてもらう。

6) 参加者への事前課題

- ・「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」（フェーズ0～1）の実施
- ・eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）の視聴
- ・所属自治体の防災計画・防災マニュアルを読み、保健活動体制と自分の役割の確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・研修資料の事前配信
- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など））
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう
- ・グループ編成
保健所管内毎のグループ、あるいは規模や組織体制が類似した自治体から成るグループ等とする

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ ネットにアクセス可能なPC 2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ ヘッドセット2セット
- ・ 連絡・問い合わせ用の電話
- ・ 演習課題のグループワークシートは、グループ内で共有できるように、グループ毎のスプレッドシート等を作成しておく（以下の例の表の、保健師名・経験年数・災害対応経験の有無がないもの等）。スプレッドシートにアクセスできない市町村がある場合には、事前に同じシートの電子ファイルを送っておく。
- ・ 研修主催者側がグループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ ネットにアクセス可能な場所で、PC 2台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）、目的、2日間の研修スケジュール及び演習方法の概要を話す

② 演習の実施

< 1日目 >

- ・ 演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:40~14:25	事前課題のeラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「フェーズ毎の保健活動」（21分）視聴 * 事前課題を視聴していない参加者のために	進行：都道府県研修担当保健師 A 進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:25~14:50	演習「豪雨災害時の行動計画」 演習オリエンテーション・状況設定（25分）	
14:50~15:30	演習課題1：初動時の行動計画 （説明・市町村別ワーク25分、ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク15分）	
15:30~15:40	休憩	
15:40~16:10	演習課題2：大雨警報発令前の段階で行うべきこと（説明・市町村別ワーク20分、ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク10分）	進行：都道府県研修担当保健師 B 進行補佐：都道府県研修担当保健師 A

・演習のオリエンテーション（演習課題 1 の説明含む）

（スライド 1）（説明 5 分）

災害想定

◆令和●年8月3日（水）に、5日（金）から6日（土）にかけて、台風から変わる低気圧の影響で警戒レベル5級の大雨になる見通しなどの気象情報の発表があった。

◆令和●年8月5日（金）午後2時に「大雨警報」、「洪水警報」が発令され、各市町村では災害警戒本部を設置した。

同日、午後8時に「土砂災害警戒情報」が発表され、各市町村は災害警戒本部を災害対策本部に切り替えた。

午後9時には各市町村の全域または一部の地域に「高齢者等避難開始」及び「避難指示」が発令された。非常配備体制がとられ、原則、全職員が所定の場所へ参集することとなった。

◆令和●年8月6日（土）午前0時に「大雨特別警報」が発令された。



それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日及び次回の演習の目的は、受援を要するような豪雨災害が発生した状況を想定したケースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ1における市町村保健師の役割を理解し、平時に準備すべきことを考え、意識化することです。

本日の演習における災害想定です。市町村保健師は所属の市町村の状況と、保健所保健師は所属の保健所の管内市町村の状況と考えてください。（災害想定を読み上げる）

状況設定（市町村別ワーク）20分

まず、状況設定を考えてみましょう！

◆各保健師はどこに参集することになっているか。

◆保健活動拠点はどこか。

そこには自家発電設備があるか。

◆保健活動拠点に出勤している保健師は3分の2。

→誰が出勤したことにするか。



用意している所属自治体の防災計画・防災マニュアル、また保健活動マニュアル（作成している場合）も確認しながら考えてください。

※参加者個々が所属の状況を踏まえて、演習における状況設定ができるようにする

※所属市町村や保健所から一人で参加している保健師がいる場合には、この時点から他の参加者にはブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

・演習の実施

スライド 2 (演習課題 1) 説明・市町村別ワーク25分、複数市町村でのグループワーク15分

8月5日 (金) 午後9時

- ◆ 県内では一部の川が氾濫し、避難し始めている住民がいるとの情報が入る
- ◆ 家屋への被害情報も入る
- ◆ 災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり

↓

保健活動拠点○○に参集した保健師△人で、これから翌日(6日)正午までに何をしますか？

保健師	翌日(6日)正午までに行うこと	翌日の正午過ぎまでかかりそうなことは○
保健師○○		
保健師○○		
保健師○○		
.....		

*「保健師」の部分は初動体制として想定される(又は想定されている)班やグループでもよい

(状況・課題について読み上げる)

この状況において、保健活動拠点に残る保健師(統括保健師や統括保健師を補佐する保健師等)は翌日の正午までに何をするか? 避難所は何カ所あるか、保健師はどこかの避難所へ行くか、常駐型と巡回型、どちらで対応するか、実施予定の事業はどうするか、等について、できるだけ具体的に考えてみてください。

ワークシートの「保健師」の部分は、初動体制として想定される(又は想定されている)班やグループで考えていただいても結構です。

※ブレイクアウトルームに入らず残っている一人参加者は、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

※市町村別ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

※複数市町村でのグループワークの各グループのファシリテーターは都道府県研修担当保健師、保健所保健師、市町村の管理期にある保健師等が考えられる

※複数市町村でのグループワークはグループ内の全市町村及び保健所に課題について考えたことを発表してもらおう。スプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。

休憩 (10分間) ※ブレイクアウトルームを一旦、解除する

< 2日目 >

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
13:30~13:35	オリエンテーション	
13:35~14:00	演習「豪雨災害時の保健活動」 演習課題1：避難所活動及び市町村と保健所との連携（説明・市町村別ワーク25分）	進行：都道府県研修担当保健師A 進行補佐：都道府県研修担当保健師B
14:00~14:20	演習課題2：雨上がり後の被災者の健康ニーズと保健活動（説明・市町村別ワーク20分）	
14:20~14:40	演習課題1・2の発表（ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループ単位20分）	

・演習の実施

スライド1（演習課題1）説明・市町村別ワーク25分

8月6日（土）午後1時

- ◆ 正午に雨が上がり、「洪水注意報」に警戒レベルが下がった。
- ◆ 避難所の避難者の中には自宅に戻ろうとしている人や、一旦自宅に戻るも戻ってきた人等様々。
- ◆ 人的被害：所属保健所管内 死者1名 重症者2名 所属市町村 重症者1名
住家被害：所属保健所管内 全壊10棟 半壊2,200棟 一部損壊4,000棟
床下浸水 10棟 床上浸水 300棟
所属市町村 全壊5棟 半壊1,000棟 一部損壊 1,800棟
床上浸水 0棟 床下浸水 130棟

課題1

市町村：保健所職員がこれから情報収集に来るといふ。被災市町村として、どのようなこと（情報）を伝える必要があるか？

保健所：管内市町村について、どのような情報収集をする必要があるか？

誰	収集する情報	目的
○○		
○○		
○○		
……		

*「誰が」の部分は災害時体制として想定される（又は想定されている）班やグループでもよい

それでは、これから演習を始めます。マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目的も、前回同様、受援を要するような豪雨災害が発生した状況を想定したケースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ1における市町村保健師の役割を理解し、平時に準備すべきことを考え、意識化することです。

災害想定は前回と同様です。市町村保健師は所属の市町村の状況と、保健所保健師は所属の保健所の管内市町村の状況と考えてください。今回は高齢者等避難開始及び避難指示が発令された8月5日の午後9時における演習課題に取り組みました。本日の1つ目の演習課題は8月6日の午後1時の時点について考えます。（スライドを読み上げる）

誰が、どのような情報を、何のために収集するか、について考えてください。「誰が」の部分は、災害時の体制として想定される班やグループとして考えていただいても結構です。

※所属市町村や保健所から一人で参加している保健師がいる場合には、この時点から他の参加者にはブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。

※市町村別ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

スライド 2 (演習課題 2) 説明・市町村別ワーク20分

8月7日 (日) 午前9時

- ◆ 朝から晴天。
- ◆ 道路の水は概ね引いている。
- ◆ 避難所では「家のことが心配で、昨夜は眠れなかった」等の声が聞かれる。家に帰る支度をしている避難者も多数みられる。

課題2

↓

今後、住民にはどのような健康に関連する課題が生じる可能性があるか？
また、それに関連して、どのような保健活動が必要であるか？

健康課題	活動	誰が
		○○
		○○
		○○
		……

*「誰が」の部分は災害時体制として想定される (又は想定されている) 班やグループでもよい



(状況・課題について読み上げる)

- 考えられる健康課題と、それらに対する活動、その活動を誰が行うのか、ということについて考えてください。
- ※ブレイクアウトルームに入らず残っている一人参加者は、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。
 - ※市町村別ワークの終了 5 分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

演習課題 1・2 の発表：複数市町村でのグループワーク20分

- ※ブレイクアウトルームにより行う。
- ※グループ内の全市町村及び保健所に課題について考えたことを発表してもらう。スプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。例えば『情報収集の目的』、『健康課題への対応』等と、共有や情報・意見交換の内容を焦点化すると、より効率的・効果的な発表となる。

休憩 (10分間) ※ブレイクアウトルームを一旦、解除する

e ラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解」(17分) 視聴

2つの演習課題及びeラーニングの視聴を踏まえて、必要時、簡単なコメントを述べる。

演習課題 1 のねらい：フェーズ 0 における保健師の役割を理解し、その役割遂行のために必要な収集すべき情報とその収集目的を具体的に考えられる。

コメント内容例

- ・フェーズ 0～1 の医療保健福祉ニーズと課題、保健活動
 - ・発災時の情報収集やアセスメントの特徴及び被災市町村、管轄保健所それぞれが収集すべき情報
 - ・避難所における保健活動
 - ・市町村と保健所との連携とその目的
 - ・受援の必要性の判断
- 等

演習課題 2 のねらい：フェーズ 1、そしてフェーズ 2 も見据えて、住民に生じる可能性のある健康に関連する課題と、それに関連する保健活動を考えることができる。

コメント内容例

- ・被災者の居場所と生じる可能性のある健康に関連する課題
- ・健康に関連する課題を明らかにするための方法
- ・豪雨災害に関わる二次的健康被害と保健活動 等

講義「〇〇県の災害時保健活動の実際」(20分)

※講義内容として、当該県の災害対策に関わる取組、応援・派遣の流れや実績、本庁と保健所と市町村の連携、災害時の難病患者への支援と個別避難計画等が考えられる。過去の発災時の対応や応援・派遣保健師の経験等を例に挙げて説明するとよりわかりやすい。

リフレクション及びアクションプラン「平常時に準備すべきこと」(40分)



1. 気づきを促す：個人ワーク (5分)
※ 2日間の研修を踏まえて、個人のリフレクション
※ 一人参加者以外は、最初からブレイクアウトルームに入ってもらい、一人参加者には個人ワーク及び市町村別ワークの間はブレイクアウトルームには入らず残ってもらい、研修主催側の都道府県研修担当保健師等がサポートする。
2. 学びの意味づけを促す/意識化を促す：市町村別ワーク (15分)
※ 個人のリフレクションを踏まえて、今後、平常時に準備すべきことを考え、組織としてのアクションプランを立てる
※ 市町村別ワークの終了 5 分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す
3. 意識化を促す：ブレイクアウトルームにより複数市町村でのグループワーク (20分)
※ ブレイクアウトルームにより行う。
※ グループ内の全市町村及び保健所にアクションプランを発表してもらい、スプレッドシートで各グループのアクションプランを共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークはアクションプランの共有や情報・意見交換により、アクションプランに関する気づきやより詳細に考えられることをねらいとする。

4. 研修プログラムD（保健所主催による管内市町村の保健師を対象とした集合研修またはWEB研修）

－大規模地震事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

－保健所管内の市町村の保健師

2) 目的・目標

大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における保健師活動を疑似体験し、大規模地震発生時の保健師活動方法を考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・想定される状況について、所属自治体における平時の保健活動体制や所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル等と照らして、市町村グループ毎に自ら状況を設定し、イメージしながら考える
- ・所属組織や自治体の現状をともに認識し、考える
- ・参加者個人あるいは所属組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）～（4）
2. 救急医療の体制づくりの（5）、（6）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）、（8）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）～（12）
5. 外部支援者の受入に向けた準備の（13）、（14）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

4. 外部支援者との協働による活動の推進の（26）～（28）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修またはWEB（ZOOM）研修・3時間半

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
5分	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	保健所保健師A
35分	演習オリエンテーション	進行：保健所保健師A
60分	演習（演習課題30分×2）	進行補佐：保健所保健師B
10分	休憩	
30分	演習（演習課題30分×1）	進行：保健所保健師B
40分	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	進行補佐：保健所保健師A
30分	・研修の講評 ・災害保健活動に関する今後の方向性 ・研修の評価	保健所保健師A +管理的立場の保健師又は災害対応経験のある保健師又は災害保健活動に関する有識者

6) 参加者への事前課題

- ・eラーニング教材「フェーズ毎の保健活動」（21分）、「避難所における迅速アセスメント」（18分）、「受援についての体制づくり」（20分）の視聴
- ・所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル
メモ（A4用紙3枚程度）及び筆記用具
- ・グループ編成
基本的には市町村単位のグループとする。一つの市町村からの参加者が少ない場合には、規模や組織体制が類似した市町村の参加者で構成されたグループとする

加えて<WEB研修の場合>

- ・研修資料の配信
- ・ネット環境の把握（アクセス場所、アクセス端末数（一人一台か、あるいは所属組織で一台か、など））
- ・参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 可能な限りネット環境が安定している場所を選ぶこと
 - ✓ 同一組織または自治体で、同じ場所から複数の参加者がいる場合、参加者同士で話し合う機会があるため、環境や感染対策に留意すること
 - ✓ 当日の連絡・問い合わせ先（ネットへのアクセスができない等の不測の事態等が生じた場合）
- ・事前に接続テストを行う
研修当日と同じ端末、同じ環境で接続してもらう

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・研修主催者側がグループ発表内容等を記載するための用紙（以下の例の表を参照のこと）

加えて<WEB研修の場合>

- ・ネットにアクセス可能なPC2台及びネット環境が安定している場所の確保
- * PCの不具合が生じた場合のためにPCは2台準備する
- * 停電や騒音を伴う工事などの予定がないか、確認しておく
- ・ヘッドセット2セット
- ・連絡・問い合わせ用の電話
- ・演習課題のグループワークシートは、グループ内で共有できるように、グループ毎のスプレッドシート等を作成しておく（以下の例の表の、保健師名・経験年数・災害対応経験の有無がないもの等）。スプレッドシートにアクセスできない市町村がある場合には、事前に同じシートの電子ファイルを送っておく。

例)

自治体 課題	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有 保健師 j・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ <WEB研修の場合>
- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする。

加えて<WEB研修の場合>

- ・ ネットにアクセス可能な場所で、P C 2 台を設置し、ヘッドセットで使用する
- ・ 参加者のアクセス場所、アクセス端末数を、事前把握のとおりであるか確認する

10) 研修の開始

① 研修全体のオリエンテーション

本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

- ・ 演習スケジュール

時間	内容	役割分担
40分	演習オリエンテーション（説明10分、状況設定ワーク20分、発表10分）	進行：保健所保健師 A 進行補佐：保健所保健師 B
30分	演習課題1（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	
30分	演習課題2（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	
10分	休憩	
30分	演習課題3（説明5分、ワーク15分、発表・コメント10分）	進行：保健所保健師 B 進行補佐：保健所保健師 A

- ・ 演習のオリエンテーション

（スライド 1）説明 5 分

災害想定

- ◆ 令和●年9月16日（木）午前3時00分、〇〇県東部を震源（震源の深さ14km）とするM8.0の地震が発生し、〇〇県内では震度6弱～震度7の非常に強い揺れを観測した。
- ◆ A市は震度6強であった。
- ◆ 一般電話は通話不能、防災行政無線・衛星携帯電話は使用可能。
- ◆ インターネットは使用可能、メールは送れて届く。
- ◆ 管轄保健所は〇〇県Y保健所。Y保健所管内ではA市のほかB町でも震度6弱を観測した。



それでは、これから演習を始めます。

<WEB研修の場合>

マイク及びカメラのオン、オフは進行の指示に従ってください。最初は、マイクはオフ、カメラはオンをお願いします。

本日の演習の目的は、大規模地震が発生した状況を想定したメースメソッドによる演習により、フェーズ0～フェーズ2における市町村保健師の災害時保健活動遂行能力を高めること、またそのための自己及び組織の課題を見出して平時の活動につなげることです。

本日の演習課題の状況設定です。あなたはA市の保健師です。A市とはご所属の市町村と考えてください。(状況設定を読み上げる)

説明5分、状況設定ワーク20分、発表10分
(スライド2)

9月16日(木) 午前10時の状況

<A市>

- ◆ 出勤している保健師 2/3
- ◆ ライフライン：上下水道断水率80%、固定電話不通回線率70%、携帯電話被害率80%、停電率80%
- ◆ 建物被害(全壊や半壊)や負傷者が多数出ているとの情報あり
- ◆ A市の災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり



(スライドを読み上げる)

(スライド3)

まず、発災後の状況設定を考えてみましょう！

<A市>

- ◆ 震度6級の地震が発生した場合、保健師はどこに参集することになっているか
- ◆ 出勤している保健師 2/3 → 誰が出動したことにするか
- ◆ 災害時、保健活動拠点はどこか？そこには自家発電設備があるか



用意している所属自治体の防災計画・防災マニュアル、また保健活動マニュアル(作成している場合)も確認しながら考えてください。

※参加者が所属市町村の状況を踏まえて、演習における状況設定ができるようにする

<WEB研修の場合>

※所属市町村から一人で参加している保健師がいる場合には、専用のブレイクアウトルームをつくり、保健師等がサポートしながら、状況設定ワークを進められるようにする。

※発表においては、参加者個々が自所属の状況を踏まえて、どのように状況設定したかを確認する

・演習の実施

(スライド 4) 演習課題 1 説明 5 分、ワーク15分、発表・コメント10分

9月16日 (木) 午前10時

<A市>

- ◆ **コイノライン**：上下水道断水率80%、固定電話不通
回線率70%、携帯電話被害率80%、停電率80%
- ◆ 建物被害（全壊や半壊）や負傷者が多数出ているとの情報あり
- ◆ A市の災害対策本部より、人命救助を最優先するよう指示あり

↓

保健活動拠点〇〇に参集した保健師△△人で、これから午後5時までに何をしますか？

保健師	午後5時までにすること	午後5時過ぎまでかかりそうなことには○
保健師〇〇		
保健師〇〇		
保健師〇〇		
.....		

(スライドを読み上げる)

ワークシートの「保健師」の部分は、初動体制として想定される（又は想定されている）班やグループで考えていただいても結構です。*以下の演習課題 2、3も同様

<WEB研修の場合> *以下の演習課題 2、3も同様
 ※一人参加者については、専用のブレイクアウトルームに入ってもらい、保健所保健師等がサポートしながら、ワークを進められるようにする。
 ※ワークの終了5分前までには、スプレッドシートへの入力状況を確認し、必要時、入力を促す。

・発表は異なる市町村の保健師 2～3名程度

<WEB研修の場合> *以下の演習課題 2、3も同様
 ※発表の際にはスプレッドシートで各グループの課題への取組結果を共有しながら行う。スプレッドシートにアクセスできない市町村等の参加者については、事前に送っていただいた同じシートの電子ファイルを画面共有する。相互に質問し合うのもよい。このグループワークは考えたことの共有や情報・意見交換をねらいとする。

・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

演習課題 1 のねらい：参集した保健師数、その者たちの職位、防災計画等における取り決め事項、そして災害対策本部の指示を踏まえて、初動期における保健師の活動を具体的に考えられる

コメント内容例

- ・統括保健師または管理的立場の保健師、その者を補佐する保健師、現場の保健師、それぞれの役割
- ・保健活動拠点に残る保健師：誰が残り、何をするか（実施予定の事業に関する対応、情報収集、災害対策本部や保健所との連携など）
- ・避難所にいる被災者への対応：巡回型、常駐型、いずれの方法で対応するか。この時点での避難所対応の目的や救護所への対応 等

演習課題 3 説明 5 分、ワーク15分、発表・コメント10分

9月18日（土）-発災3日目-

◆ A市への応援派遣保健師決定の連絡あり。栃木県から1班3名保健師派遣決定。9月20日（月）から派遣可能。公用車なし。宿泊場所確保済み。4泊5日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可。

◆ 富山県から1班5名保健師派遣決定。公用車あり。宿泊場所を探しているが決定次第、派遣可能。3泊4日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可。

◆ 日本看護協会の災害支援ナース1班2名派遣決定。9月19日（日）から派遣可能。1班2日（毎週土日のみ）継続。

◆ 栃木県と富山県からの保健師はY保健所経由。

応援派遣保健師の受け入れのための調整について、考えてください。
具体的には、配膳場所、オリエンテーションなど、そして誰（どこ）と、どのような調整をするかについてです。

誰と	何をするか	必要な調整は



- ・スライドを読み上げる
- ・発表は演習課題 1、2 とは異なる市町村の保健師 2～3 名程度
- ・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

演習課題 3 のねらい： 受援のために必要な体制整備や調整を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・ 応援派遣者へのオリエンテーション及び受援のための体制整備
- ・ 応援派遣者に依頼する業務及び応援派遣者との協働体制 等

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（40分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（8分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内（市町村単位）でのリフレクション（12分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン
＜WEB研修の場合＞チャットに各自、記載する（10分）
4. 発表（10分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、各市町村1人ずつ

5. 研修プログラムE（市町村保健師を対象とした集合研修）

－大規模地震発生時を想定した既存の演習教材（避難所HUG）を活用したプログラム－

* 避難所HUGの活用については、静岡県の承諾を得ています

1) 対象

市町村の保健師

※主催者は都道府県研修担当保健師、保健所保健師、市町村保健師、いずれも考えられます。

2) 目的・目標

大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における避難所活動を疑似体験し、大規模地震発生時の避難所活動における初動の運営について考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出す

3) 本演習の特徴

- ・ 想定される状況について、所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル等を踏まえ、イメージしながら考える
- ・ 所属組織や自治体の現状を振り返りながら、考える
- ・ 参加者個人あるいは所属部署・組織の強みと課題を見出す機会とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）

II 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）

1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくりの（15）、（16）、（18）

2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくりの（19）、（20）

5) 研修プログラム

① 研修形態・研修時間：集合研修・3時間半

② 研修スケジュール

時間	内容	役割分担
5分	本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的	研修主催側保健師A
95分	演習オリエンテーション（15分） 避難所運営シミュレーション演習 ・ HUG（50分） ・ グループワーク①避難所避難者のアセスメント、避難者の生活環境のアセスメント（20分） ・ グループワーク②避難所に関わる保健活動において重要なこと（10分）	進行：研修主催側保健師B 進行補佐：研修主催側保健師A
10分	休憩	
40分	eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、 「災害時の二次的健康被害の理解」（17分）視聴	進行：研修主催側保健師A 進行補佐：研修主催側保健師B
30分	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン	
30分	・ 研修の講評・災害保健活動に関する今後の方向性・研修の評価	研修主催側保健師A + 管理的立場の保健師又は災害対応経験のある保健師又は災害保健活動に関する有識者

6) 参加者への事前課題

- ・ eラーニング教材「避難所における保健活動の基本①②」(計28分)、「避難所における迅速アセスメント」(18分)の視聴
- ・ 所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアルの確認

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 参加者の経験年数、災害対応経験の有無の把握
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
所属自治体の防災計画・防災マニュアルや保健活動マニュアル、筆記用具
- ・ 研修会場の確保 (感染対策に配慮しながら避難所HUGがグループ数分けるスペース)
- ・ 演習グループの編成
 - ✓ 1グループは6～7人とする
 - ✓ 演習グループは、発災時は様々な人々と協働する可能性があり、このような疑似体験を重視するならば、様々な市町村の保健師から成るグループ編成が考えられる。所属する市町村の状況や市町村内保健師の協働についての疑似体験を重視するならば、同じ市町村または規模や組織体制が類似した市町村の保健師から成るグループ編成が考えられる。リフレクション及び今後に向けたアクションプランについては後者が適していると考えられる。

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ PC、スクリーン、プロジェクター、マイク2本 (ワイヤレスマイク、小さいマイク)
- ・ 感染対策のための物品 (消毒用アルコール、ウェットシート、フェイスシールド)
- ・ 避難所HUGを行うための物品※ (カード、体育館・学校敷地図・校舎の図面、マジック、A4用紙20枚程度、役割を記載した名札、ホワイトボード、マグネット又はセロハンテープ、クロノロを同時に行う場合は、模造紙または記載用シートを用意) ※グループ数分用意
- ・ グループ発表内容等を記載するための用紙

例)

自治体	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
GW①				
GW②				
..				

- ・ リフレクション及びアクションプラン立案の内容を記載するための用紙

9) 当日の準備 (設定)

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け (ラダーとの関連等) 及び目的を話す

② 演習の実施

・演習スケジュール

時間	内容	役割分担
15分	演習オリエンテーション	進行：研修主催側保健師B 進行補佐：研修主催側保健師A
50分	避難所運営シミュレーション演習 (HUG)	
30分	グループワーク①20分 (説明2分、ワーク10分、発表・コメント8分) グループ②10分 (説明1分、ワーク5分、発表・コメント4分)	

・演習のオリエンテーション

説明15分

演習目的

避難所運営ゲームHUGを通して、
自然災害発生時の避難所の運営を
疑似体験し、避難所活動における
初動の運営について考える。

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

それでは、これから演習を始めます。

本日の演習の目的は、大規模地震発生後のフェーズ0（初動体制の確立）～フェーズ2（応急対策期－避難所対策が中心の時期）における避難所活動について、避難所運営ゲームHUGにより疑似体験し、大規模地震発生時の避難所活動における初動の運営について考え、自身や所属部署・組織の災害対策の課題を見出していただくことです。

本日のゲームの条件

地震発生状況

- ・今日は10月2日(水)
- ・現在時刻は午前10時
- ・午前3時に〇県東部を震源とする
最大震度7、マグニチュード8.0
の大地震が発生
- ・震源の深さ 14キロ
- ・A市は震度6強

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

本日の演習の条件です。地震発生状況は～（スライドを読み上げる）

本日のゲームの条件

避難所の職員体制

- ・ ○県○保健所管内のA市のB地区担当保健師はA市災害対策本部から所属課長を通じて地区担当保健師として避難所に出向き、避難者への対応に当たるよう指示された
- ・ 避難者を、避難所である自治小学校の体育館や教室に振り分け、避難所を適切に運営していかなければならない

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

あなたはA市の保健師です。A市とは自分が所属する市町村と考えてください。
(条件を読み上げる)

本日のゲームの条件

避難所の職員体制

- ・避難所運営には以下のものが関わる
 - A市保健師(B地区担当)
 - A市事務職員
 - 学校教職員
 - 自治会長

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

避難所の職員体制はこのようになっています。(スライドを読み上げる)

※HUG付属のパワーポイント教材にある、その他の「本日のゲームの条件」(ライフライン、避難所の小学校の被害、住民組織、天候、避難者の状況、備蓄してあるもの、体育館・教室の開放順序等)を読み上げる

※HUG付属のパワーポイント教材にある「ゲームのしかた」を用いて、ゲームの方法を説明する

・演習の実施

HUG50分

作戦会議と練習

- 役割分担をしてください
(A市保健師、A市事務職員、学校教職員、自治会長)
- 避難者カードの1番から15番を体育館に配置しながら、地区割りや通路、受付等の場所をどうするか、作戦会議をしてください。

避難所HUG出典元：静岡県危機管理部

それでは役割分担をして作戦会議と練習に入ります。まず、役割分担をしてください（5分）。

役割分担ができたようなので、役割の名札を付けてください。

※参加者個々が分担した役割を踏まえて、演習に取り組めるようにする。

それではHUGを始めます。(HUGカードを時間まで次々と読み上げていく)

(15分経過後)

それでは、いったん手を止めてください。通路がしっかりマジックで書けているか確認してください。

カードの配置は進んでいますでしょうか。ここで一度、スタッフミーティング（作戦会議）の時間を5分間だけとります。カードの配置は中断し、ゲームの後半をどのように進めるとよいか話し合ってください。

役割分担をしましたが、それぞれの役割を踏まえた活動ができているかについても確認してください。

(5分経過後) HUG再開

(終了予定時間5分前)

カードの配置はストップしてください。それでは、残りのカードにはどのような情報がかかっているか、グループ内で回し読みしてください。

(終了時間)

はい、それではHUGを修了します。皆さんお疲れ様でした。

グループワーク① 説明 2分、ワーク10分、発表・コメント 8分

避難所における 避難者と生活環境のアセスメント

- ・A市の災害対策本部から、避難者と避難所の生活環境の状況について、報告するように求められています。
- ・あなたはどのような情報からアセスメントし、報告をしますか。



- ・スライドを読み上げる
- ・発表は市町村の保健師 2～3 名程度
- ・演習課題のポイントについて、簡単なコメントを述べる

グループワーク①のねらい：HUGカードに記載されている避難者や避難所の生活環境に関する様々な情報からのアセスメントをとおし、避難者の健康や生活に関する顕在的・潜在的ニーズを明らかにすることができる。また、災害対策本部への報告の目的（医療や介護の必要な避難者及び避難者や避難所の生活環境の状況から必要な支援や物資を確保できること等）とそのための情報を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・避難所における保健活動の目的と役割
- ・医療・ケアの必要な人々の把握と対応
- ・避難所における迅速アセスメントのポイント（避難所日報²⁾などを活用した避難者の健康観察等）
- ・避難者の二次的健康被害を防ぐためのアセスメントとそれに基づく必要な支援や資源の判断 等

グループワーク② 説明 1分、ワーク 5分、発表・コメント 4分

避難所における保健師活動において 重要なこと



・グループワーク②のポイントについて、簡単なコメントを述べる

グループワーク②のねらい：保健師の役割と活動体制・活動方法を具体的に考えることができる。

コメント内容例

- ・避難所における避難者の健康管理の体制と方法
- ・避難所における要配慮者への対応（要配慮者数や、医療や福祉避難所につなぐ必要のある者を明確にし、必要な支援に繋ぐこと、等）
- ・避難所での二次的健康被害の発生予防（二次的健康被害の発生予防のための具体的な保健活動（教育啓発活動を含む））
- ・生活環境の整備（トイレの清潔確保、消毒、清掃、換気等）
- ・災害対策本部との連携、保健師間の役割分担
- ・住民の持つ力や強みを避難所運営に活かすことと、そのための平時の取組 等

休憩（10分間）

eラーニング教材「災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制」（22分）、「災害時の二次的健康被害の理解」（17分）視聴

リフレクション及び今後に向けたアクションプラン（30分）

目的（3分）

1. 気づきを促す：個人のリフレクション（5分）
2. 学びの意味づけを促す：グループ内でのリフレクション（15分）
3. 意識化を促す：今後に向けたアクションプラン
4. 発表（7分）*経験年数の異なる保健師（発表は若い保健師から）とし、2～3人

6. 研修プログラムF（市町村における全保健師を対象とした集合研修）

－新型コロナウイルス感染症禍における豪雨災害事例の演習教材を活用したプログラム－

1) 対象

一市町村の全保健師（キャリアラダー A-1～B-2 段階）

※主催者は当該市町村の保健師

2) 目的・目標

実際に当該市で起こりうる風水害を想定した事例を用いて、現場に出向く保健師に焦点をあてた保健活動を考える

- ①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくる
- ②当該市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成の参考とする
- ③災害対策における他部署他部局との連携調整に役立つ

3) 本演習の特徴

- ・当該市内で過去に水害被害があった状況を参考に演習事例を想定する
- ・I 超急性期（フェーズ0～1）に焦点をあてる

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（1）、（3）、（4）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）～（12）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修・8:45～12:05

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
8:45～8:50	開会 挨拶・オリエンテーション	市保健師A及び市統括保健師
8:50～9:10	ミニレクチャー「市町村の災害時保健活動の重要性と基本的事項」（15分） *内容は災害時の保健医療ニーズ、市町村保健師の役割などeラーニング教材から抜粋 演習の目的・進め方説明（5分）	市統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 市保健師A
9:10～9:30	演習「豪雨災害時の市保健師の活動」 状況設定の説明 課題1：被害が予測される段階の準備 (個人で考える→グループワーク、コメント)	進行：市保健師A 進行補佐：市保健師B
9:30～9:50	課題2：避難所活動の準備 (個人で考える→グループワーク、コメント)	
9:50～9:55	休憩	
9:55～10:15	eラーニング教材「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴	
10:15～10:35	課題3：避難所迅速アセスメント (個人で考える→グループワーク、コメント)	進行：市保健師B 進行補佐：市保健師A
10:35～10:55	課題4 避難所における医療・ケアが必要な人への対応 (個人で考える→グループワーク、コメント)	
10:55～11:10	eラーニング教材視聴「避難所における保健活動の基本②」（15分）視聴	
11:10～11:50	リフレクション及び今後に向けたアクションプラン (個人で考える→グループワーク→共有)	進行：市保健師B 進行補佐：市保健師A
11:50～12:00	講評 まとめ、今後の災害時保健活動体制、 取組みの方向性	進行：市保健師B 講評：市統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師
12:00～12:05	「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」記入説明	市保健師B

6) 参加者への事前課題

- ・ eラーニング教材資料「避難所における新型コロナウイルスへの対応」、「避難所における迅速アセスメント」、「避難所における保健活動の基本①②」の一読
- ・ 市防災計画・防災マニュアルから保健活動の体制と自分の役割の確認
- ・ 「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」の記入

7) 研修主催側の事前準備

- ・ 研修資料の郵送または配信
- ・ 参加者の経験年数、配属部署、災害対応経験の有無の把握
- ・ 参加者へ事前に周知すること
 - ✓ 当日、参加者が準備するもの
事前送付資料、筆記用具

8) 研修主催側が準備するモノ

- ・ PC、スクリーン、プロジェクター、マイク
- ・ グループワークの際の感染対策準備（飛沫防止、換気、机の配置など）
- ・ 当日配付資料
 - ✓ 研修説明資料及びワークシート
 - ✓ 参加者名簿（グループ番号入り）
- ・ グループに準備するもの
 - ✓ 「災害時の保健活動推進マニュアル」²⁾
 - ✓ 市地域防災計画
 - ✓ 市福祉避難所設置・運営マニュアル
 - ✓ グループワーク記入用模造紙またはA4コピー用紙及び筆記用具
(感染状況によって、模造紙かA4コピー用紙、どちらを使用するか判断)
- ・ 研修主催側用のグループ発表内容等を記載するための用紙

例)

グループ	A 保健師 a・〇年・有 保健師 b・〇年・有 保健師 c・〇年・有	B 保健師 d・〇年・有	C 保健師 e・〇年・有 保健師 f・〇年・有	D 保健師 g・〇年・有 保健師 h・〇年・有 保健師 i・〇年・有
課題1				
課題2				
..				

9) 当日の準備（設定）

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

10) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す

② 演習の実施

・演習のねらいと対応するコンピテンシー、進め方のオリエンテーション（5分）

「演習のねらいは、①災害を自分事として捉え、災害が起こった場合に対応できる保健師としての心構えと準備状況をつくること、②市の災害対応の課題を見出し、災害対策の体制や保健師活動マニュアル作成に役立てることです。」

「この研修で習得をねらう災害対応のコンピテンシーは～です。」

「状況設定と討議して頂く課題を順番に示していきます。」

それぞれの課題について、はじめに個人で考え、その後グループ内で共有します。

提示された状況の設定された保健師の立場ならば、自分はどうか判断し行動するかを考えてみてください。

グループワークでは、進行係・記録係を決めてください。

進行係は、グループメンバー全員から発言が得られるよう配慮してすすめてください。

後から振り返ることができるよう、また発言を共有しながら討議を進められるよう、記録係は発言を記録してください。

課題に取り組みやすいように、途中でeラーニングコンテンツを視聴します。

自分自身の災害対応への準備状況や市や所属部署の災害対応がどのようになっているのかを振り返ることが最も重要なねらいです。

率直に感じたことや考えたことを共有しましょう。」

・災害想定の説明（1分）

災害想定

- あなたは、A市保健師5年目Aまたは15年目B。自宅は市中心部にあります。
- 7月4日（金）から梅雨前線が九州北部地方に停滞。梅雨前線の南側では、南から暖かく湿った空気が流れ込み、長時間にわたり大気の状態が不安定となりA市X地区では、局地的に非常に激しい雨が降っています。
- これまで経験したことの無いほどの甚大な被害が予測される状況です。

本日の演習における災害想定です。

みなさんにはA市X支所福祉課所属の5年目保健師Aまたは、A市健康づくり推進課所属の15年目保健師Bのいずれかの立場を選んでいただき、その立場でこの演習の課題を考えてください。

（災害想定を読み上げる）

課題1「被害が予測される段階の準備」 説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

場面1 発災前 7月5日（土）1時50分

大雨洪水警報発令、第2警戒体制が配備された。
今後も猛烈な雨が引き続く予定で、Z川氾濫も予測される。

自主避難所は各地に開設された。

今後、大雨が続く予報で、指揮をとる保健師から、自宅待機を指示された。

待機となったあなたは発災に備えて何をしますか？

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分で進めます。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※この際、持参を求めた自治体の防災計画・防災マニュアル等も確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題1のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題1のねらい：風水害発災前の準備予測の段階で、個人としての備えとして何を準備するか考えることができる。市の警戒体制のレベルが上がった場合、保健師として行うべきことを予測する。防災情報や「避難」情報に沿った活動を考えることができる。

ポイント

- ・風水害に対する一住民として及び自分の家族の備えを振り返る。
- ・担当区域や居住区域の水害ハザードを確認する。
- ・「雨」や「川」の防災情報と警戒レベルと「避難」情報の理解

課題 2 「避難所活動の準備」 説明 1 分、個人ワーク 5 分、グループ共有 9 分、発表 5 分

【場面 2】 発災前からフェーズ 0
7 月 6 日（日） 15 時

- ・ Z川氾濫の恐れが高まり、災害対策本部が配備された。Y地区の一部（578世帯1336人）に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令された。国道は渋滞し、県道は通行止めになっている箇所がある。
- ・ 15時30分、指揮を担当する保健師2名が、健康づくり推進課内に出務。
- ・ 災害対策本部より、指揮をとる保健師へ、避難所には避難者があふれており、発熱している人、咳をする人がいると連絡が入った。Y地区を流れるZ川の堤防決壊からの越水が報告され、ひざ下が濡れ、避難中の転倒により、けがをして出血している人もいるとのこと。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所収容可能人数についての問い合わせもあった。

【場面 2】 発災前からフェーズ 0
7 月 6 日（日） 16 時

- ・ 指揮をとる保健師は、自宅待機していた保健師に、X地区に開設された指定避難所に向かうよう指示した。
- ・ X地区では、X複合施設、X高等学校、Y小学校3か所の避難所が開設されている。
- ・ A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に派遣されることとなった。

新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた避難所運営のため、どのような準備をして避難所に向かいますか？

対応コンピテンシー I-1 (1) (3) (4)

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間 5 分、グループ内での共有 9 分、発表 5 分です。手元のワークシートをメモ用で使用してください。

※自治体の防災計画・防災マニュアル、災害時保健活動推進マニュアルや避難所迅速評価等の配布資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題 2 のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題 2 のねらい：避難所支援における保健師の役割を考えることができる。避難所における新型コロナウイルス感染症対策を確認する。

ポイント

- ・ 避難所における初動体制確立時の保健師の役割
- ・ 自治体の地域防災計画における避難所設置運営事項の確認
- ・ 避難所巡回時の準備物品

休憩（5分間）

eラーニング教材「避難所における迅速アセスメント」（18分）視聴

課題3 避難所迅速アセスメント 説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

【場面3】フェーズ1
7月6日（日）18時

- A保健師とB保健師は、X高等学校避難所に到着した。
- 避難所には避難者があふれており、あと20人で避難所収容可能人数になってしまう状況。
- 乳幼児を連れた妊婦、持病の薬を持ってこなかったという高齢者がいる。精神疾患をもつ独居高齢者が不穏でウロウロしている。自治会長が避難してきた。
- 避難者から、Y地区独居の人が避難所にいないと安否を心配する声が入った。また、自宅の隣は、脳梗塞後の半身不随の高齢者、数件先には、認知症が心配な独居高齢者がいるとの情報。人工透析患者も避難している。

**この時点で収集すべき情報は何でしょうか
そのうえでどのような体制を整えますか**

対応コンピテンシ I-1 (1) (3)

（読み上げる）それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分ですすめます。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※避難所迅速評価等の配布資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題3のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題3のねらい：避難所支援における保健師の役割を踏まえ、避難所迅速アセスメントを模擬的に実施する。

コメント内容例

- 被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療・ケアが必要な人、配慮の必要な人の特定と対応
- 二次的健康被害発生予防のための観察ポイント
- 避難所支援の資源・協力者の把握

課題4 避難所における医療・ケアが必要な人への対応

説明1分、個人ワーク5分、グループ共有9分、発表5分

【場面4】フェーズ1 7月7日（月）朝6時

- ・雨は断続的に降り続けている。
- ・近くのグループホームから、浸水の危険性が高まったため入居者がスタッフとともに避難してくるという情報が入った。入居者には、車いす利用者や認知症高齢者が含まれる。

グループホームからの避難者を受け入れる準備をどのように進めますか

1-1 (3) (4)
1-4 (10) (11) (12)

(読み上げる) それでは、今から個人で考える時間5分、グループ内での共有9分、発表5分です。手元のワークシートをメモ用に使用してください。

※自治体の防災計画・防災マニュアル、災害時保健活動推進マニュアル、福祉避難所設置・運営マニュアル等資料を確認しながら考えてもらう。

※発表後、課題4のねらいやポイント等、簡単なコメントを述べる。

課題4のねらい：避難所における医療やケアが必要な要配慮者への避難所支援における保健師の役割を考える。

コメント内容例

- ・避難所における保健福祉的トリアージ
- ・医療やケアが必要な要配慮者への対応における関係機関や関係者との連携

eラーニング教材「避難所における保健活動の基本」②（15分）視聴

リフレクション・アクションプラン「平時に準備すべきこと」

個人ワーク 8分、グループ内共有15分、全体共有17分

振り返り（個人ワーク）8分

演習に取り組んでみて気づいたことを書き出しましょう。

平時からしておくべきことを書き出してみましょ

う。具体的なアクションプランをあげましょ

う。
*アクションプランには、1~2か月以内に実行可能なものを必ず1つは含めてください。

- ・スライドを読み上げる
- ・気づきを促す：個人のリフレクション→シートへの記載
- ・学びの意味づけを促す/意識化を促す：グループ内共有
- ・気づきを促す/意識化を促す→全体共有

講評

まとめ 今後の市の災害時保健活動体制と取り組みの方向性

7. 研修プログラムG (都道府県主催の市町村及び当該都道府県の保健師を対象とした集合研修)

—新型コロナウイルス感染症禍における豪雨水害事例の演習教材を活用したプログラム—

1) 対象

—都道府県の市町村及び当該都道府県の中堅期保健師

2) 目的・目標

災害時保健活動に関する基礎知識、中堅期保健師の役割、発災直後にとるべき行動について理解し、平時から準備をすべき内容について具体的に述べるができる

- ①災害時保健活動に関する基礎知識（基本的な考え方、関係法令、災害サイクルに応じたニーズの変化）について理解できる
- ②災害時（特に発災直後）に中堅期保健師に求められる役割を理解できる
- ③災害時に備えて平常時に強化する取り組みについて明らかにできる

3) 本演習の特徴

・レクチャー（L）＋ワークショップ（W）＋リフレクション（R）の構成とする

4) 関連する「実務保健師の災害時のコンピテンシー」

I 超急性期（フェーズ0～1）

1. 被災者への応急対応の（3）、（4）
3. 要配慮者の安否確認と避難への支援の（7）
4. 被災地支援のアセスメントと受援のニーズの明確化（迅速評価）の（10）、（11）

5) 研修プログラム

①研修形態・研修時間：集合研修・13:00～16:00

②研修スケジュール

時間	内容	役割分担
13:00～13:05	オリエンテーション、主催者挨拶	都道府県研修担当保健師 A
13:05～13:30	講義「災害時において中堅期保健師に求められる役割」 演習事例（大型台風・地元保健師）及び進め方説明	統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 都道府県研修担当保健師 A
13:30～13:40	演習Q1（発災前日：避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材）	進行：都道府県研修担当保健師 A
13:40～13:50	演習Q1発表・解説	
13:50～14:05	演習Q2（発災前日：避難所開設準備；コロナ対策避難所設営ゾーニング）	進行補佐：都道府県研修担当保健師 B
14:05～14:20	演習Q2発表・解説	
14:20～14:30	演習Q3（発災3日目：想定される健康課題とその対策）	
14:30～14:40	演習Q3発表・解説	進行：都道府県研修担当保健師 B
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:00	演習Q4（発災3日目：外部支援との協働のための受援準備）	進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
15:00～15:10	演習Q4発表・解説	
15:10～15:30	リフレクション	進行補佐：都道府県研修担当保健師 A
15:30～15:50	リフレクション発表 演習の振り返り、総括	
15:50～16:00	評価シートの記入・総括	総括：統括保健師または管理期保健師または災害対応経験のある保健師 評価シートの記入説明：都道府県研修担当保健師 B

6) 研修主催側が準備するモノ

- ・ P C、スクリーン、プロジェクター、マイク
- ・ 当日配付資料
 - ✓ 研修資料及び個人ワークシート
 - ✓ 参加者名簿

7) 当日の準備（設定）

- ・ スケジュール等、研修主催側の事前の打ち合わせをする
- ・ 会場設営

8) 研修の開始

- ① 研修全体のオリエンテーション
本研修の位置付け（ラダーとの関連等）及び目的を話す
- ② 演習の実施

・ 演習の進め方の説明（2分）

演習

“大型台風の直撃”

被災地（〇〇県A市：人口48,000人、保健師8名）の
保健師として
あなたなら、どうする？

本演習は、スクール形式（着座）による個人検討を中心に演習を実施します。

本日の演習では、新型コロナウイルス感染症禍に発生した台風水害時の被災地自治体（市）の保健師の立場で、保健師の役割について考えていただきます。

設問は4問です。各々、指定された時間内で、人口48,000人、保健師8名のA市の保健師の立場になり思考し、回答を手元のワークシートに記載し、発表してください。

・状況設定の説明（2分）

状況設定：発災当日

大型で強い勢力の台風5号が、明日（10月13日（水））午前中、〇〇県に上陸する予報です。

あなたの勤務するA市は台風の進路にあたることが想定されており、危機管理室を中心に、風雨の強まる前に避難所開設準備を行う方針となりました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に予断を許さない時期であり、感染予防対策の徹底のため、危機管理室職員の避難所開設準備にあなた（保健師）が同行することになりました。

あなたが向かった避難所は市内の小学校です。

本日の演習における状況設定です。

（状況設定を読み上げる）

Q1「発災前日：避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q1.

避難所の開設にあたり、感染予防対策のために、必要な衛生用品や機材として何を準備する必要がありますか。

必要物品とその用途を示してください。

（読み上げる）それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は5分程度

※発表後、避難所開設時の感染症対策のための必要物品、資機材について解説する

Q2 「発災前日：避難所開設準備（コロナ対策避難所設営ゾーニング）」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q2.

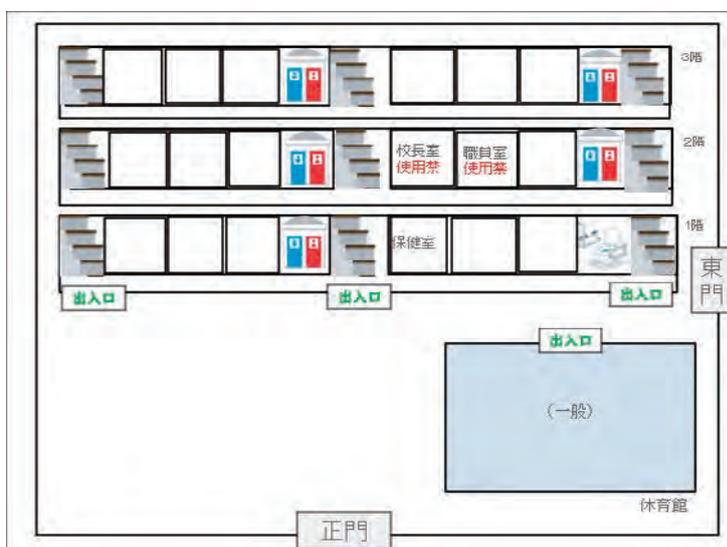
市の危機管理室の方針により、学校の体育館は、一般避難者専用とする方針です。しかし、三密回避のため、一般避難者は体育館のスペースだけでは不足することが想定されるため、校舎(教室)の一部も活用する必要があります。

発熱者の居室は最低2つ以上の教室を確保した上で、以下に示す専用居室の確保、受付の配置、動線を図面上に記載してください。

- ・受付設置場所
- ・動線 →
- ・教室などの区分
- ・その他; 随時設定

教室区分

- ・一般避難者の居室(一般)
- ・発熱者の居室(熱); 最低2か所
- ・自宅療養者の居室(療)
- ・濃厚接触者の居室(濃)
- ・その他; 随時設定



(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、図面上に記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は5分程度

※発表後、避難所における新型コロナウイルス感染症対策としての受付の配置、ゾーニング、動線等について解説する

※必要時、eラーニング教材「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応①(17分)、②(14分)」の視聴による復習を促す

Q 3 「発災 3 日目：想定される健康課題とその対策」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q.3.

留意する必要がある健康課題と、そのための対策は何ですか。

*ここでは、新型コロナウイルス感染症以外の健康課題について検討してください。

(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は 5 分程度

※発表後、台風水害時に想定される健康課題とその対策について解説する

※必要時、eラーニング教材「災害時の二次的健康被害の理解（17分）」の視聴による復習を促す

休憩（10分間）

Q 4 「発災 3 日目：外部支援との協働のための受援準備」

説明・個人ワーク10分、発表・解説10分

Q.4.

- ・ 台風による被害が甚大かつ広域であったため、市内の避難所の開設数は、80か所と報告されています。
- ・ 今後、自宅の流出や倒壊被害の大きな住民の避難生活は1か月以上にわたる可能性が高いことが想定されています。
- ・ 明日から約1か月程度の予定で、他都市自治体保健師6名、災害支援ナース4名が支援に来る予定です。
- ・ 応援支援者に、どのような活動を依頼しますか。そのためにどのような準備が必要ですか。

(読み上げる) それでは、今から10分間、個人で考え、ワークシートに記載してください。その後、発表してもらいます。

※発表は 5 分程度

※発表後、外部支援との協働のための受援準備について解説する

※必要時、eラーニング教材「災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み（24分）」、「受援についての体制づくり（20分）」の視聴による復習を促す

リフレクション 説明・リフレクション20分、発表・演習の振り返り・総括20分

リフレクション		
段階	ポイント	内容
STEP1	気づき	中堅期保健師として、演習中の自身の判断、思考の振り返りを行う > 被災地保健師の立場になってみたことにより、災害時の任務、行動についてどのような気づきがありましたか？ > それに対して、自分自身の知識・行動・態度について、感じたこと、思ったことはどのようなことですか？
STEP2	結果の意味づけ	STEP1の問題点と課題を見出す > そのように感じたのは何故ですか？今、振り返られて、ご自身について、何が問題で、今後どのようなことが課題である(どのような知識・行動・態度を充実させる必要がある)と考えますか？
STEP3	今後に向けた意識化	改善の方向性と具体的な改善策 > 考えた問題や課題について、今後、どのような行動に取り組みますか？(具体的に取り組むこと)

(スライドを用いて、リフレクションについて説明する) それでは、個人個人でリフレクションを行い、ワークシートに記載してください(説明と併せて20分)。その後、発表してもらいます。

※リフレクションにより個人の目標の明確化を図る

※災害対応経験、所属自治体の災害リスク、研修をとおし、強化が必要な部分を認識できるようにする

※発表は10分程度

総括
評価シートの記入

<参考文献>

- 宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、石川麻衣、金吉晴、植村直子、金谷泰宏(2020):実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン 令和2年3月、平成30年度~令和元年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証(研究代表者 宮崎美砂子).
https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2019/193061/201927006A_upload/201927006A202008021913435270011.pdf
- 日本公衆衛生協会/全国保健師長会(2020):令和元年度地域保健総合推進事業「災害時の保健活動推進マニュアル」.
http://www.nacphn.jp/02/saigai/pdf/manual_2019.pdf
- 宮崎美砂子、奥田博子、春山早苗、金谷泰宏、吉富望、井口沙織(2018):統括保健師のための災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン 平成30年3月、平成28年~29年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究(研究代表者 宮崎美砂子).
<https://www.mhlw.go.jp/content/000806948.pdf>

「実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート」

出典：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証（H30-31）」（研究代表者 宮崎美砂子）による「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（令和2年3月）」P41-49

*以下の点を改変しています

- ・自己評価基準を「1：おおむねできる 2：できるとはいえない」から、Ⅰ～Ⅲについては「1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある」に、Ⅳについては「1：できていない 2：あまりできていない 3：おおむねできている 4：できている」に改変
- ・所属（都道府県・市町村・その他）のチェック欄、保健師経験年数の記入欄、災害対応経験または被災地支援経験の有無のチェック欄を追記

実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート

所属 都道府県・市町村・その他（該当に○） 保健師経験年数（ ）年

災害対応経験または被災地支援経験 有 ・ 無

【I 超急性期（フェーズ0～1）発災直後～72時間】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
I-1. 被災者への応急対応				
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先(保健福祉事業実施中の対応も含む)				
コンピテンシー	(1)被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。			
	(2)保健福祉事業実施中の場合は、事業参加者の安全を確保し住民の不安が最小限となるよう統括保健師と連携の下、住民に情報提供を行う。			
知識・技術・態度	1)心身のアセスメント			
	2)保健福祉的視点からのトリアージ			
	3)応急手当の実施			
	4)要配慮者の判断基準			
	5)災害時の倫理的な判断と行動			
	6)保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解			
	7)自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施			
活動場所：避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー	(3)避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。			
知識・技術・態度	1)災害時の二次的健康被害の理解			
	2)避難先での被災者の健康状態の把握			
	3)避難環境のアセスメント			
	4)感染症予防対策の実施			
	5)急性期の被災者の心理的反応とところのケアに関する理解			
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー	(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。			
知識・技術・態度	1)応援の必要性の判断			
	2)指示命令系統の理解			
	3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解			
	4)応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解			

I-2. 救急医療の体制づくり				
活動場所： 保健活動拠点				
コンピ テン シー	(5)診療可能な病院、医療の確保を必要とする被災者に関する情報収集を行う。			
	(6)医療を必要とする被災者への医療提供体制づくりについて統括保健師を補佐し協働する。			
知識 態 度 技 術 ・	1)地域医療の稼働や緊急受入に関する情報収集			
	2)医療依存度の高い被災者に関する情報収集			
	3)統括保健師を補佐する役割の理解			
	4)地域防災計画における医療救護体制の理解			
I-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援				
活動場所： 保健活動拠点及び地域包括支援センター等				
コンピ テ ン シー	(7)平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。			
	(8)安否確認の体制づくりを行う。			
	(9)安否確認のもれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。			
知識 態 度 技 術 ・	1)安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断			
	2)要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント			
	3)連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり			
I-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）				
活動場所： 救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピ テ ン シー	(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。			
	(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。			
	(12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。			
知識 ・ 技 術 ・ 態 度	1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり			
	2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用			
	3)被災地域の迅速評価			
	4)数量データによる、健康課題の根拠の提示			
	5)優先度の高い課題と対象のリストアップ			
	6)受援の必要性と内容に関する判断			
I-5. 外部支援者の受入に向けた準備				
活動場所： 保健活動拠点				
コンピ テン シー	(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。			
	(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。			
知識 態 度 技 術 ・	1)外部支援者の種別・職務の理解			
	2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解			
	3)外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解			
	4)保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解			

【Ⅱ 急性期及び亜急性期（フェーズ 2～3） 中長期】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
Ⅱ-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー	(15)被災者・避難者の心身の健康状態をアセスメントし、セルフケアのために必要な情報や仕組みを判断する。			
	(16)二次的健康障害を未然に予防するための対策を講じる。			
	(17)関連死のリスク兆候を早期に把握し必要な個別対応と予防対策を講じる。			
	(18)住民による主体的な健康管理及び避難所運営管理者等と連携した健康管理の体制づくりを行う。			
知識 技術 態度	1)個人・家族による健康管理のセルフケアの体制づくり			
	2)成長発達段階、ジェンダーに考慮した支援			
	3)亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識			
	4)グリーンケアに関する知識			
	5)廃用性症候群の理解と防止策の実施			
	6)関連死のリスク兆候の理解と対応			
	7)避難所の運営管理者との連携			
	8)長期化する避難生活において想定されるヘルスニーズと連携すべき専門職や専門チームに関する理解			
Ⅱ-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー	(19)環境衛生の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。			
	(20)安心・安全の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。			
知識 技術 態度	1)避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント			
	2)発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識			
	3)感染症予防・食中毒予防に関する技術			
	4)災害時における啓発普及の技術			
Ⅱ-3. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー	(21)避難所単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握すると共に、避難所の統廃合等の状況変化に応じて生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。			
	(22)未対応、潜在化しているニーズを明らかにする。			
	(23)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。			
	(24)重点的に対応すべきヘルスニーズを検討し対応策を提案する。			
	(25)災害対策本部に求める対応の根拠を作成する。			
知識 技術 態度	1)モニタリングによる持続的な情報の蓄積と分析			
	2)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討			
	3)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解			
	4)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討			

II-4. 外部支援者との協働による活動の推進			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テンシー	(26)災害対策本部の情報、健康支援活動の方針を支援者間で共有し、各役割を明確にしながら連携協働できる体制をつくる。		
	(27)外部支援者から受けた相談事項へ対応すると共に、外部支援者の報告から得たヘルスニーズを地域のヘルスニーズの検討に活かす。		
	(28)人員の適正配置に関してアセスメントを行い必要な調整を提案すると共に、避難所の統廃合等の状況の変化に応じて外部支援者の共同体制の再構築を図る。		
知識・技術・態度	チームビルディングの方法の理解		
	協働活動を効果的に進めるための会議運営技術		
	短期交代する外部支援者の活動の質の担保及び情報の見える化		
	外部支援者が捉えたヘルスニーズへの対応と情報の活用		
	外部支援者の適正配置のアセスメントと変化するニーズを踏まえた共同方法の調整		
	保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用		
II-5. 要配慮者への継続的な支援体制づくり			
活動場所：避難所等被災者の避難先			
コンピ テンシー	(29)要配慮者のニーズを持続的に把握し、地域包括支援センター等の関係部署や関係機関と連携・協働して支援を行う。		
	(30)介護・福祉サービスの中断状況の把握と再開への調整支援を行う。		
	(31)避難所の生活環境を要配慮者の視点からアセスメントし調整の必要な事項について避難所運営管理者に助言する。また必要に応じて地域住民の理解促進を助ける。		
	(32)福祉避難所の環境衛生、個別対応について、生活相談職員等の支援者への助言を行う。		
知識・技術・態度	1)二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント		
	2)避難所生活の長期化による心身への影響と新たな要配慮者の出現あるいは状況悪化への対応と関係者との連携		
	3)介護・福祉サービスの中断者への対応		
II-6. 自宅滞在者等への支援			
活動場所：避難所外の被災者の避難先			
コンピ テンシー	(33)自宅滞在者等の二次的健康被害防止のため健康管理に必要な情報提供を行う。また支援の必要性のある個人・家族の把握のため健康調査を企画・実施する。		
	(34)新たに支援が必要な要配慮者を把握し、情報や支援の提供につなげる。		
知識・技術・態度	1)地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応		
	2)車中泊・テント泊等の二次的健康被害の予防と対策の理解		
	3)潜在的な支援ニーズ把握のための健康調査の企画と実施の体制づくり		
II-7. 保健福祉の通常業務の持続・再開及び新規事業の創出			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テンシー	(35)保健事業の継続や再開について、根拠、優先順位、必要とする人員・物資・場等を判断し、実施に向けて調整する。必要時、応援要請する。		
	(36)保健事業の再開を通して、被災者のヘルスニーズを把握する方策を持つと共に、要配慮者を把握し適切な支援につなげる。		
	(37)庁内の他部署・他の関係機関の事業の継続・再開等の動きを把握する。		
	(38)既存事業の工夫に加え、新規事業の創出の必要性について検討し提言する。		
知識・技術・態度	1)保健福祉事業の中断、継続、再開の意義や必要性についての判断と根拠の提示		
	2)ニーズに基づいた新規事業の企画と必要な人的・物的・財政的資源の提示、期待される成果、及びそれらの根拠の提示		

II-8. 自身・同僚の健康管理			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テン シー	(39)自身・同僚のストレス・健康状態の把握と休息の必要性について判断する。		
	(40)ミーティング等の対話の場を通して、同僚相互の状況理解、それぞれの思いを尊重し、各人の役割遂行への敬意を示す。		
	(41)活動の振り返りと意味づけを行う時間をつくる。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)自身及び職場のストレスマネジメント		
	2)被災自治体の職員のストレス反応とこころのケアの理解		
	3)同僚相互の健康観察及び思いや役割遂行の理解と活動を意味づける場の重要性の理解		

【Ⅲ 慢性期（フェーズ4）復旧・復興期】

1：自信がない 2：あまり自信がない 3：おおむねできる自信がある 4：できる自信がある

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)	
Ⅲ-1. 外部支援撤退時期の判断と撤退後の活動に向けた体制づくり			
活動場所：保健活動拠点			
コンピ テン シー	(42)被災地における復旧・復興期の活動計画を具体化するために必要な業務量を推定する。		
	(43)地元のマンパワーの確保状況、医療・保健・介護・福祉サービスの再開状況、復旧・復興期の活動方針に照らして、外部支援者の撤退の時期について判断する。		
	(44)受援の終息を見越して活動の引継ぎに関する計画を策定する。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)復旧・復興期における活動計画及び人的・物的・財政的な資源確保の方策立案		
	2)地元のマンパワーの確保と活用及び地元の支援人材の育成に対する計画立案		
	3)外部支援者の撤退時期の判断と引継ぎ計画の立案		
Ⅲ-2. 被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テン シー	(45)仮設住宅単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握する方法を構築すると共に、仮設住宅等移動後に生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。		
	(46)未対応のニーズ、潜在化しているニーズを明らかにする。		
	(47)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。		
	(48)きめ細かく対応すべきヘルスニーズを検討し、活動の在り方を判断する。		
	(49)定期的な健康生活調査等に基づき、被災者の健康課題の明確化を図り、対策につなげる。		
知 識 ・ 態 度 ・ 技 術	1)復旧・復興期に生じ易い被災者の健康問題及び生活上の問題の理解		
	2)被災者の居住先が分散化する状況下での持続的なヘルスニーズ把握のための方法の構築		
	3)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討		
	4)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解		
	5)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討		

Ⅲ-3. 被災地域住民への長期的な健康管理の体制づくり			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テンシー	(50)要配慮者の応急仮設住宅等への移動後の生活状況とヘルスニーズを把握する。		
	(51)継続支援が必要な住民の選定基準を明確にし、関係者と連携した支援体制を構築する。		
	(52)健診等の結果や健康実態調査等の情報を活用して被災者の健康状態を持続的に把握すると共に必要に応じて個人・家族に支援を行う。		
知識・ 態度・ 技術	1)復旧・復興期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識・技術		
	2)継続支援が必要な住民の選定基準		
	3)住民の長期的な健康管理に活用できる情報源及び地域資源の理解		
	4)住民の長期的な健康管理に対する市町村と保健所との重層的な役割分担		
	5)関係者との連携による持続的な支援体制づくり		
Ⅲ-4. 生活再建・コミュニティへの支援			
活動場所：応急仮設住宅等の被災者の居住先地域			
コンピ テンシー	(53)応急仮設住宅入居者、自宅滞在者などが生活再建に向けて自助力・共助力を高めることを支援する。		
	(54)地域の文化、地域住民の気質・価値観などの尊重と配慮について支援者間で共有を図る。		
	(55)被災地・被災者のみならず住民全体の支援ニーズを踏まえた活動を行う。		
	(56)生活不活発病や閉じこもり予防のための活動を企画・実施する。		
	(57)生活圏域を単位に住民や関係者と連携・協働した地域活動の企画実施を行う。		
知識・ 態度・ 技術	1)支援団体・ボランティアによる支援と被災者の自助力の見極め		
	2)地域の強みや弱み、地域資源に関する地域診断		
	3)住民の自助力・共助力を活かした地域活動の技術		
	4)民間の支援団体を含む分野を超えた多様な立場の関係者との連携		

【IV 静穏期（平常時の備えの時期）】

1:できていない 2:あまりできていない 3:おおむねできている 4:できている

実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び 必要な知識・技術・態度の内容		チェック日 (年月日)		
IV-1. 地域住民や関係者との協働による防災・減災の取り組み				
活動場所：地域活動				
コンピテンシー	(58)災害を想定した場合の地域の健康問題及び支援対応の脆弱性や強みに関するアセスメントを行う。			
	(59)アセスメント結果に基づき、住民や関係者との協働による防災・減災に対する取組計画を策定する。			
	(60)平時の保健福祉事業の場に、災害対応について住民と共に考える機会を織り込む。			
	(61)平常時のかかわりを通じて、災害時の健康支援への協力者となりうる地域住民や地元の関係者と保健師との信頼関係を構築する。			
知識・技術・態度	1)災害を想定した場合の地域の脆弱性や強みに関する地域診断			
	2)保健福祉事業の場の活用による、災害対応について住民と共に考える機会の企画・実施・評価			
	3)住民や地元の関係者との信頼関係の構築及び有事における連携協働のイメージの構築			
活動場所：地域活動				
コンピテンシー	(62)要配慮者の災害時の避難行動や避難所での生活を想定した場合の地域の脆弱性や強みをアセスメントする。			
	(63)災害時における共助について住民や関係者と共に考える場を企画する。			
知識・技術・態度	1)災害時対応を想定した場合の要配慮者に対する地域の脆弱性や強みに関する地域診断			
	2)災害時の共助について住民及び関係者と共に考える場の企画・実施・評価			
IV-2. 災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映				
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー	(64)地域防災計画から、災害時の保健師の位置づけを確認する。			
	(65)地域防災計画と災害時保健活動マニュアル等の実施計画との関連及び整合性を図る。			
知識・技術・態度	1)所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解			
	2)職能を活かした災害時の活動体制の実質化を図るための庁内での合意形成への参画			
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー	(66)被害想定に基づき、受援の内容や方法について、全ての災害サイクルに対して、その意義や必要性を確認する。			
	(67)応援・受援に関する計画を立案し組織で共有する。			
	(68)地域防災計画、所属部署の災害時活動マニュアルに受援体制を位置づける。			
知識・技術・態度	1)応援・受援計画の立案への参画			
	2)地域防災計画及び災害時活動マニュアルへの受援計画の明文化と庁内での共有への参画			

IV-3. 要配慮者への災害時の支援計画立案と関係者との連携の促進				
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(69)要配慮者の情報の管理体制・活用方法について関係者間で共有を図る。			
	(70)要配慮者の個別支援計画を当事者及び関係者と共に立案する。			
	(71)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための方策を企画・実施・評価し、自治体の施策として取り組むべきことを明確にする。			
知識・ 態度 技術	1)要配慮者の個別の災害時支援計画の立案			
	2)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための訓練等の方策の企画・実施・評価			
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(72)要配慮者への災害時支援マニュアル等を作成し関係者間で共有する。			
	(73)要配慮者避難支援連絡会議等の平時からの設置と連絡会の役割、業務等の検討を行う。			
	(74)災害時要配慮者名簿の活用方法について関係関連部署での合意を図る。			
	(75)要配慮者への医療介護等に関与している関係者と各種の協議会等を通じて、平時から組織的な連携強化を図る。			
知識・ 態度 技術	1) 災害サイクルを通じて要配慮者に必要とされる促しと関係者間の支援についての共通認識の形成の場への参画			
IV-4. 災害支援活動を通じた保健師の専門性の明確化				
活動場所：保健活動拠点				
コンピ テン シー	(76)災害時の活動経過を検証するために記録や資料を整理する。			
	(77)災害時の対応経験を振り返り意味づけを行うことを通じて学びと教訓を得る。			
	(78)災害時の活動経験を人材育成に活かす。			
知識・ 態度 技術	1)災害対応経験の振り返りと意味づけを行う場や機会の創出			
	2)災害時の対応経験を人材育成につなげるための研修の企画・実施			
IV-5. 自身及び家族の災害への備え				
活動場所：自宅、保健活動拠点				
コンピ テン シー	(79)災害時の自身の安全確保や健康維持のために必要な物資を備蓄する。			
	(80)災害発生時の家族間の安否確認方法、居住地の避難所及び避難経路等を確認しておく。			
	(81)勤務中に災害が発生した時の対応についてあらかじめ家族間で話し合っておく。			
知識・ 態度 技術	1)災害発生時に自身や家族に起こりうる状況の理解			
	2)個人の安全・健康維持に必要な物品の理解			
	3)家族間の安否確認・連絡方法に対する理解			

<p>令和2-3年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業） 「市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上のための 教育教材及びその活用マニュアルの作成と検証」 市町村保健師の災害時保健活動遂行能力向上に係る教育教材活用のためのマニュアル</p>		
研究代表者	春山 早苗	自治医科大学看護学部・教授 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159 TEL/FAX 0285-58-7509
研究分担者	安齋由貴子 牛尾 裕子 奥田 博子 島田 裕子 江角 伸吾	宮城大学看護学群・教授 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻・教授 国立保健医療科学院・上席主任研究官 自治医科大学看護学部・准教授 自治医科大学看護学部・講師
研究協力者	石谷 絵里 尾島 俊之 宮崎美砂子 浅田 義和	北海道立江差刺高等看護学院・学院長 浜松医科大学健康社会医学講座・教授 千葉大学大学院看護学研究院看護学研究科 生活創世看護学研究部門地域創成看護学講座・教授 自治医科大学医学部・准教授

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
安齋由貴子, 春山早苗	国内外の災害時保健活動に関する教育研修方法に関する文献レビュー	第10回日本公衆衛生看護学会学術集会プログラム・講演集		115	2022